AVG File Server 2011

ユーザー マニュアル

ドキュメント改訂 2011.01 (20. 9. 2010)

Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.
他のすべての商標はそれぞれの所有者に帰属します。

この製品は、RSA Data Security, Inc. の MD5 Message- Digest Algorithm を使用しています。Copyright (C) 1991- 2, RSA Data Security, Inc. Created 1991
この製品は、C- SaCzech libraryのコードを使用しています。Copyright (c) 1996- 2001 Jaromir Dolecek (dolecek@ics.muni.cz).
この製品は、圧縮ライブラリzlib を使用しています。Copyright (c) 1995- 2002 Jean- loup Gailly and Mark Adler.
この製品は、圧縮 ライブラリlibbzip2 を使用しています。Copyright (c) 1996- 2002 Julian R. Seward.

目次

AVG File Server 2011 © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

AVG File Server 2011 © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

AVG File Server 2011 © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

AVG File Server 2011 © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

1. はじめに

このユーザー マニュアルは、**AVG File Server 2011** の包括的なマニュアルです。

AVG File Server 2011 をご購入いただき、どうもありがとうございます。

AVG File Server 2011は、コンピュータの総合的なセキュリティを提供するように設計された、受賞経験のある AVG 製品の 1 つです。すべての AVG 製品と同様に、AVG の信頼性のあるセキュリティ機能をより分かりやすく、効率的な方法で提供するために、**AVG File Server 2011** は完全に再設計されました。新しい **AVG File Server 2011** 製品は、合理化されたインターフェースとより積極的で高速化されたスキャンを提供します。より多くのセキュリティ機能が自動化され便利になりました。新しい「インテリジェント」ユーザーオプションが搭載され、セキュリティ機能をカスタマイズしやすい製品となりました。妥協のないユーザビリティを提供します。

AVGは、コンピュータとネットワークアクティビティの保護を目的として設計、開発されています。AVGによる完全な保護をぜひ体感してください。

すべての AVG 製品提供

- インターネット バンキング、インターネット ショッピング、閲覧、検索、チャット、電子メール、ファイルのダウンロード、ソーシャル ネットワークなど、あらゆるコンピュータの利用環境でユーザーを保護します。AVG はユーザーのニーズに最適な製品を提供しています。
- 世界中の 1 億 1,000 万人ものユーザーが AVG の保護を信頼しています。AVG のソリューションは世界中に広がる経験豊富な研究者のネットワークによって開発されています。また、導入も簡単です。
- 24 時間年中無休で専門技術者が AVG の保護を支えています。

AVG File Server 2011 c 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

2. AVG インストール要件

2.1. 対応オペレーティング システム

AVG File Server 2011 は、次のオペレーティング システムで稼動するワークステーションとサーバーの保護を目的としています。

- Windows 2003 Server および Windows 2003 Server x64 Edition
- Windows 2008 Server および Windows 2008 Server x64 Edition

(また、特定のオペレーティング システム用サービス パック)

2.2. 最低および推奨ハードウェア要件

AVG File Server 2011 の最低ハードウェア要件:

- Intel Pentium CPU 1,5 GHz
- 512 MB の RAM メモリ
- ハードディスク空き容量 470MB以上 (インストールのため)

AVG File Server 2011 の推奨ハードウェア要件:

- Intel Pentium CPU 1,8 GHz
- 512 MB の RAM メモリ
- ハードディスク空き容量 600MB以上 (インストールのため)

3. AVG インストール オプション

インストール CD にあるインストール ファイルを使用して AVG をインストールできます。あるいは、AVG Web サイト (http://www.avg.com) から最新のインストール ファイルをダウンロードしてインストールできます。

AVG のインストールを開始する前に、AVG の Web サイト (http://www.avg.com) で最新のインストール ファイルを確認することを強くお勧めします。このような手順によって、確実に利用可能な最新バージョンの AVG File Server 2011 をインストールできます。

インストール処理中にはライセンス番号を入力する必要があります。インストールを開始する前にライセンス番号/セールス番号を準備してください。セールス番号は CD のパッケージに記載されています。AVG をオンラインで購入した場合は、ライセンス番号がメールで送信されます。

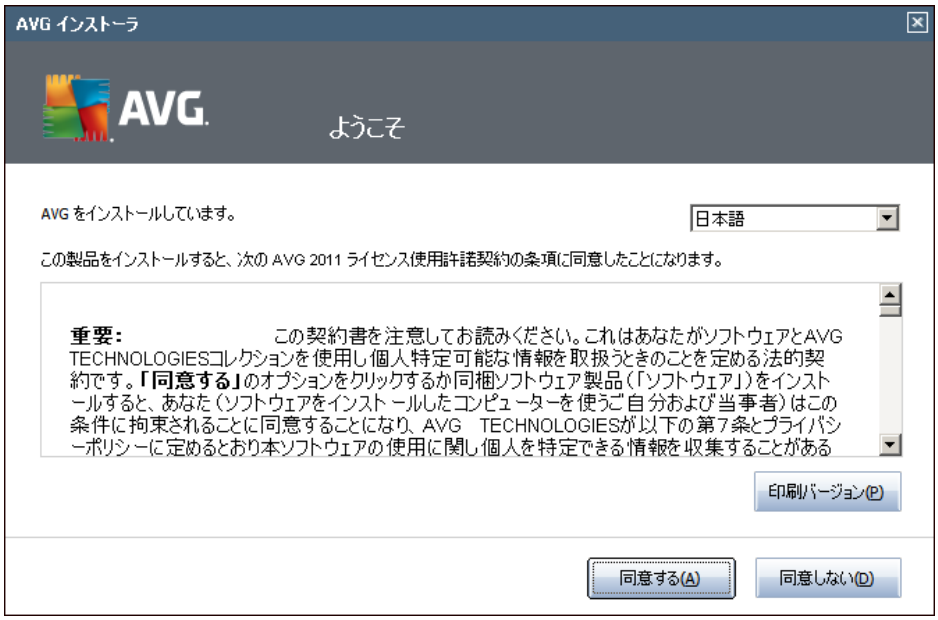
4. AVG インストール処理

コンピュータに**AVG File Server 2011** をインストールする場合は、最新のインストール ファイルを取得する必要があります。パッケージ版内のCDからインストールファイルを使用できますが、このファイルは古い場合があります。したがって、最新のインストールファイルをオンラインで入手することを推奨します。AVG ウェブサイト (http://www.avg.com) の***サポート センター/ ダウンロード*** セクションからファイルをダウンロードできます。

インストールは、各ステップの簡潔な操作を記載した一連のダイアログで構成されます。以下は、各ダイアログの説明です。

4.1. ようこそ

インストール処理で最初に開くウィンドウは [***ようこそ***] ダイアログです。このダイアログでは、インストール処理の言語とAVG ユーザー インターフェースの既定の言語を選択します。 ダイアログ ウィンドウの上部には、言語リスト ドロップダウン メニューが表示され、任意の言語を選択できます。



***注意**: ここで選択する言語はインストール処理で使用する言語です。ここで選択する言語は AVG ユーザー インターフェースの既定の言語としてインストールされます。また、英語も自動的にインストールされます。他の言語をインストールしてユーザー インターフェースで使用する場合は、[**カスタム オプション**] セットアップ ダイアログで定義してください。*

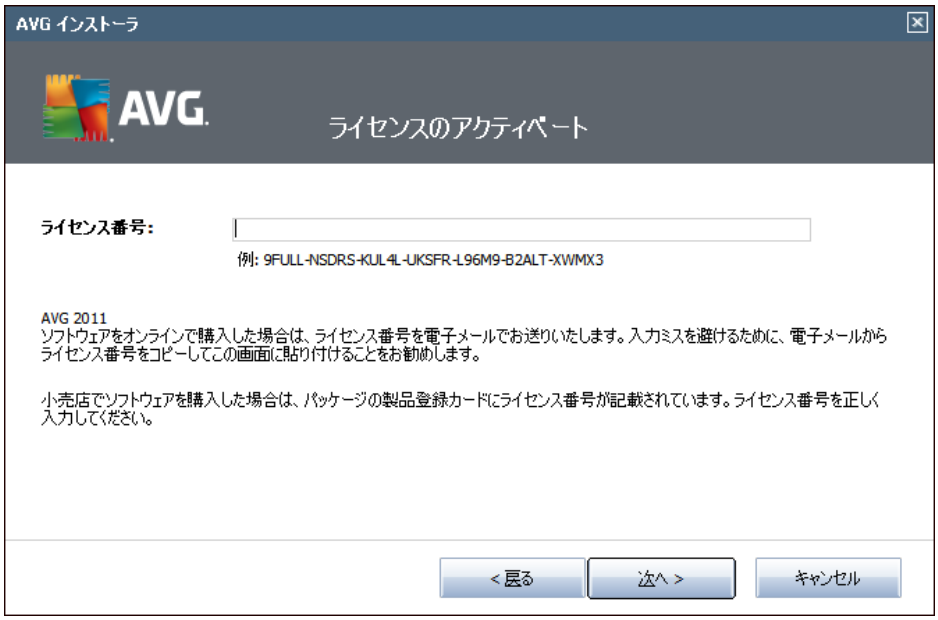
さらに、AVG 使用許諾契約の全文が表示されます。よくお読みください。全文をよく読み、内容を理解した上で、この使用許諾契約に同意する場合は、[***同意する***] ボタンをクリックします。使用許諾契約に同意しない場合は、[***同意しない***] ボタンをクリックします。インストール処理がただちに中断されます。

AVG File Server 2011 c 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

4.2. AVG ライセンスのアクティベート

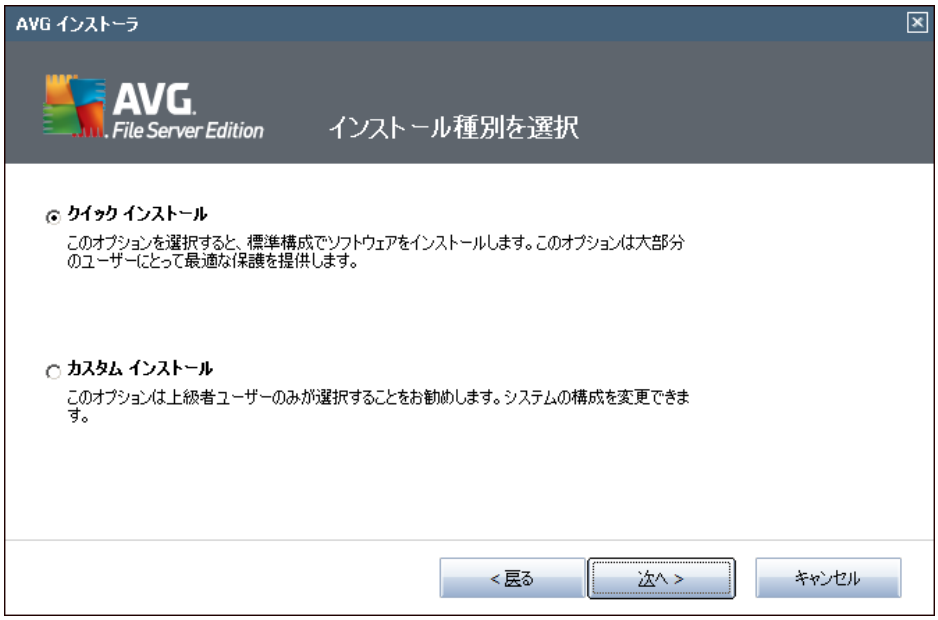
[***ライセンスのアクティベート***] ダイアログでは、指定されたテキスト フィールドにライセンス番号を入力するように指示されます。

セールス番号は、**AVG File Server 2011** ボックスの CD パッケージに記載されています。ライセンス番号は**AVG File Server 2011**をオンラインで購入後に受信する確認メールに記載されています。この番号を記載通り正確に入力してください。デジタル形式のライセンス番号が利用できる (*メールで*) 場合は、コピーとペーストを使用して、それを入力することを推奨します。



次へボタンをクリックし、インストールプロセスを継続します。

4.3. インストール種別の選択



[***インストール種別の選択***] ダイアログでは、[***クイック インストール***] と [***カスタム インストール***] の 2 つのインストール オプションから選択できます。

通常ユーザーの場合は、標準の [***クイック インストール***] を選択し、プログラム ベンダーが事前定義した設定を使用して AVG を自動モードでインストールすることが強く推奨されます。この設定は、最適なリソース消費で最大のセキュリティを実現します。将来的に設定の変更の必要が生じた場合は、いつでも AVG アプリケーションで直接変更できます。[***クイック インストール***] オプションを選択した場合は、[***次へ***] ボタンをクリックして、次の [***インストールの進行状況***] ダイアログに進みます。

カスタム インストールは、AVG を標準設定でインストールしない合理的な理由がある場合、経験のあるユーザーのみが行ってください (特定のシステム要件への適合など)。このオプションを選択したら、[***次へ***] ボタンをクリックして、[***カスタム オプション***] に進みます。

AVG File Server 2011 c 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

4.4. カスタム オプション

[***カスタム オプション***] ダイアログでは 2 つのインストール パラメータを設定できます。

インストール先 フォルダ

ダイアログの [***インストール先 フォルダ***] セクションでは、**AVG File Server 2011** のインストール場所を指定します。既定では AVGは C ドライブの program files フォルダにインストールされます。フォルダが存在しない場合は、AVG プログラムでこのフォルダを作成してもよいかどうかを確認する新しいダイアログが開きます。この場所を変更する場合は、[***参照***] ボタンをクリックしてドライブ構成を表示し、対象フォルダを選択します。

コンポーネントの選択

[***コンポーネント選択***] セクションには、インストール可能なすべての **AVG File Server 2011** コンポーネントの概要が表示されます。既定の設定が適当でない場合は、特定のコンポーネントを追加または削除できます。

ただし、選択できるコンポーネントは購入した AVG 製品に含まれているコンポーネントのみです。

[***コンポーネント選択***] リストの項目を強調表示すると、該当するコンポーネントの簡単な説明がこのセクションの右側に表示されます。

- ***言語選択***

  インストールするコンポーネント内で、AVG のインストールで使用する言語を定義することができ

ます。[***追加でインストールする言語***] 項目にチェックを付け、該当するメニューから任意の言語を選択します。

- ***サーバー アドイン - MS SharePoint 向けドキュメント スキャナ***

このコンポーネントは MS SharePoint に保存されている文書ファイルをスキャンし、潜在的な脅威から文書を保護します。このコンポーネントは **AVG File Server 2011** の重要な機能であるため、インストールすることを強くお勧めします。

- ***AVG 遠隔管理クライアント***

AVG 管理にコンピュータを接続する場合は、各インストール項目にもチェックを付けてください。

- ***設定マネージャ***

AVG 設定マネージャはローカル AVG インストール (遠隔管理で動作していないコンポーネントも含む) を簡単かつ迅速に設定できる小規模アプリケーションです。AVG アプリケーションがインストールされている各コンピュータで AVG 設定マネージャを使用すると、使用する設定ファイル (.pck 形式) を簡単に作成できます。これらのファイルをリムーバブル デバイスにコピーして、各コンピュータで使用できます。また、同じことが AVG 設定マネージャにも当てはまります。このアプリケーションの詳細については、ここをクリックしてください。

[***次へ***] ボタンをクリックして続行します。

4.5. インストールの進行状況

[***インストールの進行状況***] ダイアログにはインストール処理の進行状況が表示されます。ユーザー操作は必要ありません。

インストール処理が完了した後、ウィルス データベースとプログラムが自動的に更新されます。次のダイアログに進みます。

4.6. インストールに成功しました

[***インストールに成功しました***] ダイアログでは、**AVG File Server 2011** が正常にインストールおよび設定されたことを確認できます。

AVG 遠隔管理クライアントのインストールを選択した場合は、次のインターフェースでダイアログが表示されます (カスタム オプションを参照)。

AVG File Server 2011 © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

*AVG DataCenter パラメータを指定する必要があります。『サーバー:ポート』の形式で AVG DataCenter への接続文字列を入力してください。*この時点でこの情報がない場合は、このフィールドを空白にしておくと、後から [高度な設定/遠隔管理] ダイアログで設定できます。AVG 遠隔管理の詳細については、『AVG Business Edition ユーザー マニュアル』を参照してください。このマニュアルは AVG Web サイト (http://www.avg.com) からダウンロードできます。

AVG 2011 Web 安全および製品改善プログラムに参加します... - このチェック ボックスを選択すると、製品改善プログラム (*詳細については、「AVG 高度な設定/製品改善プログラム」の章を参照してください*) に参加することで、検出された脅威に関する匿名情報を提供し、インターネット セキュリティ レベル全体の向上に協力することに同意します。

5. インストール後

5.1. 製品登録

AVG File Server 2011 インストールが終了したら、AVG Webサイト (http://www.avg.com)、[*登録*] ページで*製品のオンライン登録を行ってください*(*画面上の指示にしたがってください*)。登録後、AVGユーザーアカウント、AVGアップデートニュースレター、その他登録ユーザーのみに提供されるサービスが利用できるようになります。

5.2. ユーザー インターフェースへのアクセス

*AVG ユーザー インターフェース*には複数の方法でアクセスできます。

- *AVG システム トレイ アイコン*
- デスクトップの AVG アイコンをダブルクリックします。
- メニューから *[スタート/ すべてのプログラム/ AVG 2011/ AVG ユーザー インターフェース]* の順に選択します。

5.3. 完全コンピュータ スキャン

AVG File Server 2011インストール前にウイルスが感染している可能性あります。このため、*全コンピュータをスキャン*を実行して、PCが感染していないことを確認してください。

*全コンピュータをスキャン*を実行する方法については、*AVG スキャン*の章を参照してください。

5.4. AVG の既定の設定

のデフォルト設定 (*アプリケーションがインストール後に正しく動作するための初期設定*) **AVG File Server 2011** では、すべてのコンポーネントと機能が最適なパフォーマンスで動作するよう設定されています。

特に理由がない場合、AVG の設定を変更しないでください。設定に対するいかなる変更も、経験者ユーザーのみが行うようにして下さい。

*AVG コンポーネント*の基本的な設定は、各コンポーネントのユーザーインターフェースから直接変更することができます。AVG設定を変更する必要がある場合、*AVG 高度な設定*を使用します。システムメニューアイテム*ツール/ 高度な設定*を選択し、*AVG 高度な設定*ダイアログでAVG設定を変更します。

AVG File Server 2011 © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

6. AVG ユーザー インターフェース

AVG File Server 2011 はメイン ウィンドウで開 きます。

メインウィンドウは複数のセクションに分けられます。

- ***システムメニュー*** *(ウィンドウ上のシステムライン)* は標準ナビゲーションであり、すべてのAVGコンポーネント、サービス、機能にアクセスすることができます。 - 詳細 >>
- ***セキュリティステータス情報*** *(ウィンドウ上部のセクション)* には、現在のAVGプログラムのステータスが表示されます。- 詳細 >>
- ***クイックリンク*** *(ウィンドウの左のセクション)* では、最も重要で最も頻繁に使用されるAVGタスクにすぐにアクセスすることができます。 - 詳細 >>
- ***コンポーネント概要*** *(ウィンドウ中央部)* は、インストールされたAVGコンポーネントの概要が表示されます。 - 詳細 >>
- ***統計*** *(ウィンドウ左下部)* では、プログラムに関する統計データが表示されます。- 詳細 >>
- ***システムトレイアイコン*** *(モニター右下端のシステムトレイ)* では、現在のAVGステータスが表示されます。 - 詳細 >>

6.1. システム メニュー

システムメニューは、すべてのWindowsアプリケーションで使用される標準のナビゲーションです。**AVG File Server 2011** メイン ウィンドウの最上部に横方向に表示されます。システムメニューを使用して、AVGの各コンポーネント、機能、サービスにアクセスします。

システムメニューは5つの主要なセクションにわかれています。

6.1.1. ファイル

- ***終了*** - **AVG File Server 2011**のユーザーインターフェースを閉じます。ただし、AVGアプリケーションはバックグラウンドで実行され、コンピュータは保護されます。

6.1.2. コンポーネント

システム メニューの***コンポーネント***には、インストールされたすべての AVG コンポーネントへのリンクが表示されます。リンクをクリックすると、各コンポーネントの既定のダイアログ ページが表示されます。

- ***システム概要*** - インストールされたすべてのコンポーネントとそのステータスの概要を表示します。
- ***サーバー コンポーネント*** - 利用可能なセキュリティ コンポーネントとステータス概要が表示されます - 詳細 >>
- ***ウイルス対策***はコンピュータに侵入しようとするウイルスからコンピュータを確実に保護します。- 詳細>>
- ***スパイウェア対策***はスパイウェアとアドウェアからコンピュータを確実に保護します。 - 詳細 >>
- ***常駐シールド***は、バックグラウンドで実行され、ファイルがコピーされたり、開かれたり、保存される際にそのファイルをスキャンします。 - 詳細>>
- ***更新 マネージャ***はすべての AVG 更新を制御します。 - 詳細>>
- ***ライセンス***には、ライセンス番号、種類、有効期限が表示されます - 詳細 >>
- ***遠隔管理***はインストール処理中にこのコンポーネントのインストールを指定した場合にのみ表示されます。
- ***ルートキット対策***はマルウェアを隠そうとするプログラムと技術を検出します - 詳細>>

6.1.3. 履歴

- ***スキャン結果*** - AVGスキャンインターフェースの***スキャン結果概要***ダイアログを表示します。
- ***常駐シールド検出*** - 常駐シールド***によって検出された脅威の概要ダイアログを開きます。***
- ***ウイルス隔離室*** - 隔離スペース (***ウイルス隔離室***) インターフェースを開きます。AVGは、検出、または何らかの理由で自動修復できなかったすべての感染をここに移動します。隔離室内では、感染ファイルは隔離され、コンピュータの安全は保障されます。同時に感染ファイルは

将来の修復に備えて保存されます。

- ***イベント履歴ログ*** - **AVG File Server 2011すべてのログに記録されたアクション**の概要履歴インターフェースを開きます。

6.1.4. ツール

- ***コンピュータのスキャン*** - AVG スキャン インターフェースに切り替わり、完全コンピュータ スキャンを実行します。
- ***特定のフォルダのスキャン*** - AVG スキャン インターフェースに切り替わり、コンピュータのツリー構造からスキャンするファイルとフォルダを設定できます。
- ***ファイルのスキャン*** - ディスクのツリー構造から特定のファイルを 1 つ指定してオンデマンド スキャンを実行できます。
- ***更新*** - **AVG File Server 2011**
- ***ディレクトリからの更新*** - ローカル ディスクで指定したフォルダの更新ファイルを使用して更新処理を実行します。ただし、このオプションは緊急時にのみ推奨されます。たとえば、インターネットに接続できない場合 (*コンピュータが感染し、インターネットから切断されている状況など。コンピュータはネットワークに接続されているがインターネットアクセスがない場合など*) などです。フォルダの参照ウィンドウで、更新ファイルを保存したフォルダを選択し、更新処理を実行します。
- ***高度な設定*** - [***AVG 高度な設定***] ダイアログが開きます。ここでは**AVG File Server 2011**各項目の設定を編集できます。通常はソフトウェア ベンダーが定義している既定のアプリケーション設定の使用をお勧めします。

6.1.5. ヘルプ

- ***目次*** - AVG ヘルプ ファイルが開きます。
- ***オンライン ヘルプ*** - AVG Free Web サイトのカスタマー サポート センター ページが開きます (http://www.avg.com)。
- ***AVG Web*** - AVG Web サイト (http://www.avg.com) が開きます。
- ***ウイルスと脅威について*** - オンラインの***ウイルス エンサイクロペディア***が開きます。ここでは、検出されたウイルスに関する詳細情報を検索できます。
- ***AVG レスキュー CD のダウンロード*** - Web ブラウザで AVG レスキュー CD ダウンロード ページが開きます。
- ***再アクティベート*** - ***インストール処理***の [***AVG のパーソナライズ***] ダイアログで入力したデータが [AVG のアクティベート] ダイアログに表示されます。このダイアログではライセンス番号を入力してセールス番号 (*AVG をインストールしたときの番号*) を置き換えたり、古いライセンス番号 (*新しい AVG 製品にアップグレードした場合など*) を置き換えたりできます。
- ***今すぐ登録*** - AVG Web サイト (http://www.avg.com) の登録ページに接続します。登録データを入力してください。AVG 製品を登録したお客様のみが無料テクニカル サポートを利用できます。

メモ: *AVG File Server 2011 の試用版を使用している場合は、最後の 2 つの項目が [**今すぐ購入**] および [**アクティベート**] として表示され、完全バージョンの製品をすぐに購入できます。セールス番号を使用して* **AVG File Server 2011** *をインストールした場合は、各項目が [**登録**] および [**アクティベート**] として表示されます。詳細については、このマニュアルの「ライセンス」セクションを参照してください。*

- ***AVG について*** *-* ***情報*** *ダイアログを開きます。このダイアログでは、プログラム名、プログラムとウイルス データベース バージョン、システム情報、ライセンス契約、* ***AVG Technologies CZ*** *の問い合わせ先情報を確認できます。*

6.2. セキュリティ ステータス情報

セキュリティステータス情報 セクションはAVGメインウィンドウの上部にあります。このセクションでは、**AVG File Server 2011**の現在のセキュリティステータスに関する情報が常に表示されます。このセクションで表示されるアイコンの意味は以下の通りです。

 - 緑のアイコンは AVG が完全に機能していることを示します。コンピュータは完全に保護され、最新のインストール済みのコンポーネントが適切に動作しています。

 - オレンジのアイコンは、1 つ以上のコンポーネントが不正に設定され、プロパティ設定に注意する必要があることを警告しています。AVGには致命的な問題はなく、おそらく何らかの理由で一部のコンポーネントをオフにしたものと思われます。コンピュータはAVGによって保護されています。ただし、問題のコンポーネントの設定に注意してください。その名前は ***セキュリティステータス情報*** セクションに表示されます。

このアイコンは、何らかの理由で、コンポーネントのエラー状態を無視することにした場合にも表示されます (*コンポーネント状態を無視] オプションはAVGメインウィンドウのコンポーネント概要にある該当するコンポーネントアイコンを右クリックすると開くコンテキストメニューで利用できます*)。特定の場合にこのオプションを使用する必要があるかもしれませんが、[***コンポーネント状態を無視***] オプションはすぐにオフにすることを強く推奨します。

 - 赤のアイコンはAVGが重大な状況にあることを示しています。1つあるいは複数のコンポーネントが適切に動作しておらず、AVGがコンピュータを保護できません。報告された問題を修復してください。エラーを自分で修復できない場合、AVGテクニカルサポートチームにお問い合わせください。

AVG が最適なパフォーマンスに設定されていない場合は、新しい [修正] ボタン (問題が複数のコンポーネントに関連している場合は [すべてを修正] ボタン) がセキュリティステータス情報の横に表示されます。このボタンをクリックすると、プログラム チェックおよび設定の自動処理が実行されます。これは最適なパフォーマンスに AVG を設定し、最高レベルのセキュリティを実現するための最も簡単な方法です。

セキュリティステータス情報に注意し、問題がレポートされた場合にはすぐに解決することを強く推奨します。そうでない場合、コンピュータが危険にさらされます。

注意 :*AVGステータス情報は、システムトレイアイコンからも取得可能です。*

6.3. クイック リンク

クイック リンク (*AVG ユーザー インターフェースの左側のセクション*) では、最も頻繁に使用される最重要な AVG 機能に直接アクセスできます。

- ***概要*** - このリンクをクリックすると、すべてのインストール済みコンポーネントの概要を表示する既定のインターフェースへ切り替わります。 [***コンポーネント概要***」の章を参照してください。>>
- ***今すぐスキャン*** - 既定ではこのボタンをクリックすると、前回実行したスキャンの情報 (*スキャン タイプ*、*前回実行日*) が表示されます。[***今すぐスキャン***] コマンドを実行して同じスキャンを再度実行するか、[***コンピュータ スキャン***] リンクをクリックして、AVG スキャン インターフェースを表示できます。AVG スキャン インターフェースでは、スキャンの実行、スキャンのスケジュール作成、パラメータの編集ができます。 [***AVG スキャン***」の章を参照してください。>>
- ***今すぐ更新*** - このリンクをクリックすると、前回の更新処理実行日が表示されます。このボタンをクリックすると、更新インターフェースが開き、AVG 更新処理がただちに実行されます「***AVG 更新***」の章を参照してください。>>
- ***サーバー コンポーネント*** - このリンクをクリックすると、[***サーバー コンポーネント概要***] が表示されます。

これらのリンクはユーザー インターフェースで使用できます。一度、クイック リンクを使用して特定のプロセスを実行すると、GUI は新しいダイアログに切り替わりますが、クイック リンクはまだ利用できます。さらに、実行中のプロセスはよりグラフィカルに表示されます。

6.4. コンポーネント概要

[***コンポーネント概要***] セクションはAVG ユーザー インターフェースの中央部にあります。このセクションは 2 つに分かれます。

- パネル上にインストール済みコンポーネントの概要がアイコン表示されるとともに、各コンポーネントの有効/無効状態が表示されます。
- 選択したコンポーネントの説明

AVG File Server 2011 の [***コンポーネント概要***] セクションには、次のコンポーネントの情報が示されます。

- ***ウイルス対策*** はコンピュータに侵入しようとするウイルスからコンピュータを確実に保護します。 - 詳細>>

AVG File Server 2011 c 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

- ***スパイウェア対策*** はスパイウェアとアドウェアからコンピュータを確実に保護します。 - 詳細 >>

6.5. サーバーコンポーネント

[***サーバー コンポーネント***] セクションはAVG ユーザー インターフェースの中央部にあります。このセクションは 2 つに分かれます。

- パネル上にインストール済みコンポーネントの概要がアイコン表示されるとともに、各コンポーネントの有効/無効状態が表示されます。
- 選択したコンポーネントの説明

AVG File Server 2011 の [***サーバー コンポーネント***] セクションには、次のコンポーネントの情報が示されます。

- ***SharePoint*** は MS SharePoint に保存されているドキュメントをスキャンし、想定される脅威に対する保護を提供します。 - 詳細 >>

任意のコンポーネント アイコンをクリックすると、コンポーネント概要のコンポーネントが強調表示されます。同時に、コンポーネントの基本機能説明がユーザー インターフェースの下部に表示されます。アイコンをダブルクリックすると、コンポーネントのインターフェースが開き、基本統計情報データの一覧が表示されます。

コンポーネントのアイコンを右クリックし、コンテキスト メニューを展開します。コンポーネントのグラフィック インターフェースを開き、***コンポーネント状態を無視***することもできます。特別な理由がある場合にこのオプションを選択すると、コンポーネントのエラー状態を認識しながらも、システム トレイ アイコン変更による警告を表示せずに AVG のエラー状態を保持できます。

6.6. 統計

AVG ユーザーインターフェースの左下部には[***統計***] セクションがあります。これはプログラム操作に関する情報のリストを提供します。

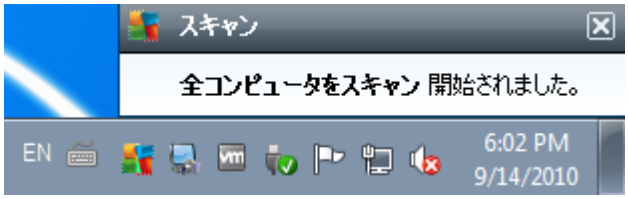
- ***ウイルス DB*** - 現在インストール済みのウイルスデータベースのバージョンを表示します。
- ***AVG バージョン*** - インストール済みの AVG のバージョンを表示します (*番号は、10.0.xxx の形式で表示されます。10.0 は製品ライン バージョンであり、xxx はビルド番号を表します*)。
- ***ライセンス有効期限*** - AVGライセンスの有効期限を表示します。

6.7. システム トレイアイコン

システム トレイ アイコン (*Windows タスクバー上*) は、**AVG File Server 2011** の現在の状態を示します。このアイコンは、AVG のメイン ウィンドウが表示されているかどうかにかかわらず、システム トレイ上に常に表示されます。

全色の場合 、***システム トレイ アイコン***はすべての AVG コンポーネントが有効であり、完全に機能していることを意味します。また、AVG システムトレイアイコンは、AVG がエラー状態にある場合にも全色で表示されますが、ユーザーはこの状況を完全に認識しており、慎重に***コンポーネント状態を無視***することを決定しています。アイコンとエクスクラメーション マークは、問題を示します (*非アクティブなコンポーネント、エラー状態など*)。 ***システムトレイアイコン***をダブルクリックして、メインウィンドウを開き、コンポーネントを編集します。

さらに、システムトレイアイコンは現在のAVGの活動およびプログラムの可能性のあるステータス変更 (*例：スケジュール済みのスキャンあるいはアップデートの自動起動、コンポーネントステータス変化、エラーステータス発生等*) もAVGシステムトレイアイコンから開かれるポップアップウィンドウで通知します。



システムトレイアイコンはまた、クイックリンクとしても使用され、アイコンをダブルクリックすることでAVGメインウィンドウにいつでもアクセスできます。***システムトレイアイコン***を右クリックすると、以下のオプションの簡単なコンテキストメニューを開きます。

- ***AVG ユーザーインターフェースを開く*** - クリックするとAVGユーザーインターフェースが表示され

AVG File Server 2011 © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

ます。

- ***スキャン*** - クリックすると、定義されたスキャン のコンテキスト メニュー (*完全 コンピュータ スキャン*、*特定 のファイルまたはフォルダをスキャン*、*ルートキット対策 スキャン*) が開 きます。目 的 のスキャンを選 択 すると、すぐにスキャンが実 行 されます。

- ***実 行 中 のスキャン*** - 現 在 コンピュータでスキャンが実 行 されている場 合 にのみこの項 目 が表 示 されます。この場 合 、スキャンの優 先 度 の設 定 、実 行 中 のスキャンの停 止 または一 時 停 止 を実 行 できます。さらに、*すべてのスキャンの優 先 度 の設 定*、*すべてのスキャンの一 時 停 止*、*すべてのスキャンの停 止* アクションも実 行 できます。

- ***今 すぐアップデート*** - すぐにアップデートを起 動 します。

- ***ヘルプ*** - スタート ページにヘルプ ファイルが開 きます。

7. AVGコンポーネント

7.1. ウィルス対策

7.1.1. ウィルス対策の原理

ウイルス対策ソフトウェアのスキャン エンジンはすべてのファイルとファイル操作 (ファイルを開く/閉じるなど) をスキャンし、既知のウィルスの存在をチェックします。検出されたすべてのウイルスの動作はブロックされ、ウィルス自体は除去または隔離されます。大部分のウイルス対策ソフトウェアではヒューリスティック スキャンも使用されています。これにより、ファイルは一般的なウイルスの特性 (ウイルス シグネチャ) に基づいてスキャンされます。このため、新種のウィルスに既存のウィルスの一般的な特性が含まれる場合は、新種の未知のウィルスでもウィルス対策スキャナによって検出できます。

ウイルス対策保護の重要な機能は、コンピュータ上での既知のウイルスの実行が防止されるという点です。

1 つの技術だけではウイルスの検出や特定ができない場合、***ウイルス対策***は複数の技術を統合して、コンピュータがウイルスから保護されていることを保証します。

- スキャン - ウィルス特性文字列の検索
- ヒューリスティック分析 - 仮想コンピュータ環境におけるスキャン オブジェクト命令の動的エミュレーション
- 一般検出 - ウイルス/ウイルスグループの命令特性の検出

また、AVG はシステム内の不審な実行可能アプリケーションや DLL ライブラリの分析や検出もできます。このような脅威は不審なプログラムと呼ばれます (各種スパイウェア、アドウェアなど)。さらに、AVG はシステムレジストリをスキャンして、不審なエントリ、インターネット一時ファイル、tracking cookies の存在をチェックするため、あらゆる潜在的に有害なアイテムを他の感染と同様に処理できます。

7.1.2. ウイルス対策インターフェース

ウイルス対策 コンポーネントのインターフェースには、コンポーネントの機能に関する基本情報、コンポーネントの現在のステータスに関する情報 (*ウイルス対策 コンポーネントはアクティブです*)、な ***ウイルス対策*** 統計情報の概要が表示されます。

- ***ウイルス定義数*** - ウイルス データベースの最新バージョンで定義されているウイルス数を示す番号が表示されます。
- ***データベース リリース*** - ウィルス データベースが最後に更新された日時を指定します。
- ***データベース バージョン*** - 現在インストールされているウィルス データベースのバージョン番号が表示されます。この番号はウィルス ベースが更新されるたびに増加します。

このコンポーネントのインターフェースで利用できる操作ボタンは 1 つです (***戻る***)。このボタンをクリックすると、既定の AVG ユーザー インターフェース (*コンポーネント概要*) に戻ります。

7.2. スパイウェア対策

7.2.1. スパイウェア対策の原理

通常、スパイウェアはマルウェアの一種として定義され、ユーザーが知らない間に許可なくコンピュータから情報を収集します。一部のスパイウェア アプリケーションは、故意にインストールされることもあり、広告、ウィンドウ ポップアップ、その他の不快なソフトウェアを含む場合があります。

現在、最も一般的な感染原因は潜在的に危険な内容を含む Web サイトです。電子メールなどによる感染、ワームやウィルスによる感染なども広がりつつあります。最も効果的な保護方法は、常にバックグラウンド スキャナをオンにして、***スパイウェア対策*** を使用することです。このコンポーネントは常

駐シールドのように機能し、アプリケーションの実行時にバックグラウンドでスキャンします。

また、AVG のインストール前にマルウェアがコンピュータに侵入した場合や、最新のデータベースおよびプログラム更新を使用して **AVG File Server 2011** を最新の状態に維持していない場合も潜在的なリスクとして考えられます。このため、AVG のスキャン機能を使用してマルウェアやスパイウェアを検出できます。また、休止状態でアクティブではないマルウェアも検出されます。したがって、ダウンロードされた後アクティブ化されていないマルウェアも検出されます。

7.2.2. スパイウェア対策インターフェース

スパイウェア対策 コンポーネントのインターフェースには、コンポーネントの機能に関する概要情報、コンポーネントの現在のステータスに関する情報、***スパム対策*** 統計情報が表示されます。

- ***スパイウェア定義数*** - 最新のスパイウェア データベース バージョンで定義されたスパイウェアサンプル数が表示されます。
- ***データベース リリース*** - スパイウェア データベースが最後に更新された日時を指定します。
- ***データベース バージョン*** - 最新のスパイウェア データベース バージョン番号が表示されます。この番号はウィルス ベースが更新されるたびに増加します。

このコンポーネントのインターフェースで利用できる操作ボタンは 1 つです (***戻る***)。このボタンをクリックすると、既定の AVG ユーザー インターフェース (*コンポーネント概要*) に戻ります。

7.3. 常駐シールド

7.3.1. 常駐シールドの原理

常駐シールドコンポーネントはコンピュータに継続した保護を提供します。開く、保存、コピー処理対象となるすべてのファイルをスキャンすることで、コンピュータのシステム領域を保護します。***常駐シールド***がアクセスされるファイルにウイルスを検出する場合、現在実行されている操作を停止し、ウイルスが活性化しないようにします。通常、「バックグラウンド」で実行されるため、このプロセスに気づくことはありません。脅威が検出された場合のみ通知されます。同時に、常駐シールドは脅威のアクティブ化をブロックし、それを除去します。***常駐シールド***は、システムの起動中にコンピュータメモリにロードされます。

常駐シールドでできること:

- 脅威のスキャン
- リムーバル メディアのスキャン (*フラッシュ ディスクなど*)
- 特定の拡張子を持つファイルや拡張子のないファイルのスキャン
- スキャン例外の設定　　スキャンされない特定のファイルやフォルダ

警告 :常駐シールドはシステム起動時にコンピュータのメモリ内にロードされます。したがって、常にそのスイッチを入れておくことが極めて重要です。

7.3.2. 常駐シールド インターフェース

常駐シールド機能の概要とコンポーネント ステータス情報だけではなく、***常駐シールド*** インターフェースには統計情報データも表示されます。

- ***常駐シールド実行時間*** - コンポーネントが起動している時間
- ***検出およびブロックされた脅威*** - 検出後に実行や開く操作がブロックされた感染の数 (*統*

計目的など必要に応じてこの値をリセットできます - 値のリセット)。

常駐シールド設定

ダイアログの下部には [***常駐シールド設定***] セクションがあります。ここではコンポーネントの機能の基本設定 (*他のコンポーネントと同様にシステム メニューのファイル/高度な設定*で詳細設定が可能です) を編集できます。

[***常駐シールドを有効にする***] オプションでは、常駐保護のオン/オフを簡単に切り替えることができます。既定ではこの機能はオンとなっています。常駐シールドをオンにすると、検出された感染の処理 (除去) 方法を決定できます。

- 自動 (***すべての脅威を自動的に除去***)
- あるいはユーザー許可の後のみ (***脅威を削除する前に確認する***)

この選択はセキュリティレベルに影響しません。

いずれの場合も、***Tracking Cookie*** をスキャンするかどうかを選択できます。必要に応じてこのオプションをオンにして、セキュリティレベルを最大限に変更できます。既定ではオフになっています。 (*cookie とはサーバーから Web ブラウザに送信され、そのサーバーにアクセスするたびにブラウザによって変更されずに返信されるテキストのことです。HTTP cookie は認証トラッキング、サイトの好み、電子ショッピング カートの内容といったユーザーに関する特定の情報を保持するために使用されます*)。

***メモ**: すべての AVG コンポーネントは最適なパフォーマンスを実現できるようにあらかじめ設定されています。特に理由がない場合は AVGの設定を変更しないでください。設定変更は上級者ユーザーが行うことをお勧めします。AVG の設定を変更する必要がある場合は、システム メニュー項目の [**ツール/高度な設定**] を選択し、[AVG 高度な設定ダイアログで設定を編集します。*

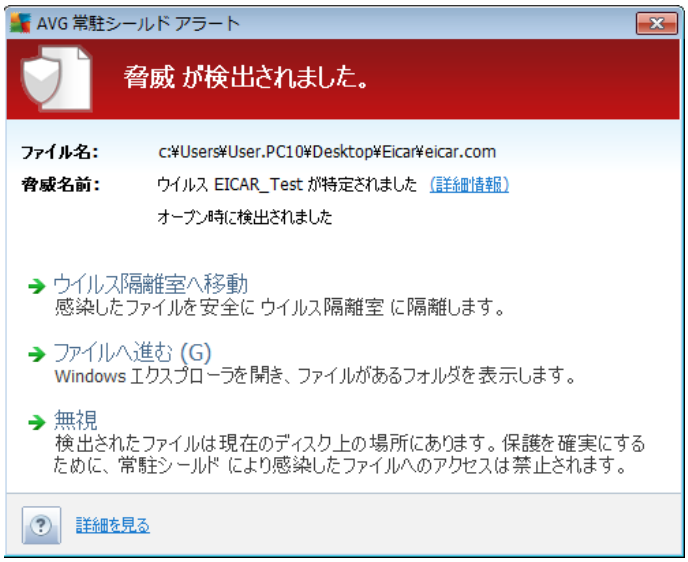
コントロール ボタン

常駐シールド インターフェースで利用できるコントロール ボタンは次のとおりです。

- ***例外の管理*** - [***常駐シールド - 例外ディレクトリ***] ダイアログが開きます。このダイアログでは、***常駐シールド*** スキャンから除外するフォルダとファイルを定義します。
- ***変更の保存*** - このボタンをクリックすると、ダイアログで行われた変更を保存して適用します。
- ***キャンセル*** - このボタンをクリックすると、既定の ***AVG ユーザー インターフェース*** (*コンポーネント概要*) に戻ります。

7.3.3. 常駐シールド検出

常駐シールドは、ファイルがコピー、オープン、保存される時にファイルをスキャンします。ウイルスや何らかの種類の脅威が検出されると、以下のダイアログ経由で即時に警告が表示されます。



警告ダイアログでは、検出され感染と判定されたファイルに関するデータ(*ファイル名*)、認識された感染名(*脅威名*)、既知の脅威の場合に検出された脅威に関する詳細情報を確認できる(*詳細情報*)***ウィルス エンサイクロペディア***へのリンクが表示されます。

さらに、この時点で実行するアクションを選択する必要があります。次の選択肢があります。

特定の条件(感染したファイルの種類やファイルの場所)によっては、利用できないオプションがあります。

- ***パワーユーザーとして脅威を除去*** 一般ユーザーとして脅威を除去する権限がない場合はボックスにチェックをします。パワーユーザーにはより強いアクセス権限があります。脅威がシステムフォルダにある場合等、このチェックボックスを使用して除去する場合があります。
- ***修復*** - 検出された感染が修復可能な場合にのみこのボタンが表示されます。これで感染がファイルから削除され、ファイルが元の状態に復元されます。ファイル自体がウィルスでアル場合は、この機能を使用してウィルスを削除(***ウィルス隔離室に移動***)します。
- ***ウイルス隔離室に移動*** - ウイルスは AVG ***ウイルス隔離室に移動します。***
- ***ファイルに移動*** - このオプションは不審なオブジェクトの正確な場所に移動します(*新しい Windows Explorer ウィンドウを開きます*)
- ***無視*** - しかるべき理由がない場合は、このオプションを使用しないでください。

ダイアログの下部には[***詳細を表示する***]リンクがあります。このリンクをクリックすると、ポップアップウィンドウが開き、感染の検出時に実行していたプロセスに関する詳細情報およびプロセス ID が表示されます。

常駐シールドによって検出されたすべての脅威の概要は、システム メニュー オプションの [***履歴/ 常駐シールド検出***] の [***常駐シールド検出***] ダイアログに表示されます。

常駐シールド検出では、常駐シールド***によって検出され***、修復あるいは***ウイルス隔離室***に移動されたオブジェクトの概要が表示されます。検出された各オブジェクトについて、以下の情報が提供されます。

- ***感染*** - 検出されたオブジェクトの説明（可能な場合は名前も）
- ***オブジェクト*** - オブジェクトの場所
- ***結果*** - 検出されたオブジェクトで実行されたアクション
- ***検出時刻*** - オブジェクトが検出された日時
- ***オブジェクトタイプ*** - 検出されたオブジェクトの種類
- ***プロセス*** - 呼び出すために実行されたアクション

ダイアログの下部では、リストの下に上記でリストされた検出オブジェクトの総数に関する情報が表示されます。さらに、検出オブジェクトの完全なリストをファイルにエクスポート（***ファイルにエクスポート***）し、検出オブジェクトのすべてのエントリを削除（***リストを空にする***）ことができます。[***リストを更新***] ボタンは***常駐シールド***の検出結果リストを更新します。[***戻る***] ボタンをクリックすると、既定の ***AVG ユーザー インターフェース（*コンポーネント概要*）に戻ります。

7.4. アップデート マネージャ

AVG File Server 2011 © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

7.4.1. アップデート マネージャの原理

更新が定期的に実行されていない場合、セキュリティ ソフトウェアは脅威からの保護を保証できません。ウイルス作成者はソフトウェアとオペレーティング システムの両方の欠陥を常に探して、それを利用しようとしています。新しいウイルス、新しいマルウェア、新しいハッキング攻撃は日々出現しています。このため、ソフトウェア ベンダーは更新とセキュリティパッチを継続的に発行し、発見されたセキュリティホールを修正しています。

AVG を定期的に更新することは非常に重要です。

更新マネージャを使用することで定期的な更新を管理できます。このコンポーネントでは、インターネットまたはローカル ネットワークからの更新 ファイルの自動ダウンロードをスケジュールできます。可能な限り、ウイルス定義更新を毎日実行してください。緊急度の低いプログラム更新は週次で実行してもかまいません。

***メモ**: 更新の種類とレベルの詳細については、 AVG 更新」の章を参照してください。*

7.4.2. アップデート マネージャ インターフェース

アップデート マネージャのインターフェースにはコンポーネントの機能、現在のステータスに関する情報、関連統計情報データが表示されます。

- ***最終アップデート*** - データベースが最後にアップデートされた日時が表示されます。
- ***ウィルス データベース バージョン*** - 現在インストールされているウィルス データベースのバージョン番号が表示されます。この番号はウィルス ベースが更新されるたびに増加します。
- ***次回のスケジュール済みアップデート*** - データベースが再度アップデートされるようにスケジュールされている日時

アップデート マネージャ設定

ダイアログの下部では、***アップデートマネージャ設定***セクションが表示され、ここでは、アップデートプロセスの実行ルールの一部を変更することができます。アップデートファイルのダウンロードを自動的に実行するか（***自動アップデート開始***）、またはオンデマンドで実行するかを指定します。デフォルトでは、***自動アップデート開始***オプションはオンであり、この設定を保持することを推奨します。セキュリティソフトウェアが正しく機能するためには、最新更新ファイルの定期的なダウンロードが非常に重要です。

さらに、アップデートが起動するタイミングを指定することができます。

- ***定期的***- 時間間隔を定義します。
- ***指定した間隔*** - 更新を実行する正確な日時を定義します。

デフォルトでは、アップデートは4時間おきに設定されています。特に変更する理由がない場合、この設定を保持することを強く推奨します。

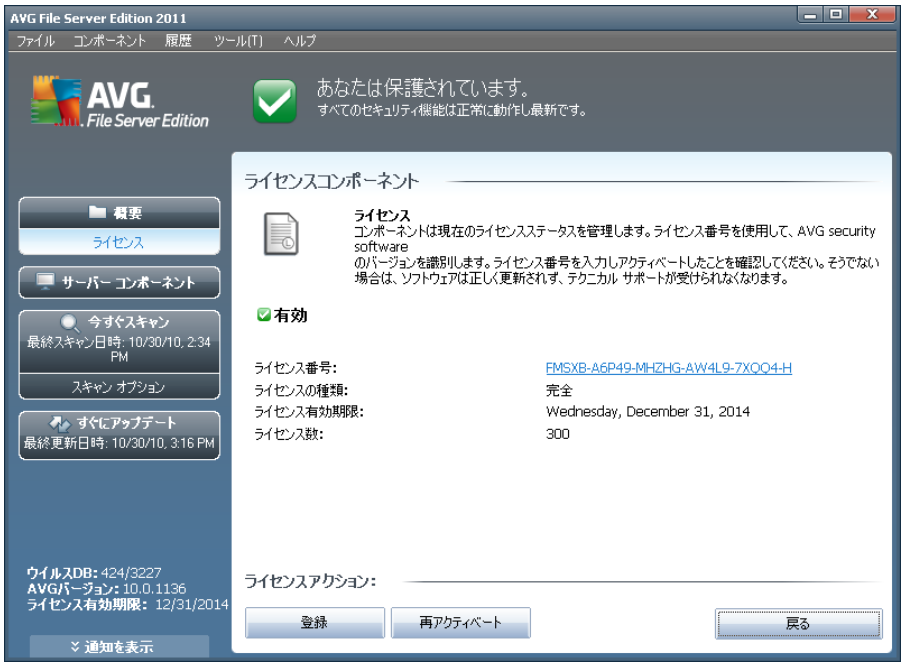
注意：*すべてのAVGコンポーネントは、最適なパフォーマンスを提供するようにあらかじめ設定されています。特に理由がない場合は、AVGの設定を変更しないでください。設定変更は、経験のあるユーザーが行うことを推奨します。AVGの設定を変更する必要がある場合は、システムメニューアイテム****ツール/高度な設定****を選択し、AVG高度な設定ダイアログで設定を編集します。*

コントロールボタン

アップデートマネージャインターフェースで利用できるコントロールボタンは以下の通りです。

- ***すぐにアップデート***- オンデマンドで即時アップデートを実行します。
- ***変更を保存*** - このボタンを押すと、ダイアログで行われた変更を保存、適用します。
- ***キャンセル*** - このボタンを押すと、デフォルトの***AVGユーザーインターフェース***（*コンポーネント概要*）に戻ります

7.5. ライセンス



ライセンス コンポーネント インターフェースには、コンポーネント機能の概要説明、現在のステータスに関する情報、および次の情報が表示されます。

- ***ライセンス番号*** - ライセンス番号の一部が表示されます (*セキュリティ上の理由から、最後の 4 文字は表示されません*)。ライセンス番号は正確に表示されているとおりに入力する必要があります。このため、ライセンス番号を誤って入力しないように、「コピーと貼り付け」を必ず使用することを強くお勧めします。
- ***ライセンス タイプ*** - インストールされている製品のタイプを指定します。
- ***ライセンス有効期限*** - この日付はライセンスの有効期間です。この日付を過ぎても**AVG File Server 2011**の使用を継続する場合は、ライセンスを更新する必要があります。ライセンスの更新は AVG Web サイトからオンラインで行うことができます。
- ***ワークステーション数*** - **AVG File Server 2011**をインストールできるワークステーションの数です。

コントロール ボタン

- ***登録*** - AVG Web サイト (http://www.avg.com) の登録ページに接続します。登録データを入力してください。AVG 製品を登録したお客様のみが無料テクニカル サポートを利用できます。
- ***再アクティベート*** - インストール処理の *[*AVG のパーソナライズ*]* ***ダイアログで入力したデータが [***AVG のアクティベート***]*** ダイアログに表示されます。このダイアログではライセンス番号を入力してセールス番号 (*AVG をインストールしたときの番号*) を置き換えたり、古いライセ

ンス番号 *新しい AVG 製品にアップグレードした場合など*) を置き換えたりできます。

***メモ**: AVG File Server 2011* **の試用版を使用している場合は、このボタンが** *[今すぐ購入]* **および** *[アクティベート]* *として表示され、完全バージョンの製品をすぐに購入できます。セールス番号を使用して* **AVG File Server 2011** *をインストールした場合は、各ボタンが [**登録**]* および *[**アクティベート**]* *として表示されます。*

- ***戻る*** - このボタンをクリックすると、既定の ***AVG ユーザー インターフェース*** (*コンポーネント概要*) に戻ります。

7.6. 遠隔管理

遠隔管理 コンポーネントは、製品のネットワーク版 (***ライセンス***] コンポーネントを参照) をインストールした場合にのみ、 **AVG File Server 2011** のユーザー インターフェースに表示されます。[***遠隔管理***] ダイアログでは、コンポーネントがアクティブであるかどうか、サーバーに接続しているかどうかに関する情報が表示されます。. ***遠隔管理*** コンポーネントは [***高度な設定/遠隔管理***] で設定できます。

コンポーネントのオプションとAVG Remote Administration システムの機能については、このトピック専用の特定のマニュアルを参照してください。このマニュアルは AVG Web サイト (www.avg.com) の ***サポート センター/ ダウンロード/ マニュアル*** セクションからダウンロードできます。

コントロール ボタン

- ***戻る*** - このボタンをクリックすると、既定の AVG ユーザー インターフェース (*コンポーネント概要*) に戻ります。

7.7. ルートキット対策

ルートキットは、システムの所有者や正式な管理者の許可なく、コンピュータシステムの基本機能を制御するように設計されたプログラムです。ルートキットはハードウェア上で実行されているオペレーティングシステムを乗っ取ることを目的としているため、ハードウェアへのアクセスが必要になることはほとんどありません。一般的には、ルートキットは標準のオペレーティング システムのセキュリティメカニズムを破壊したり回避したりすることによって、システム上でその存在を隠しながら動作します。一般的に、ルートキットはトロイの木馬の一種でもあり、システムで実行しても安全であるかのように見せかけてユーザーを騙し、信じこませます。このような技術によって、プログラム監視の対象にならないように実行中のプロセスが隠されたり、オペレーティング システムからファイルやシステム データが隠されることもあります。

7.7.1. ルートキット対策の原理

AVG Anti-Rootkit は、コンピュータ上の悪意のあるソフトウェアの存在を隠すプログラムや技術等の危険なルートキットを検出し、効果的に除去する特別なツールです。***AVG Anti-Rootkit*** は、あらかじめ定義されたルールセットに基づいて、ルートキットを検出できます。すべてのルートキットが検出されます *(感染したものだけではありません)*。***AVG Anti-Rootkit*** がルートキットを検出しても、必ずしもルートキットが感染しているというわけではありません。時々、ルートキットはドライバとして使用されたり、正しいアプリケーションの一部であったりします。

7.7.2. ルートキット対策インターフェース

ルートキット ユーザー インターフェースには、コンポーネントの機能概要に関する説明が表示され、コンポーネントの現在の状態が通知されます。また、前回の***ルートキット対策***検査の実行日時 (***前回のルートキット検索***) 情報が表示されます。[***ルートキット対策***] ダイアログには、[***ツール/ 高度な設定***] リンクも表示されます。リンクをクリックすると、***ルートキット対策*** コンポーネントの高度な設定環境にリダイレクトされます。

メモ: *すべての AVG コンポーネントはあらかじめ設定され、最適なパフォーマンスが保証されています。特に理由がない場合は、AVG の設定を変更しないでください。上級者ユーザーのみが設定変更を行*

AVG File Server 2011 c 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

うことをお進めします。

ルートキット対策設定

ダイアログの下部の [***ルートキット対策設定***] セクションでは、基本的なルートキット スキャン機能を設定できます。まず、該当するチェック ボックスにチェックを付け、スキャン対象オブジェクトを指定します。

- ***アプリケーション スキャン***
- ***DLL ライブラリ スキャン***
- ***ドライバ スキャン***

さらに、ルートキット スキャン モードを選択できます。

- ***クイック ルートキット スキャン*** - すべての実行中のプロセス、ロードされたドライバ、およびシステム フォルダ (*通常は、c:\Windows*) をスキャンします。
- ***完全 ルートキット スキャン*** - すべての実行中のプロセス、ロードされたドライバ、システム フォルダ (*通常は、c:\Windows*)、およびすべてのローカル ディスク (*フラッシュ ディスクは含まれますが、フロッピー ディスクおよび CD ドライブは含まれません*) をスキャンします。

コントロール ボタン

- ***ルートキット スキャン*** - ***完全 コンピュータ スキャン***にはルートキット スキャンは含まれていません。***ルートキット対策*** インターフェースでこのボタンを使用することで、ルートキットスキャンを直接実行できます。
- ***変更を保存*** - このボタンをクリックすると、このインターフェースで実行されたすべての変更を保存し、既定の ***AVG ユーザー インターフェース*** (*コンポーネント概要*) *に戻ります。*
- ***キャンセル*** - このボタンをクリックすると、実行した変更を保存せずに ***AVG ユーザー インターフェース*** (*コンポーネント概要*) *に戻ります。*

8. AVG 設定マネージャ

AVG 設定マネージャは主に、AVG 設定をコピー、編集、配布ができる小規模ネットワークに適したツールです。設定はポータブルデバイス (USB フラッシュドライバなど) し、その後、選択したステーションに手動で適用することができます。

ツールは AVG インストールに含まれており、Windows の [スタート] メニューから利用可能です。

すべてのプログラム/ AVG 2011/ AVG 設定マネージャ

- [***このコンピュータの AVG 設定を編集する***

  このボタンを使い、ローカル AVG の高度な設定ダイアログを開きます。ここで行われたすべての変更は、ローカル AVG インストールにも反映されます。

- [***AVG 設定ファイルを読み込み編集する***

  すでに AVG 設定ファイル (.pck) を持っている場合は、このボタンからファイルを開き、編集してください。[***OK***] または [***適用***] ボタンをクリックして変更を確定すると、ファイルは新しい設定に置き換えられます。

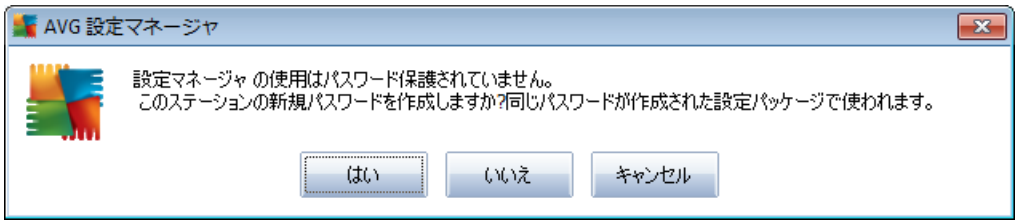
- [***ファイルからこのコンピュータの AVG に設定を適用する***

  このボタンから AVG 設定ファイル (.pck) を開き、ローカル AVG インストールに適用してください。

- [***ローカル AVG 設定をファイルに保存***

  このボタンから AVG 設定ファイル (.pck) をローカル AVG インストールに保存してください。[許可されたアクション] にパスワードを設定しなかった場合は、次のダイアログが表示されることがあ

ります。



許可されたアイテムへのアクセスにパスワードを設定する場合は、[***はい***] をクリックして、必要な項目に情報を入力してください。パスワード作成をスキップし、ローカル AVG 設定をファイルに保存へ進む場合は [***いいえ***] をクリックしてください。

- [***AVG インストールのクローンを作成***

このオプションは、カスタムオプションを含んだインストールパッケージを作成することで、ローカル AVG インストールのコピーを作成できます。クローンには、次の設定を除くほとんどの AVG 設定を含めることができます。

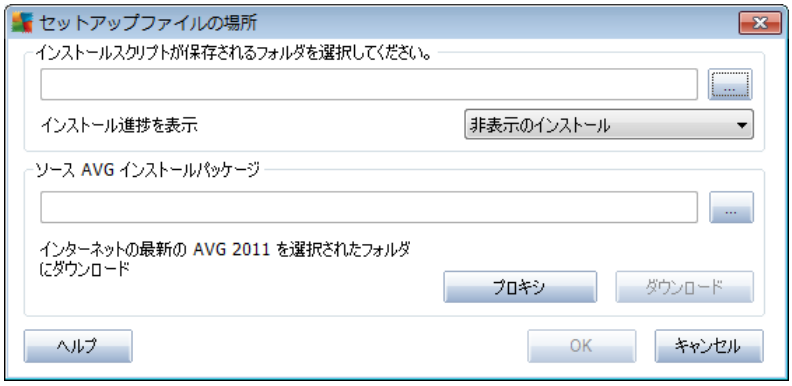
o 言語設定

o 音声設定

o ファイアウォール構成

o ID 保護コンポーネントの許可されたリストと不審なプログラム例外

これを実行するには、まずインストールスクリプトを保存するフォルダを選択します。



その後、ドロップダウンメニューから次のいずれかを選択してください。

o ***インストールを非表示*** - セットアッププロセス中は情報が表示されません。

o ***インストールプロセスのみを表示*** - インストールはユーザーの操作を必要としませんが、進捗状況はすべて表示されます。

o ***インストールウィザードを表示*** - インストールは表示され、ユーザーは手動で各手順を

確認する必要があります。

[***ダウンロード***] ボタンをクリックして、最新の AVG インストールパッケージを直接 AVG ウェブサイトから選択されたフォルダにダウンロードするか、手動で AVG インストールパッケージをフォルダに保存してください。

正常な接続を行うために、ネットワークにプロキシサーバー設定が必要な場合は、[***プロキシ***] ボタンを使用して、プロキシサーバーを定義してください。

[***OK***] ボタンをクリックすることで、終了プロセスが開始されまもなく完了します。許可されたアイテム（前述の説明を参照）の設定パスワードを確認するダイアログが表示される場合があります。終了すると、***AvgSetup.bat*** が選択されたフォルダに格納され、その他ファイルと共に利用可能となります。***AvgSet.bat*** ファイルを実行すると、前の手順で選択したパラメータに基づいて AVG がインストールされます。

9. AVG サーバー コンポーネント

9.1. Documents Scanner for MS SharePoint

9.1.1. ドキュメント スキャナの原理

Document Scanner for MS SharePoint サーバーの目的は、MS SharePoint に格納されている文書のスキャンです。ウイルスが検出されると、ウイルス隔離室に移動されるか、完全に削除されます。

Microsoft SharePoint は、Internet Explorer ベースのコラボレーション機能、プロセス管理モジュール、検索モジュール、ドキュメント管理プラットフォームなどの幅広いコンポーネントを含む製品およびソフトウェア要素群です。SharePoint を使用すると、共有ワークスペース、情報ストア、ドキュメントにアクセスするウェブサイトをホストできます。

9.1.2. ドキュメント スキャナ インターフェース

最も重要な統計データとコンポーネントの現在のステータス情報（*コンポーネントはアクティブです*）の他に、***Documents Scanner for MS SharePoint*** インターフェースにはコンポーネントの統計情報の概要が表示されます。

- ***チェックされたドキュメント*** - 特定の日付以降チェックされたドキュメント数
- ***検出された脅威*** - 特定の日付以降検出された感染数

[***統計値の更新***] リンクをクリックして、いつでもこれらの統計を更新できます。新しいデータがほぼ即時に表示されます。すべての統計値をゼロに設定する場合は、[***統計値のリセット***] リンクをクリックします。最後に、[***スキャン結果***] リンクをクリックすると、スキャン結果のリストが新しいダイアログに表示さ

れます。ラジオボタンとタブを使用して、リストのデータをソートします。

コントロールボタン

Documents Scanner for MS SharePoint インターフェースで利用できるコントロール ボタンは次のとおりです。

- ***設定*** - 新しいダイアログを開き、***Document Scanner for MS SharePoint*** ドキュメント ウィルス スキャン パフォーマンスに関する複数のパラメータを調整できます (このダイアログの詳細については、「***Document Scanner for MS SharePoint の詳細設定***」および「***検出アクション***」の章を参照してください)。

- ***戻る*** このボタンをクリックすると、既定の***サーバー コンポーネント インターフェース***に戻ります。

10. AVG for SharePoint Portal Server

この章では、特別な種類のファイルサーバーと考えられる ***MS SharePoint Portal Server*** での AVG メンテナンスについて説明します。

10.1. プログラム メンテナンス

AVG for SharePoint Portal Server はMicrosoft SP VSAPI 1.4 ウィルス スキャン インターフェースを使用して、ウィルス感染の可能性からサーバーを保護します。ユーザーがサーバー上でオブジェクトをダウンロードまたはアップロードするときに、サーバー上のオブジェクトにマルウェアが存在するかどうかが検査されます。ウィルス対策保護設定は、SharePoint Portal Server の [***サーバーの全体管理***] インターフェースで設定できます。[***サーバーの全体管理***] では、**AVG for SharePoint Portal Server** ログ ファイルの表示と管理もできます。

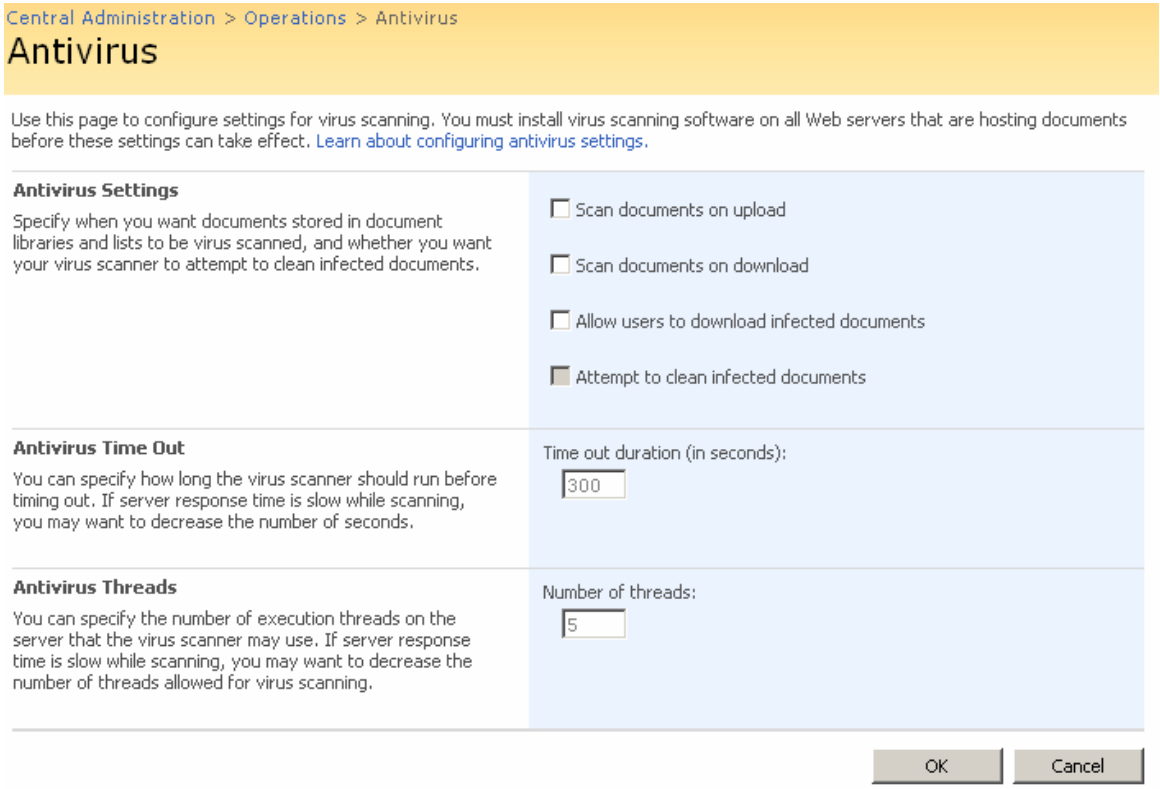
サーバーが稼動しているコンピュータにログインするときに、***SharePoint Portal Server サーバーの全体管理***を起動できます。管理インターフェースには Web ベースのインターフェースと *SharePoint Portal Server* のユーザー インターフェースがあります。Windows の [***スタート***] メニューの [***プログラム/ Microsoft Office Server***] フォルダ (***SharePoint Portal Server*** のバージョンによって異なります) の [***SharePoint の全体管理***] オプションをクリックするか、[***管理ツール***] で [***Sharepoint Central Administration***] を選択すると、この Web ベースのインターフェースが開きます。

また、正しいアクセス権と URL を使用すると、リモートで [***SharePoint Portal Server サーバーの全体管理***] Web ページにアクセスできます。

10.2. AVG for SPPS Configuration - SharePoint 2007

[***SharePoint 3.0 の一元管理***] インターフェースでは、**AVG for SharePoint Portal Server** スキャナのパフォーマンス パラメータとアクションを簡単に設定できます。[***サーバーの一元管理***] セクションの [***動作***] オプションを選択します。新しいダイアログが表示されます。[***セキュリティ設定***] セクションの [***ウィルス対策***] 項目を選択します。

次のウィンドウが表示されます。

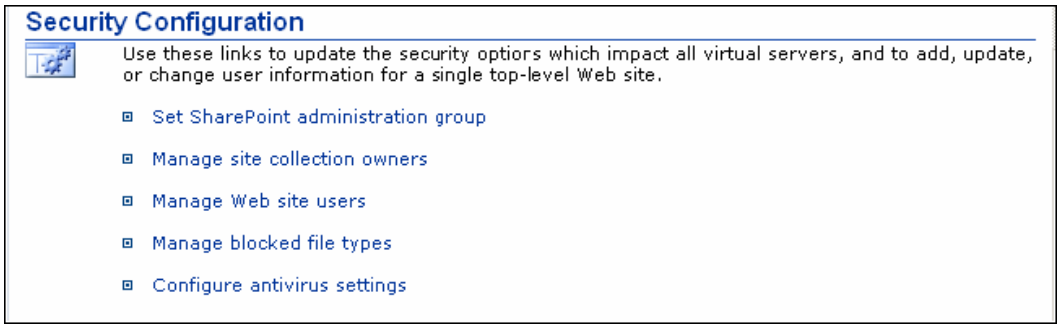


ここでは、さまざまな **AVG for SharePoint Portal Server** ウィルス対策スキャン アクションとパフォーマンス機能を設定できます。

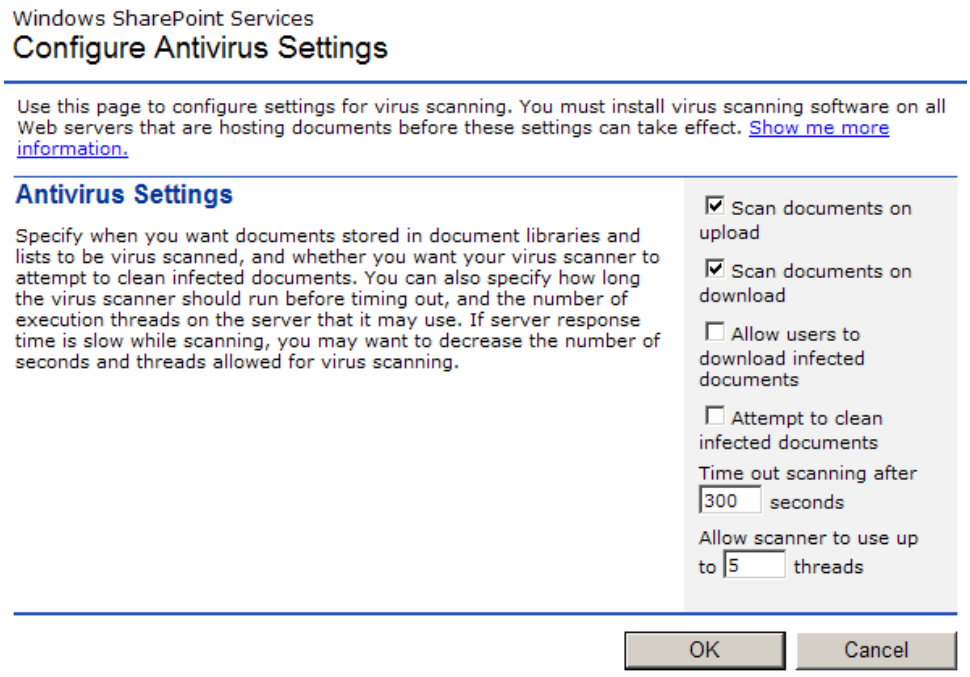
- ***アップロード中のドキュメントをスキャンする*** - アップロード中のドキュメントのスキャンを有効/無効にします。
- ***ダウンロード中のドキュメントをスキャンする*** - ダウンロード中のドキュメントのスキャンを有効/無効にします。
- ***ユーザーによる感染ドキュメントのダウンロードを許可する*** - ユーザーによる感染ドキュメントのダウンロードを許可/禁止します。
- ***感染したドキュメントの除去を試みる*** - 感染したドキュメントの自動消去を有効/無効にします。
- ***タイムアウト時間*** (*秒*) - 起動後にウィルス スキャン処理を実行する最長時間 (秒)。ドキュメント スキャン時のサーバー の応答が遅いように思われる場合は値を下げます。
- ***スレッド数*** - 同時実行可能なウィルス スキャン スレッド数を指定できます。値を大きくすると、並列化レベルが上がるためスキャン速度が上がる場合がありますが、一方でサーバーの応答時間が長くなる可能性があります。

10.3. AVG for SPPS Configuration - SharePoint 2003

[*SharePoint* ***ポータル サーバーの一元管理***] インターフェースでは、**AVG for SharePoint Portal Server** スキャナのパフォーマンス パラメータとアクションを簡単に設定できます。[***セキュリティ設定***] セクションの [***ウィルス対策アクション設定***] オプションを選択します。



次のウィンドウが表示されます。



ここでは、さまざまな **AVG for SharePoint Portal Server** ウィルス対策スキャン アクションとパフォーマンス機能を設定できます。

- ***アップロード中のドキュメントをスキャンする*** - アップロード中のドキュメントのスキャンを有効/無効にします。
- ***ダウンロード中のドキュメントをスキャンする*** - ダウンロード中のドキュメントのスキャンを有効/無効にします。
- ***ユーザーによる感染ドキュメントのダウンロードを許可する*** - ユーザーによる感染ドキュメ

ントのダウンロードを許可/禁止します。

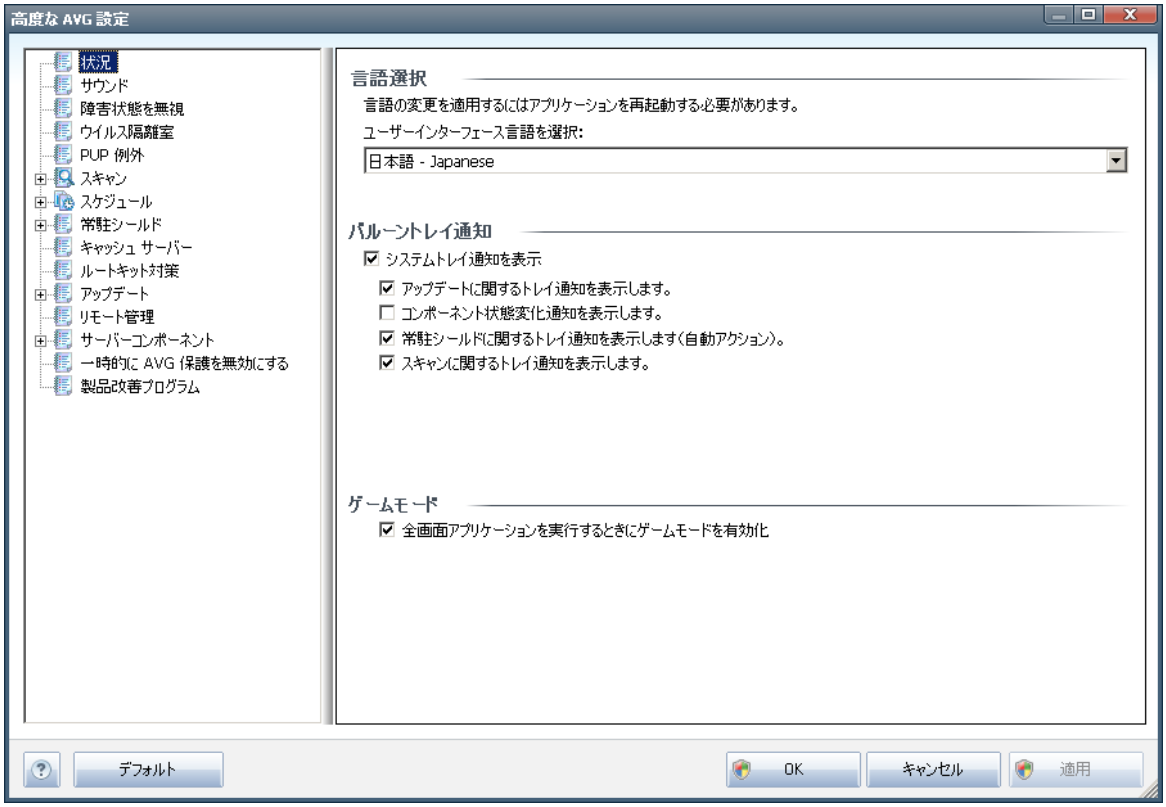
- ***感染したドキュメントの除去を試みる*** - 感染したドキュメントの自動消去を有効/無効にします。
- ***スキャンの時間制限*** - 起動後にウィルス スキャン処理を実行する最長時間 (秒)。*ドキュメント スキャン時のサーバーの応答が遅いように思われる場合は値を下げます。*
- ***最大値を使用します。ドキュメント スキャン中の X サブプロセス*** - X には同時実行可能なウィルス スキャン スレッド数を指定します。値を大きくすると、並列化レベルが上がるためスキャン速度が上がる場合がありますが、一方でサーバーの応答時間が長くなる可能性があります。

11. AVG 高度な設定

AVG File Server 2011 の高度な設定ダイアログは [***高度な AVG 設定***] という名前の新しいダイアログで開きます。 このウィンドウは2つのセクションにわかれています。左部はにツリー状のナビゲーションが表示されます。設定を変更したいコンポーネントを選択すると、ウィンドウ右側に設定項目が表示されます。

11.1. 表示

ナビゲーション ツリーの最初の項目の [***表示***] では、AVG ユーザー インターフェースとアプリケーション動作の基本オプションの一部を設定します。



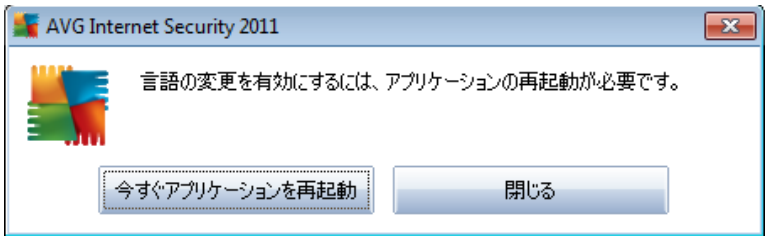
言語選択

[***言語選択***] セクションでは、ドロップダウン メニューから任意の言語を選択します。この言語はすべてのAVG ユーザー インターフェースで使用されます。ドロップダウン メニューには、インストール処理中に選択した言語 (**** カスタム オプション* の章を参照) と英語 (*既定でインストール*) のみが表示されます。ただし、アプリケーションを他の言語に切り替える際には、次の方法でユーザー インターフェースを再起動する必要があります。

- 任意のアプリケーション言語を選択し、[***適用***] ボタン (右下端) をクリックします。
- [***OK***] ボタンをクリックして、確定します。

AVG File Server 2011 © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

- AVG ユーザー インターフェースの言語を変更する場合は、アプリケーションの再起動が必要であることを通知する新しいポップアップ ダイアログ ウィンドウが表示されます。



バルーン トレイ通知

このセクションでは、アプリケーション ステータスに関するシステム トレイ バルーン通知の表示を制御できます。既定ではバルーン通知が表示されます。この設定を保持することをお勧めします。通常、バルーン通知は AVG コンポーネントのステータス変更を通知します。この通知には気を付ける必要があります。

ただし、何らかの理由で、この通知を非表示にする場合や特定の AVG コンポーネントの通知のみを表示する場合は、次のオプションを使用して設定を定義できます。

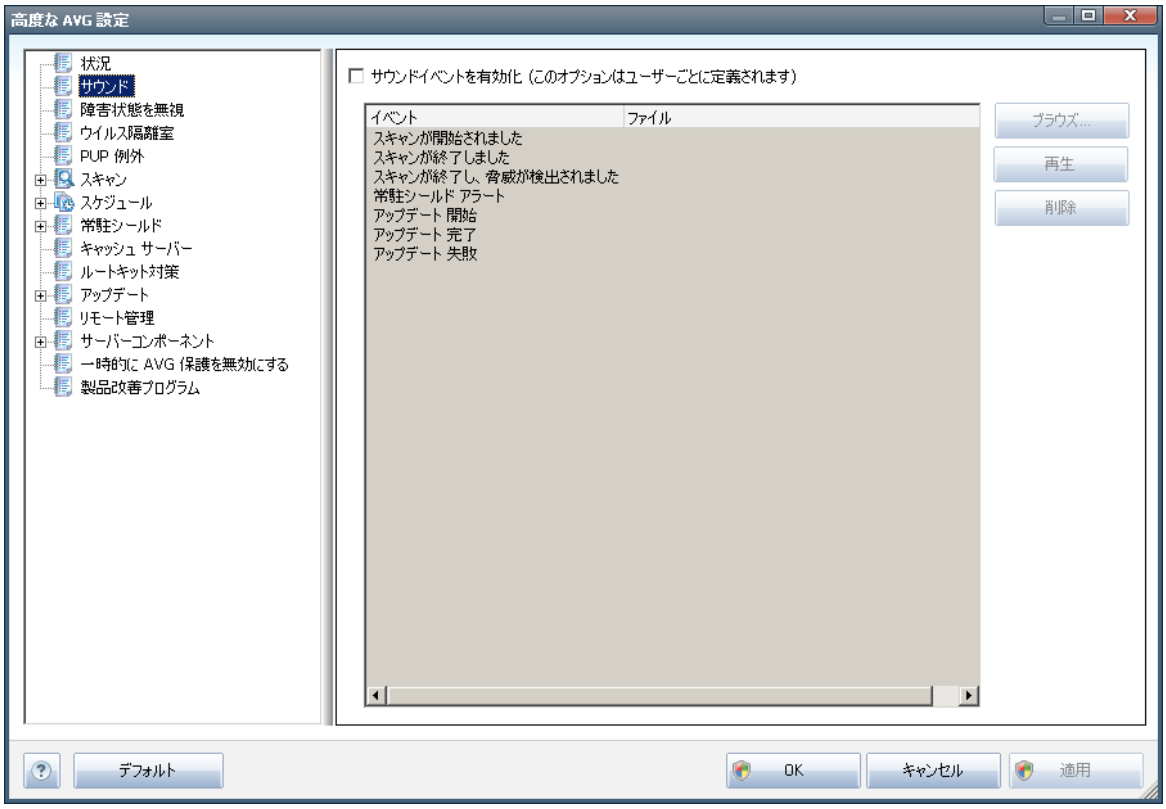
- ***システム トレイ通知を表示する*** - 既定ではこの項目は*オン*であり、通知が表示されます。この項目のチェックを外すとすべてのバルーン通知表示がオフになります。オンにした場合は、表示する通知を選択できます。
    - ***更新***に関するトレイ通知を表示する - AVG 更新処理の起動、進行、完了に関する情報を表示するかどうかを決定します。
    - ***コンポーネントの状態変更に関するトレイ通知を表示する*** - コンポーネントの有効/無効状態または問題が発生している可能性に関する情報を表示するかどうかを決定します。コンポーネントでエラー状態が発生している場合には、このオプションはシステム トレイ アイコン (色変更) が特定の AVG コンポーネントで発生している問題を報告するときと同じ方法でエラーを報告します。
    - ***常駐シールド関連のトレイ通知を表示する (自動アクション)*** - ファイルの保存、コピー、開く処理に関する情報を表示するかどうかを決定します (*この設定は、常駐シールドの [自動修復] オプションがオンになっている場合にのみ有効です*)。
    - ***スキャン***に関するトレイ通知を表示する - スケジュール スキャンの自動起動、進行、結果に関する情報を表示するかどうかを決定します。

ゲーム モード

この AVG 機能は、AVG 情報バルーン (*スケジュール スキャンが開始するときなどに表示*) によって妨害される可能性がある全画面アプリケーション用に設計されています (*情報バルーンはアプリケーションの最小化やグラフィックの破損を引き起こす可能性があります*)。このような問題を回避するには、 [***全画面アプリケーションが実行されているときにゲーム モードを有効にする***] オプションのチェックボックスを付けた状態にしておきます (*既定の設定*)。

11.2. サウンド

[***サウンド***] ダイアログでは、サウンド通知によって特定の AVG アクションの通知を行うかどうかを指定できます。このようにする場合は、[***サウンドイベントを有効化***] *オプション (既定ではオフ)* にチェックを付け、AVG アクションのリストを有効化します。



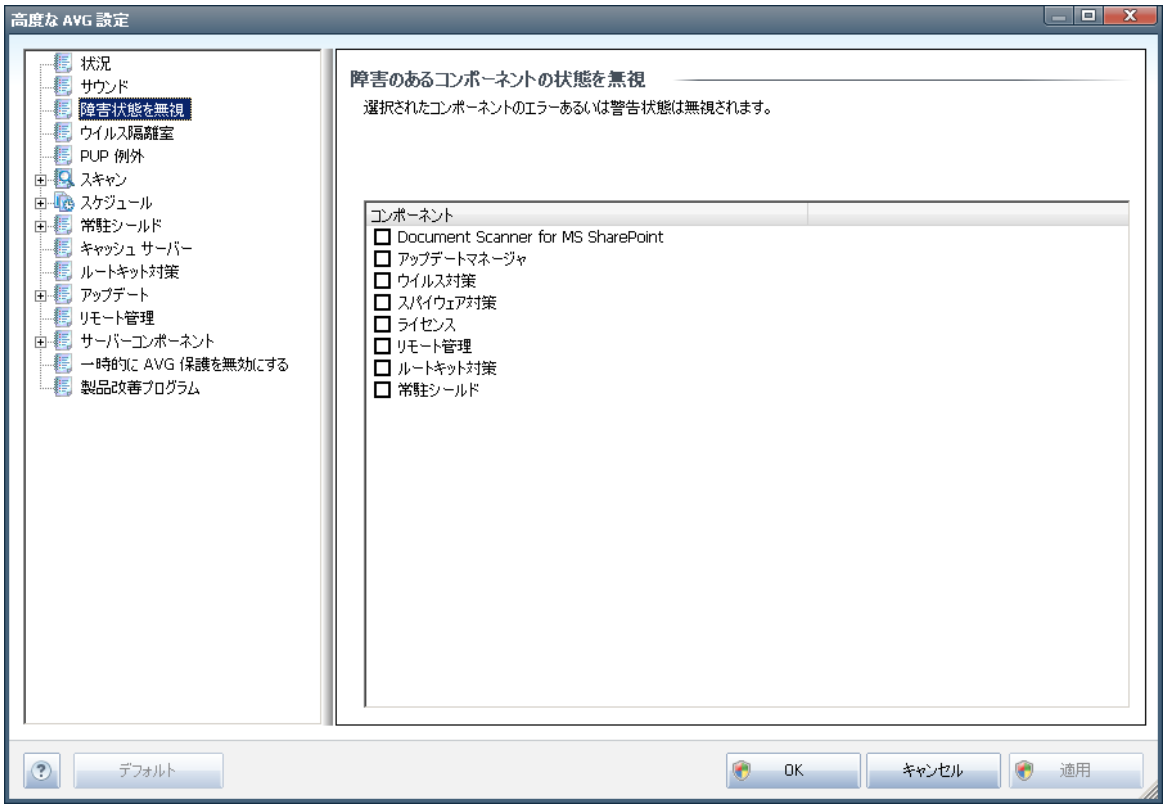
次に、リストから該当するイベントを選択し、このイベントに割り当てる適切なサウンドをディスクから参照 (***参照***) します。選択されたサウンドを聴くには、リストのイベントをハイライトし、[***再生***] ボタンをクリックします。[***削除***] ボタンをクリックすると、特定のイベントに割り当てられたサウンドを削除します。

注意 : **.wav サウンドのみがサポートされています。*

AVG File Server 2011 c 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

11.3. 障害状態を無視

[***コンポーネントの障害状態を無視***] ダイアログでは、情報の通知を表示しないコンポーネントにチェックを付けることができます。



既定では一覧で選択されているコンポーネントはありません。つまり、コンポーネントがエラーになると、すぐに次の方法で通知されます。

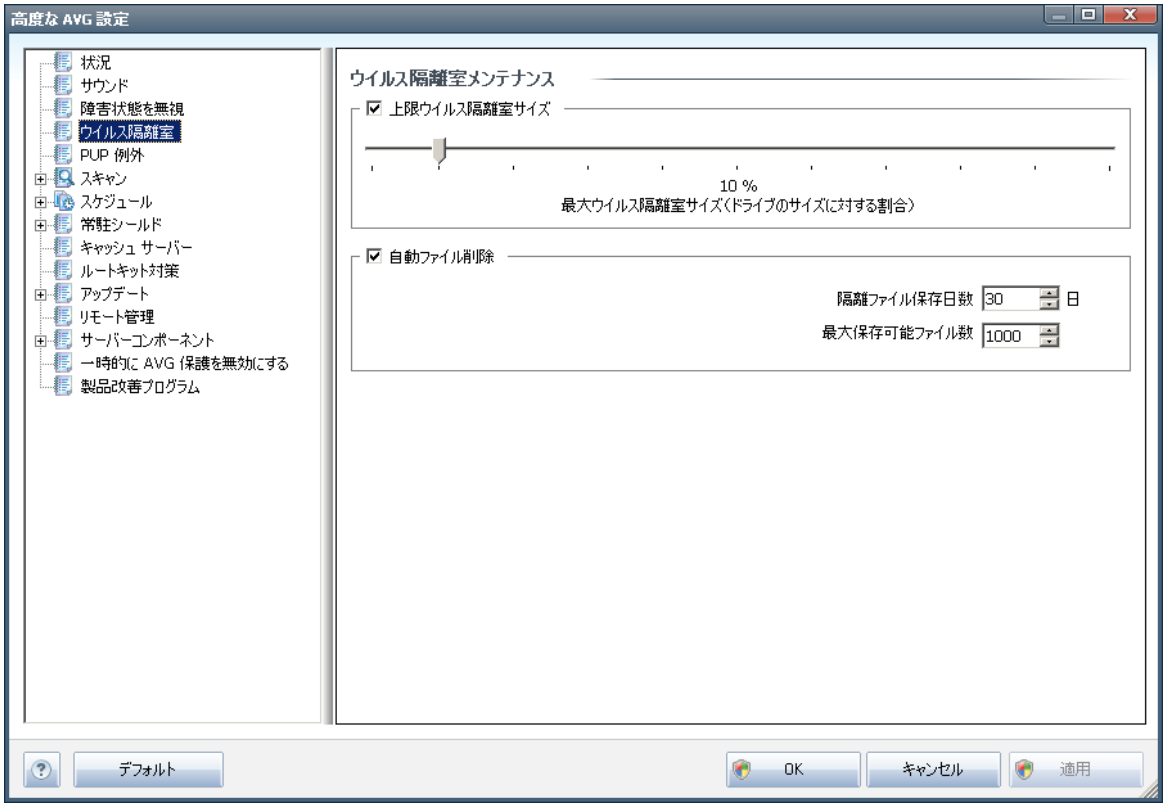
- ***システム トレイ アイコン*** - すべての AVG コンポーネントが正常に動作している間はアイコンは四色で表示されますが、エラーが発生すると、黄色のエクスクラメーション マークのついたアイコンが表示され、
- AVG メイン ウィンドウの [***セキュリティステータス情報***] セクションに既存の問題に関する説明が表示されます。

何らかの理由で一時的にコンポーネントをオフにする必要がある場合が考えられます (*これは推奨されません。すべてのコンポーネントを永久的にオンにし続け、既定の設定を保持する必要があります。ただし、コンポーネントをオフにしなければならない状況が発生する可能性はあります*)。この場合、システム トレイ アイコンがコンポーネントのエラー状態を自動的に報告します。ただし、この場合には、ユーザーが自分で慎重に設定を行い、潜在的なリスクを認識しているため、実際のエラーについては説明できません。同時に、グレイ色で表示されると、アイコンは表示される可能性のある他のエラーを実際に報告できません。

この場合、上記のダイアログでエラー状態となる可能性のある (*あるいはオフになる*) コンポーネントを選択できますが、その状態は通知されません。特定のコンポーネントについては、***コンポーネント状態を***

無視と同じオプションが AVG メイン ウィンドウのコンポーネント概要から直接利用できます。

11.4. ウイルス隔離室

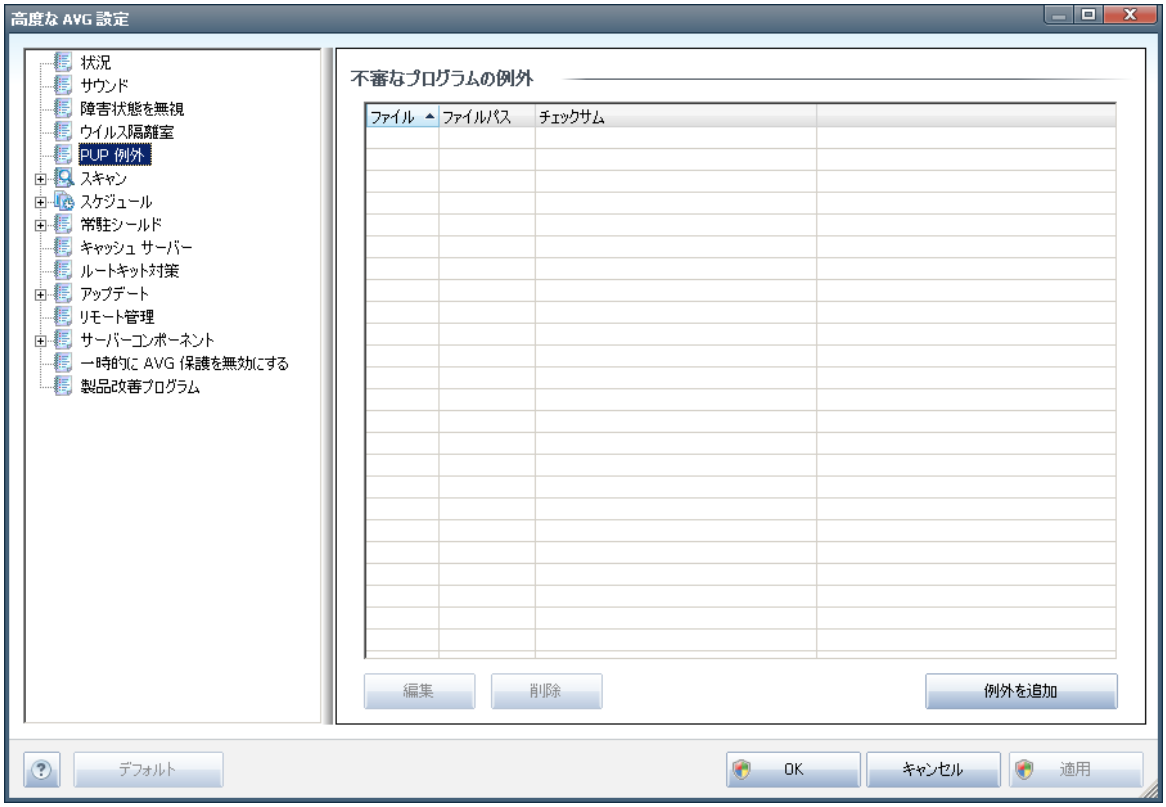


ウィルス隔離メンテナンスダイアログでは、***ウィルス隔離***に格納されるオブジェクト管理に関するパラメータを定義できます。

- ***ウイルス隔離室のサイズを制限*** - スライダを使用して、***ウイルス隔離室***の最大サイズを設定できます。サイズは、ローカルディスクのサイズに対する割合で指定されます。
- ***自動ファイル削除*** - このセクションでは、***ウイルス隔離室***にオブジェクトが格納される最大日数（***日数を経過したファイルの削除***）、と***ウイルス隔離室***に格納される最大ファイル数（***格納されるファイルの最大数***）を定義します。

11.5. PUP 例外

AVG File Server 2011 はシステム内に存在する不審な実行可能アプリケーションや DLL ライブラリの分析と検出ができます。ユーザーが望ましくないプログラムをコンピュータに残しておきたい場合もあります (*故意にインストールされたプログラム*)。一部のプログラム (特に無料のプログラム) にはアドウェアが含まれています。このようなアドウェアは AVG によって***不審なプログラム***として検出され、報告される場合があります。このようなプログラムをコンピュータに残す場合は、不審なプログラムの例外として定義できます。

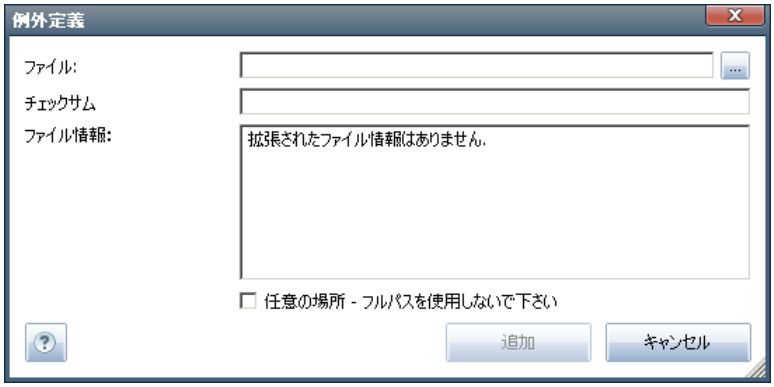


[***不審なプログラム例外***] ダイアログでは、既に定義された不審なプログラムの例外リストが表示されます。リストの編集、既存の項目の削除、新しい例外の追加ができます。各例外リストには次の情報が表示されます。

- ***ファイル*** - 各アプリケーション名。
- ***ファイル パス*** - アプリケーションの場所。
- ***チェックサム***- 選択したファイルの一意の「シグネチャ」を表示します。このチェックサムは自動的に生成された文字列です。AVG はこの文字列を使用して、選択したファイルとその他のファイルを区別します。チェックサムはファイルが正常に追加された後で生成および表示されます。

コントロール ボタン

- ***編集*** - 既に定義された例外の編集ダイアログ (*新しい例外定義ダイアログと同じです。次を参照*) を開きます。ここで例外パラメータを変更します。
- ***削除*** - 選択した項目を例外リストから削除します。
- ***例外の追加***- 編集ダイアログが開きます。ここでは作成する例外のパラメータを定義します。



- ***ファイル*** - 例外として指定するファイルへの完全パスを入力します。
- ***チェックサム*** - 選択したファイルの一意の「シグネチャ」を表示します。このチェックサムは自動的に生成された文字列です。AVG はこの文字列を使用して、選択したファイルとその他のファイルを区別します。チェックサムはファイルが正常に追加された後で生成および表示されます。
- ***ファイル情報*** - ファイルに関する追加情報 (*ライセンス/バージョンなど*)。
- ***任意の場所 - 完全パスを使用しない*** - 特定の場所のみに関連する例外としてこのファイルを定義する場合は、このチェックボックスのチェックを外します。このチェックボックスを選択すると、ファイルの保存場所に関係なく、指定したファイルが例外として定義されます (*ただし、特定のファイルへの完全パスを入力する必要があります。これにより、システムに同じ名前のファイルが 2 つ存在している場合にファイルが一意の例として使用されます*)。

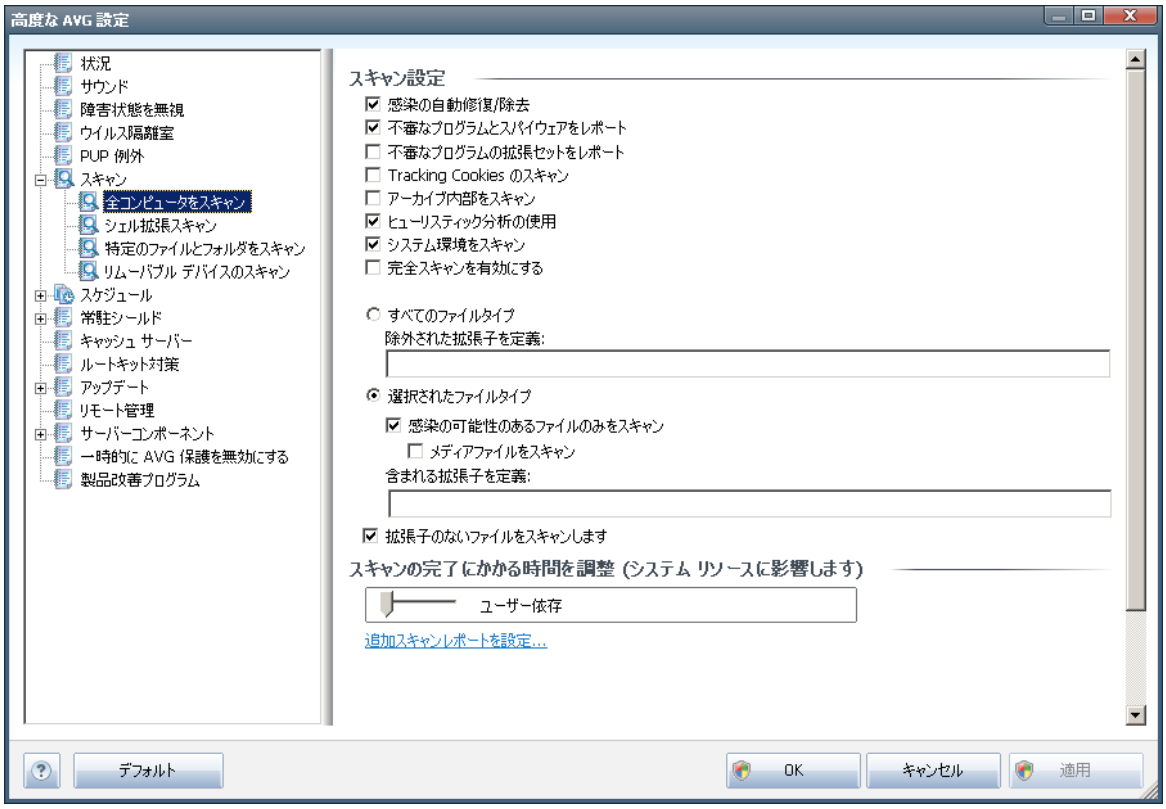
11.6. スキャン

高度なスキャン設定は 4 つのカテゴリに分けられ、このカテゴリは AVG が定義した特定のスキャン タイプを示します。

- ***完全コンピュータスキャン*** - 標準の事前定義された完全コンピュータ スキャンです。
- ***シェル拡張スキャン*** - Windows Explorer 環境から直接選択されたオブジェクトのスキャンです。
- ***特定ファイルまたはフォルダのスキャン*** 予め定義されたコンピュータの特定エリアのスキャンです。
- ***リムーバブルデバイスのスキャン*** - コンピュータに接続した特定のリムーバブルデバイスのスキャン

11.6.1. 完全コンピュータ スキャン

[***完全コンピュータ スキャン***] オプションでは、ソフトウェア ベンダーがあらかじめ定義したスキャン パラメータの***完全コンピュータ スキャン***を編集できます。



スキャン設定

[***スキャン設定***] セクションに表示されているスキャン パラメータを任意でオン/オフにできます。

- ***自動的に感染を修復/除去する*** (*既定ではオン*) - スキャン実行中にウイルスが特定され、修復可能な場合は、自動的に修復されます。感染したファイルを自動的に修復できない場合、感染したオブジェクトは***ウイルス隔離室***に移動されます。

- ***不審なプログラムとスパイウェア脅威を報告する*** (*既定ではオン*) - チェックを付けると、***スパイウェア対策***エンジンを有効にし、ウイルスと同時にスパイウェアもスキャンします。スパイウェアは不審なマルウェアの一種です。通常はセキュリティ リスクになりますが、このようなプログラムを故意にインストールすることができます。コンピュータのセキュリティを高めるため、この機能を有効にしておくことをお勧めします。

- ***不審なプログラムの拡張セットを報告する*** (*既定ではオフ*) - チェックを付けると、スパイウェアの拡張パッケージを検出します。スパイウェアとは、直接製造元から入手する場合にはまったく問題がなく、無害なプログラムですが、後から悪意のある目的で誤用されるおそれのあるプログラムです。これは、コンピュータ セキュリティをさらに高めるための追加的な手段ですが、合法的なプログラムもブロックする可能性があるため、デフォルトではオフになっています。

- ***Tracking Cookie をスキャンする*** (*既定ではオフ*) - スパイウェア対策コンポーネントのこのパラメータを定義すると、Cookie を検出します (HTTP cookie は、サイトの設定や電子ショッピング カートの内容など、ユーザー固有の情報の認証、追跡、メンテナンスに使用されます)。

- ***アーカイブの内容をスキャンする*** (*既定ではオフ*) - ZIP や RAR などのアーカイブ内に格納されているすべてのファイルをスキャンします。

- ***ヒューリスティック分析を使用する*** (*既定ではオン*) - ヒューリスティック分析 (*仮想コンピュータ環境で実行されるスキャン対象オブジェクト命令の動的エミュレーション*) は、スキャン実行中に採用されるウイルス検出方法の 1 つです。

- ***システム環境をスキャンする*** (*既定ではオン*) - コンピュータのシステム領域もチェックされます。

- ***完全スキャンを有効にする*** (*既定ではオフ*) - このオプションをチェックすると、特定の状況 (*コンピュータが感染している疑いがある場合など*) が発生した場合に最も完全なスキャン アルゴリズムを有効にし、感染の可能性が非常に低いコンピュータ領域もスキャンします。これにより、問題がないことを確実に確認します。この方法を実行すると多少時間がかかります。

さらに、スキャンするかどうかを決定する必要があります。

- ***すべてのファイル タイプとスキャン対象ではないファイル拡張子をカンマで区切ったリスト*** (*保存すると、カンマはセミコロンに変わります*) を入力することで、スキャンからの除外を定義できます。

- ***選択したファイル タイプ*** - 感染の可能性のあるファイルのみを指定できます (*一部のプレーン テキスト ファイルやその他の非実行可能 ファイルなど*感染の可能性がないファイルはスキャンされません)。これには、メディア ファイル (*ビデオ、オーディオ ファイル*) が含まれます。多くの場合、このようなファイルはサイズが非常に大きく、ウィルスに感染している可能性が非常に低いため、このボックスのチェックを外すと、スキャン時間がさらに短縮されますここでも、必ずスキャンするファイルの拡張子を指定できます。

- 任意で***拡張子のないファイルをスキャン***できます。このオプションは既定ではオンになっています。変更する理由がない場合は、この設定を保持することをお勧めします。拡張子のないファイルは不審であるため、常にスキャンすることをお勧めします。

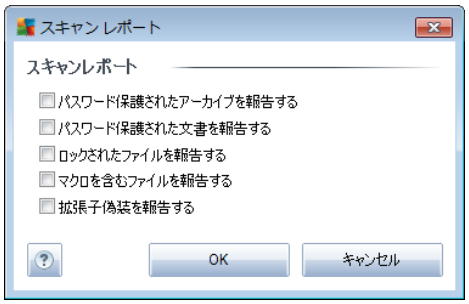
スキャン速度を調整

[***スキャン速度を調整***] セクションでは、システム リソース使用度に応じて、任意のスキャン速度を指定できます。既定ではこのオプションの値は、自動的にリソースを使用する*ユーザー依存*レベルに設定されています。スキャンを高速化すると、スキャン時間を短縮できますが、スキャン実行中にシステム リソース消費量が著しく上がり、PC で実行されている他の作業の速度が低下します (*このオプションは、コンピュータの電源がオンであり、コンピュータ上で作業をしているユーザーがいない場合などに適しています*)。一方、スキャンの時間を延長することで、システム リソース消費量を下げることができます。

追加スキャン レポートを設定...

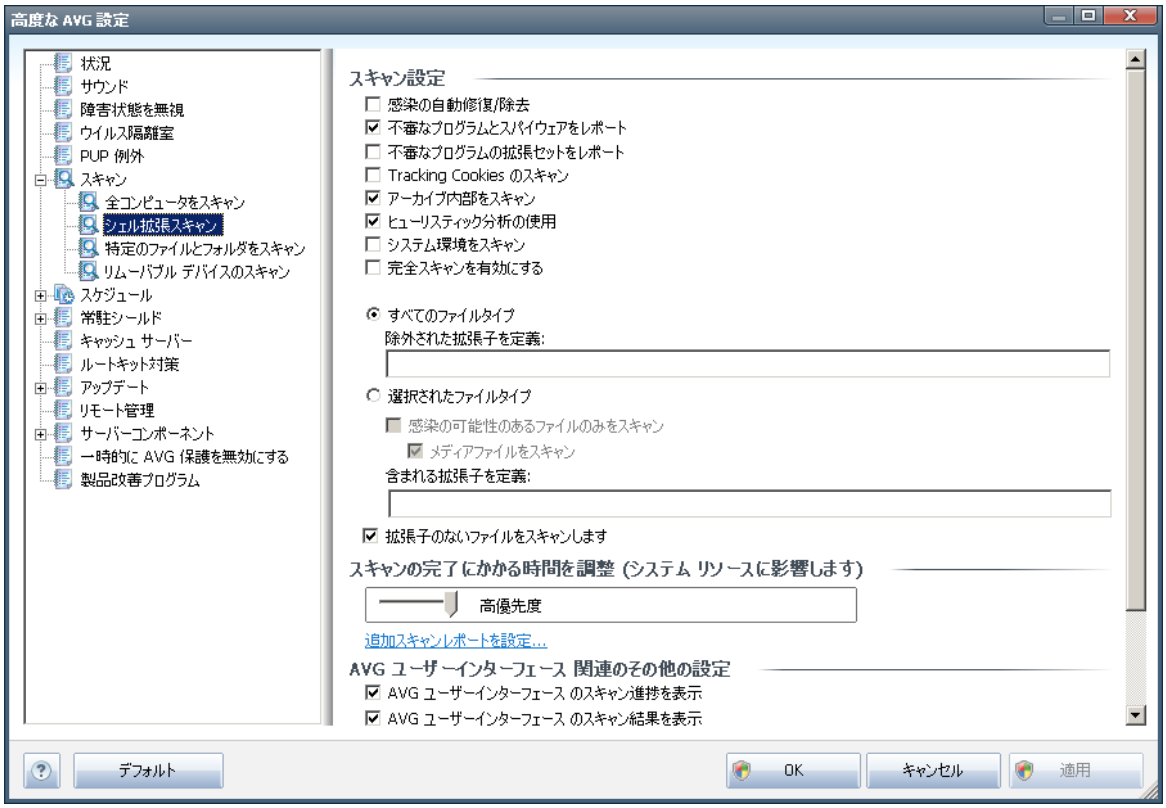
AVG File Server 2011 © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

[***追加スキャン レポート...***] リンクをクリックすると [***スキャン レポート***] ダイアログが開きます。このウィンドウでは報告する検出項目を定義します。



11.6.2. シェル拡張スキャン

この項目は***シェル拡張スキャンと呼ばれ、以前の***完全コンピュータスキャン同様、ソフトウェアベンダーが事前定義したスキャンを編集できます。設定が Windows Explorer環境から直接起動される特定オブジェクトスキャンに関連している (*シェル拡張*) 場合、***Windows Explorerのスキャン***の章を参照してください。



パラメータのリストは***完全コンピュータスキャン***で利用できるものと同一です。ただし、既定の設定が異なります (*たとえば、完全コンピュータスキャンの場合、既定ではアーカイブをチェックせずにシステム環境をチェックしますが、シェル拡張スキャンでは逆になります*)。

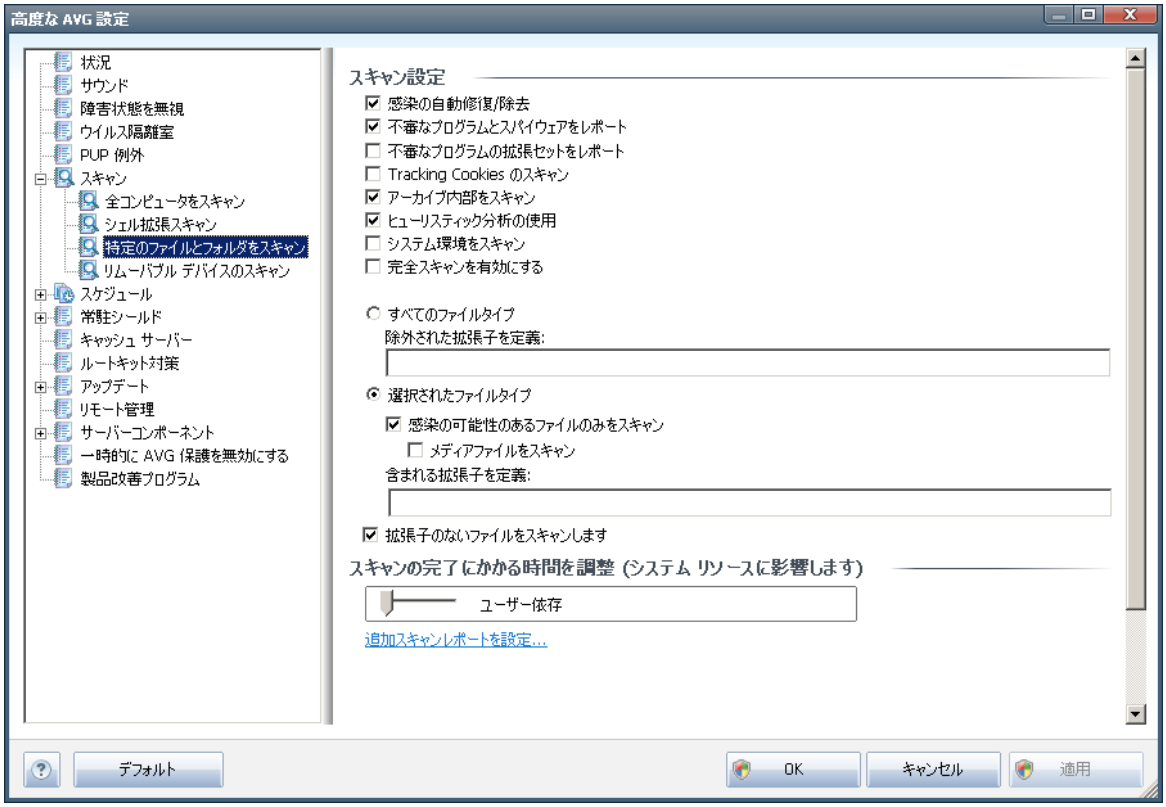
メモ: *特定のパラメータの説明については、* ***AVG 高度な設定 / スキャン / 完全コンピュータス***

キャン」の章を参照してください。

[***完全コンピュータスキャン***] ダイアログと比較すると、[***シェル拡張スキャン***] ダイアログには [***AVG ユーザーインターフェースのその他の設定***] というセクションがあり、スキャンの進行状況を表示するかどうか、AVG ユーザーインターフェースからスキャン結果にアクセスできるようにするかを指定できます。また、スキャンで感染が検出された場合にのみスキャン結果を表示するように定義できます。

11.6.3. 特定のファイルやフォルダをスキャン

特定のファイルまたはフォルダをスキャンの編集インターフェースは***完全コンピュータスキャン***編集ダイアログと同一です。すべてのコンフィグレーションオプションは同一です。ただし、デフォルト設定は***完全コンピュータスキャン***の場合にはより厳密なものとなっています。

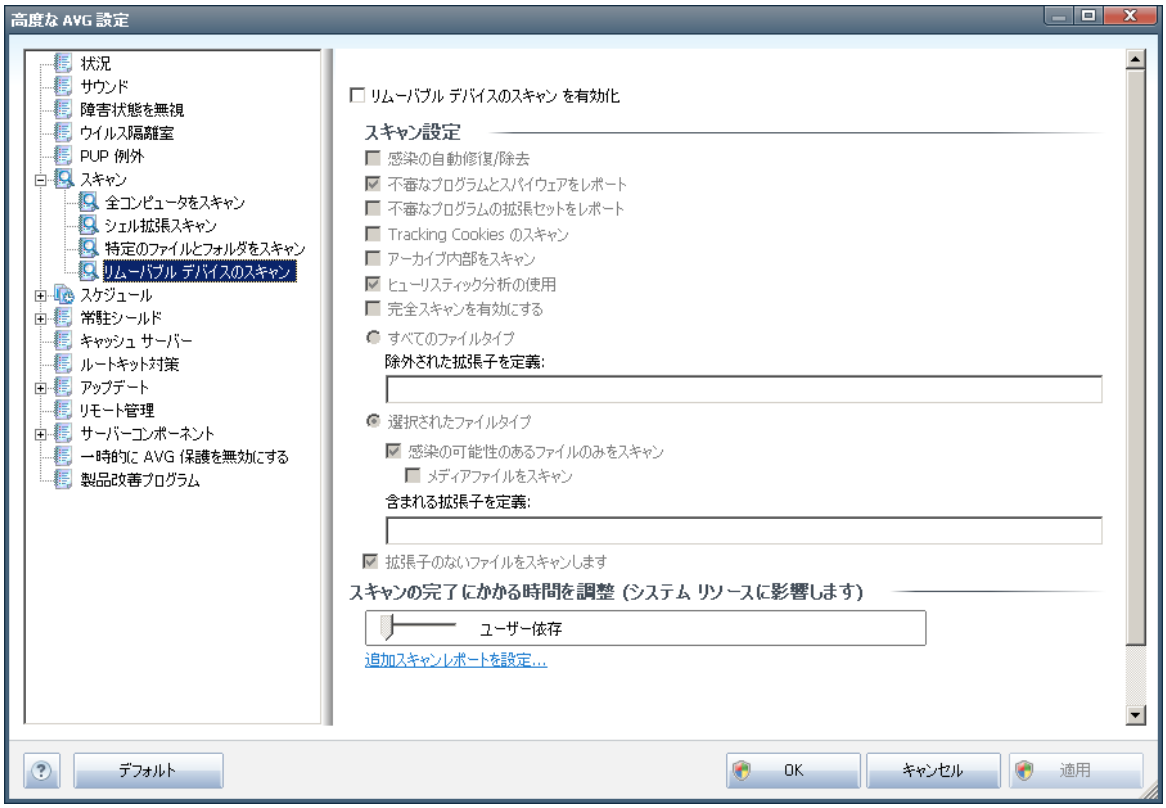


この設定ダイアログで設定されるすべてのパラメータは、***特定のファイルとフォルダをスキャン***で選択されたスキャンエリアのみに適用されます。

***メモ**: 特定のパラメータの説明については、 ***AVG 高度な設定 / スキャン / 完全コンピュータスキャン**」の章を参照してください。*

11.6.4. リムーバブル デバイスのスキャン

[***リムーバブル デバイスのスキャン***] の編集インターフェースは [***完全コンピュータスキャン***] 編集ダイアログに非常に似ています。



リムーバブルデバイスのスキャンは、コンピュータにリムーバブルデバイスを接続したときに、自動的に起動します。既定では、このスキャンはオフになっています。ただし、リムーバブルデバイスは大きな脅威源なので、潜在的な脅威をスキャンすることが非常に重要です。このスキャンを準備し、必要なときに自動的に起動するようにするには、[***リムーバブルデバイスのスキャンを有効化***] オプションにチェックを付けます。

***メモ**: 特定のパラメータの説明については、 **AVG 高度な設定 / スキャン / 完全コンピュータスキャン** の章を参照してください。*

11.7. スケジュール

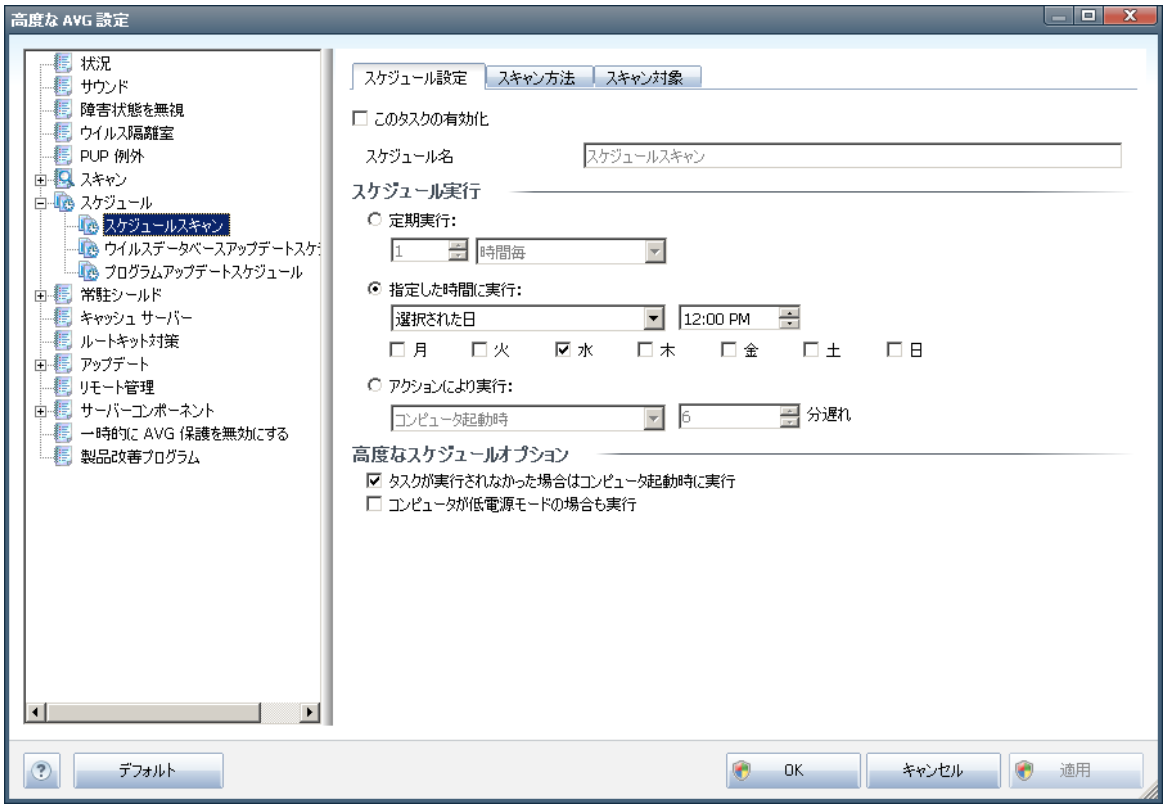
スケジュールセクションでは、デフォルト設定を編集することができます。

- スケジュールスキャン
- ウイルスデータベースアップデートスケジュール
- プログラムアップデートスケジュール

AVG File Server 2011 © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

11.7.1. スケジュール済スキャン

スケジュール済スキャン（*または新しいスケジュール設定*）のパラメータは、3つのタブで編集することができます。



[***スケジュール設定***] タブでは、[***このタスクの有効化***] アイテムのチェックをON/ OFFすることによって、必要に応じて、スケジュール済みスキャンを一時的に有効化/無効化することができます。

次に、[***名前***] テキストフィールド（*すべての既定のスケジュールでは無効化*）には、プログラムベンダーによってこのスケジュールに割り当てられた名前があります。新しく追加されたスケジュール（ナビゲーションツリーの [*スキャンのスケジュール*] ***アイテムを右クリックして新しいスケジュールを追加できます***）の場合、独自の名前を指定できます。その場合は、テキストフィールドが開き、編集できるようになります。スキャンには、必ず簡潔で、説明的で、適切な名前を使用して、後に他のスキャンと区別できるようにしてください。

例： *新規スキャン」あるいは「マイスキャン」という名前は適切ではありません。これらの名前は、実際にスキャンがチェックする対象を指さないからです。「システムエリアスキャン」というような名前が推奨されます。また、スキャンが完全コンピュータスキャンか単に選択されたファイルやフォルダのスキャンであるかを区別する名前を指定することも重要です - 自分のスキャンは常に[選択されたファイルやフォルダのスキャン](#)の特定バージョンにあります。*

このダイアログでは、さらに以下のスキャンパラメータを定義します。

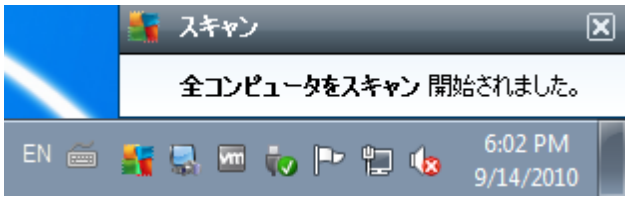
スケジュール実行

ここでは、新しくスケジュールされたスキャンを起動する時間間隔を指定できます。特定の期間が経過した後に繰り返しスキャンを起動（***定期実行...***）、正確な日時を定義（***特定の時間間隔で実行...***）または、スキャン起動のトリガとなるイベントを定義（***コンピュータ起動時のアクションベース***）することでタイミングを定義できます。

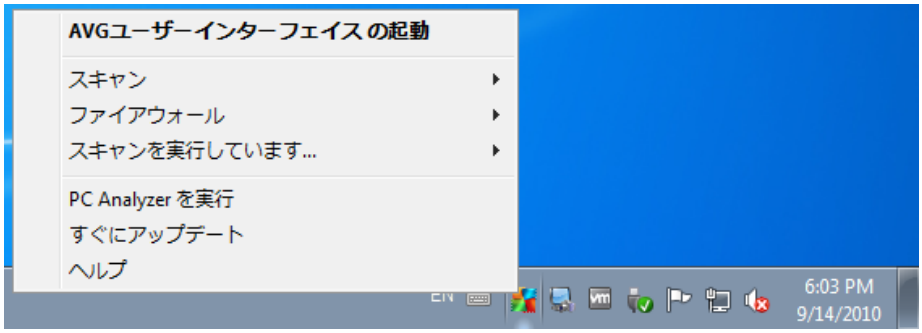
高度なスケジュールオプション

このセクションでは、コンピュータが低電源モードあるいは完全に電源オフになっている場合に、スキャンが実行される条件を定義します。

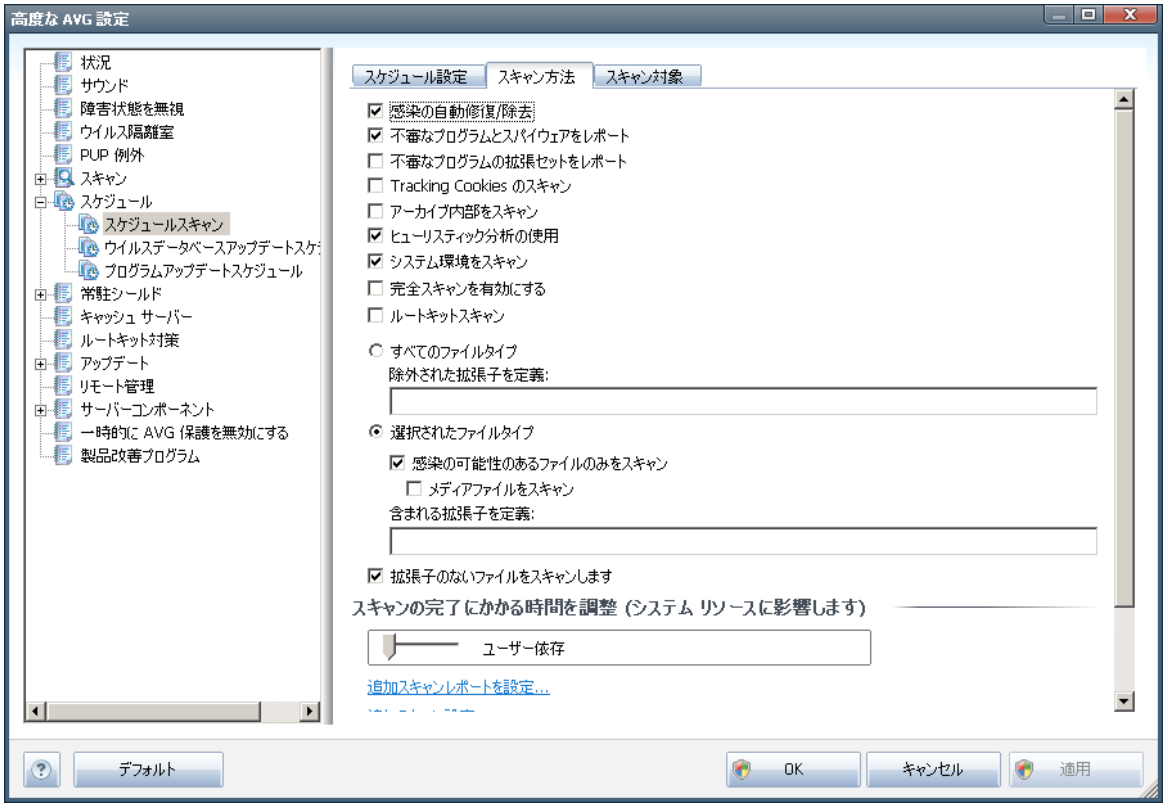
スケジュール済みのスキャンが指定した時間に起動すると、AVGシステムトレイアイコン上に開かれるポップアップウィンドウで通知されます。



次に、スケジュール スキャンが実行中であることを通知する新しいAVG システム トレイ アイコン (*全色で点滅表示*) が表示されます。AVG アイコンを右クリックすると、コンテキスト メニューが開き、実行中のスキャンの一時停止または停止を行えます。また、現在実行中のスキャンの優先度も変更できます。



AVG File Server 2011 c 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.



[***スキャン方法***] タブには、任意でオン/オフを切り替えられるスキャン パラメータの一覧が表示されます。既定ではほとんどのパラメータがオンになっており、その機能はスキャン実行中に適用されます。やむを得ない理由がない場合は、あらかじめ定義された設定を保持することをお勧めします。

- ***自動的に感染を修復/除去する*** *(既定ではオン)*: スキャン実行中にウイルスが特定され、修復可能な場合は、自動的に修復されます。感染したファイルを自動的に修復できない場合、感染したオブジェクトは***ウイルス隔離室***に移動されます。

- ***不審なプログラムとスパイウェア脅威を報告する*** *(既定ではオン)*: チェックを付けると、スパイウェア対策 ***エンジンを有効にし、ウイルスと同時にスパイウェアもスキャンします。スパイウェアは不審なマルウェアの一種です。通常はセキュリティ リスクになりますが、このようなプログラムを故意にインストールすることができます。コンピュータのセキュリティを高めるため、この機能を有効にしておくことをお勧めします。

- ***不審なプログラムの拡張セットを報告する*** *(既定ではオフ)*: チェックを付けると、スパイウェア***の拡張パッケージを検出します。スパイウェアとは、直接製造元から入手する場合にはまったく問題がなく、無害なプログラムですが、後から悪意のある目的で誤用されるおそれのあるプログラムです。これは、コンピュータ セキュリティをさらに高めるための追加的な手段ですが、合法的なプログラムもブロックする可能性があるため、デフォルトではオフになっています。

- ***Tracking Cookie をスキャンする*** *(既定ではオフ)*: ***スパイウェア対策コンポーネントのこのパラメータを定義すると、スキャン実行中に Cookie を検出します (HTTP cookie は、サイトの設定や電子ショッピング カートの内容など、ユーザー固有の情報の認証、追跡、メンテナンスに使用されます)***。

- ***アーカイブの内容をスキャンする*** (*既定ではオフ*): このパラメータを定義すると、ファイルがZIP や RAR などのアーカイブで保存されている場合でも、すべてのファイルに対してスキャンチェックを実行します。

- ***ヒューリスティック分析を使用する*** (*既定ではオン*): ヒューリスティック分析 (*仮想コンピュータ環境で実行されるスキャン対象オブジェクト命令の動的エミュレーション*) は、スキャン実行中に採用されるウイルス検出方法の 1 つです。

- ***システム環境をスキャンする*** (*既定ではオン*): コンピュータのシステム領域もチェックされます。

- ***完全スキャンを有効にする*** (*既定ではオフ*) - このオプションをチェックすると、特定の状況 (*コンピュータが感染している疑いがある場合など*) が発生した場合に最も完全なスキャン アルゴリズムを有効にし、感染の可能性が非常に低いコンピュータ領域もスキャンします。これにより、問題がないことを確実に確認します。この方法を実行すると多少時間がかかります。

- ***ルートキットをスキャンする*** (*既定ではオフ*): この項目にチェックを付けると、完全コンピュータスキャン中にルートキットをスキャンします。また、ルートキット スキャンは***ルートキット対策***コンポーネントでも独自に実行できます。

さらに、スキャンするかどうかを決定する必要があります。

- ***すべてのファイル タイプとスキャン対象ではないファイル拡張子をカンマで区切ったリスト*** (*保存すると、カンマはセミコロンに変わります*) を入力することで、スキャンからの除外を定義できます。

- ***選択したファイル タイプ*** - 感染の可能性のあるファイルのみを指定できます (*一部のプレーン テキスト ファイルやその他の非実行可能ファイルなど感染の可能性がないファイルはスキャンされません*)。これには、メディア ファイル (*ビデオ、オーディオ ファイル*) が含まれます。多くの場合、このようなファイルはサイズが非常に大きく、ウィルスに感染している可能性が非常に低いため、このボックスのチェックを外すと、スキャン時間がさらに短縮されますここでも、必ずスキャンするファイルの拡張子を指定できます。

- 任意で***拡張子のないファイルをスキャン***できます。このオプションは既定ではオンになっています。変更する理由がない場合は、この設定を保持することをお勧めします。拡張子のないファイルは不審であるため、常にスキャンすることをお勧めします。

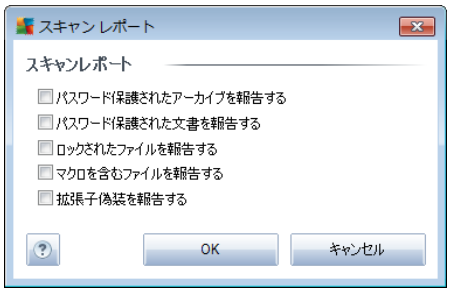
スキャン速度を調整

[***スキャン速度を調整***] セクションでは、システム リソース使用度に応じて、任意のスキャン速度を指定できます。既定ではこのオプションの値は、自動的にリソースを使用する中レベルの値に設定されています。スキャンを高速化すると、スキャン時間を短縮できますが、スキャン実行中にシステム リソース消費量が著しく上がり、PC で実行されている他の作業の速度が低下します (*このオプションは、コンピュータの電源がオンであり、コンピュータ上で作業をしているユーザーがいない場合などに適しています*)。一方、スキャンの時間を延長することで、システム リソース消費量を下げることができます。

追加スキャン レポートを設定

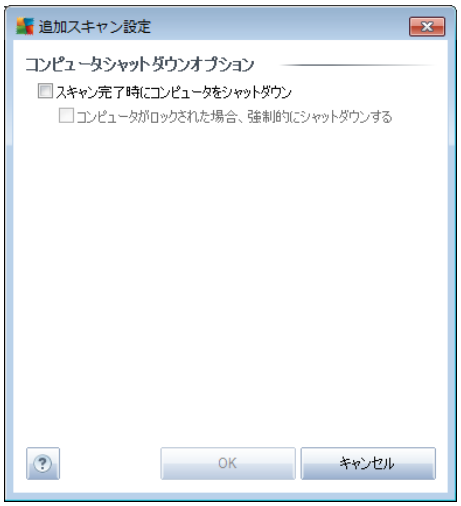
[***追加スキャン レポート...***] リンクをクリックすると、[***スキャン レポート***] ダイアログが開きます。このウィ

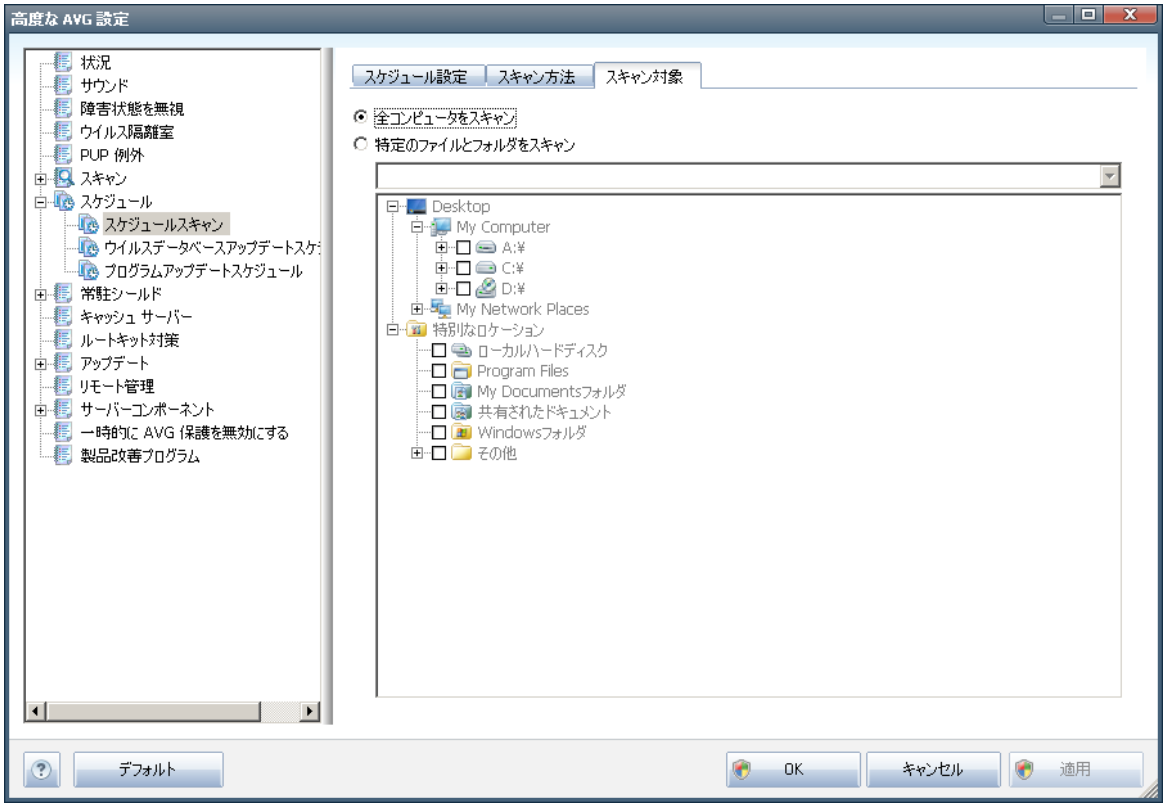
ンドウでは報告する検出項目を定義します。



追加スキャン設定

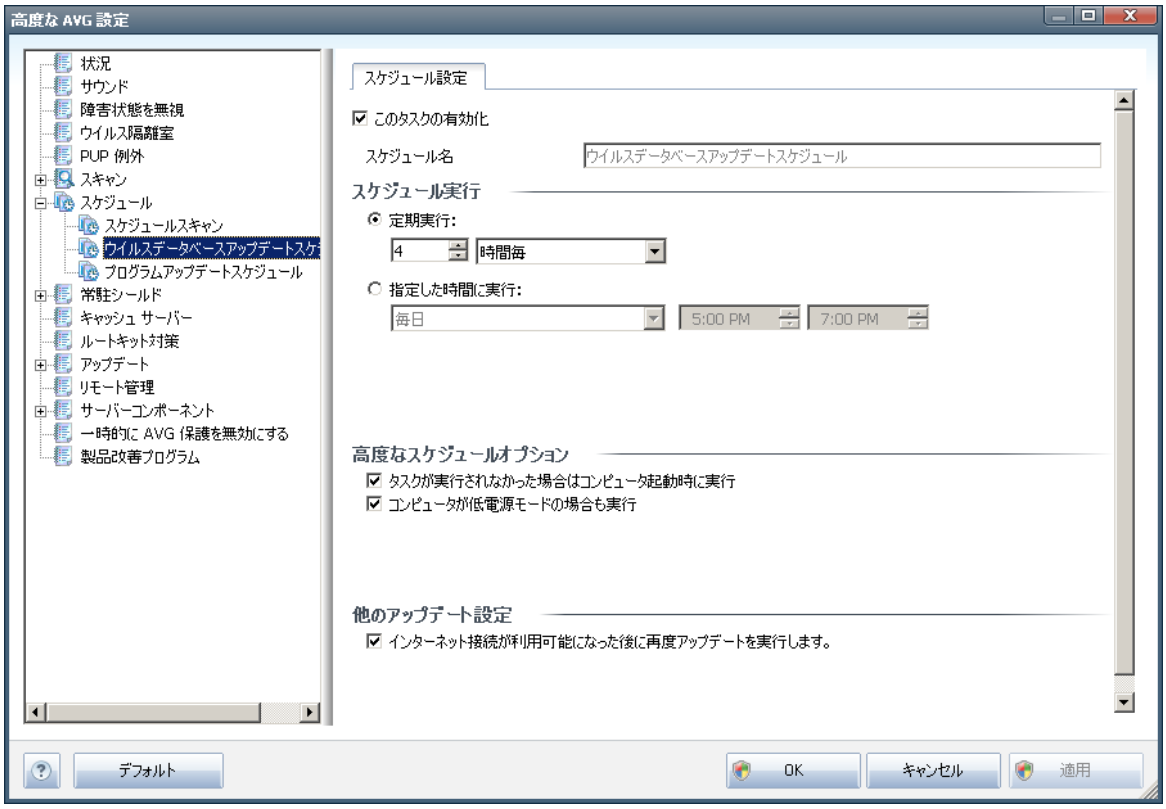
[***追加スキャン設定...***] をクリックすると、新しい***コンピュータ シャットダウン オプション*** ダイアログが表示されます。このダイアログではスキャン処理の終了時に自動的にコンピュータをシャットダウンするかどうかを決定できます。このオプション (***スキャン完了時にコンピュータをシャットダウン***) を選択すると、現時点でコンピュータがロックされている場合でも、コンピュータをシャットダウンさせる新しいオプション (***コンピュータがロックされた場合強制的にシャットダウンする***) が有効になります。





[***スキャン対象***] タブでは、全コンピュータをスキャン、あるいは特定のファイルやフォルダをスキャンのいずれかを選択します。特定のファイルやフォルダスキャンを選択した場合、ダイアログ下部のツリービューで対象フォルダを指定することができます。

11.7.2. ウイルス データベース アップデート スケジュール



[***スケジュール設定***] タブでは、[***このタスクの有効化***] アイテムにチェックを付けたり外したりすることによって、必要に応じて、簡単にスケジュール済みのウイルスデータベースアップデートを一時的に非アクティブにしたり、再度オンに切り替えたりすることができます。基本的なウイルスデータベースアップデートスケジュールは***アップデートマネージャ***コンポーネントに含まれます。このダイアログでは、一部の詳細なウイルスデータベースアップデートスケジュールのパラメータを設定します。[***名前***] テキストフィールド (*すべての既定のスケジュールでは無効化*) には、プログラムベンダーによってこのスケジュールに割り当てられた名前があります。

スケジュール実行

このセクションでは、新しくスケジュールされたウィルスデータベースを起動する時間間隔を指定します。タイミングは、特定の期間の後に繰り返し起動するアップデート (***...ごとに実行***) または正確な日時 (***特定の時刻に実行...***) を指定することで、定義できます。

高度なスケジュールオプション

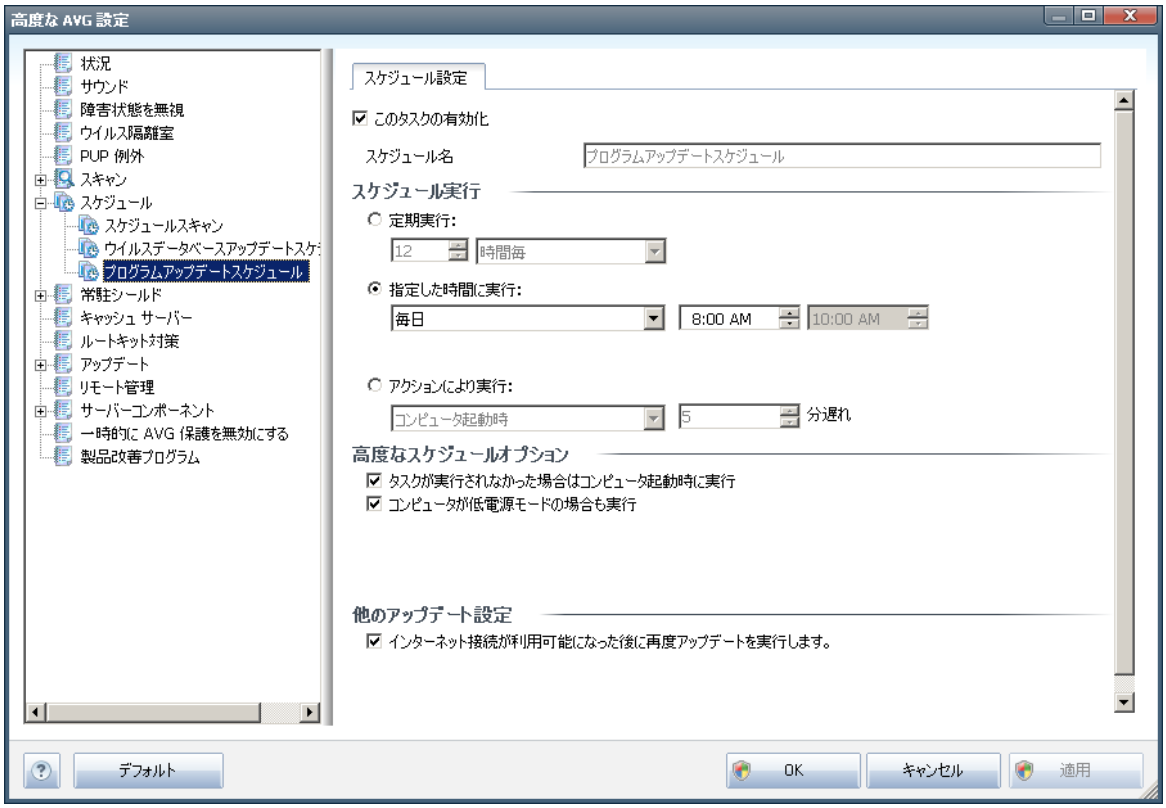
このセクションでは、コンピュータが低電源モードあるいは完全に電源オフになっている場合に、ウイルスデータベースアップデートが実行される条件を定義します。

他のアップデート設定

最後に、[***インターネット接続が利用できるようになった時点ですぐにアップデートを再実行する***] オプションにチェックをすると、インターネット接続に障害が発生し、アップデート処理が失敗した場合、インターネット接続が復旧した時点で必ずすぐにアップデートを再開するようにできます。

スケジュール済みのアップデートが指定した時間に起動すると、AVGシステムトレイアイコン上に開くポップアップウィンドウによってこのことが通知されます（***高度な設定/表示***ダイアログの既定の設定を保持している場合）。

11.7.3. プログラム アップデート スケジュール



[***スケジュール設定***] タブでは、[***このタスクの有効化***] アイテムにチェックを付けたり外したりすることによって、必要に応じて、簡単にスケジュール済みのプログラムアップデートを一時的に無効にしたり、再度有効に切り替えたりすることができます。[***名前***] テキストフィールド（*すべての既定のスケジュールでは無効化*）には、プログラムベンダーによってこのスケジュールに割り当てられた名前があります。

スケジュール実行

ここでは、プログラムアップデート実行時間を指定します。タイミングは、***定期実行***、***指定した時間に実行***、***アクションにより実行***のいずれかによって定義することができます。

AVG File Server 2011 c 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

高度なスケジュールオプション

このセクションでは、コンピュータが低電源モードあるいは完全に電源オフになっている場合に、プログラムアップデートが実行される条件を定義します。

他のアップデート設定

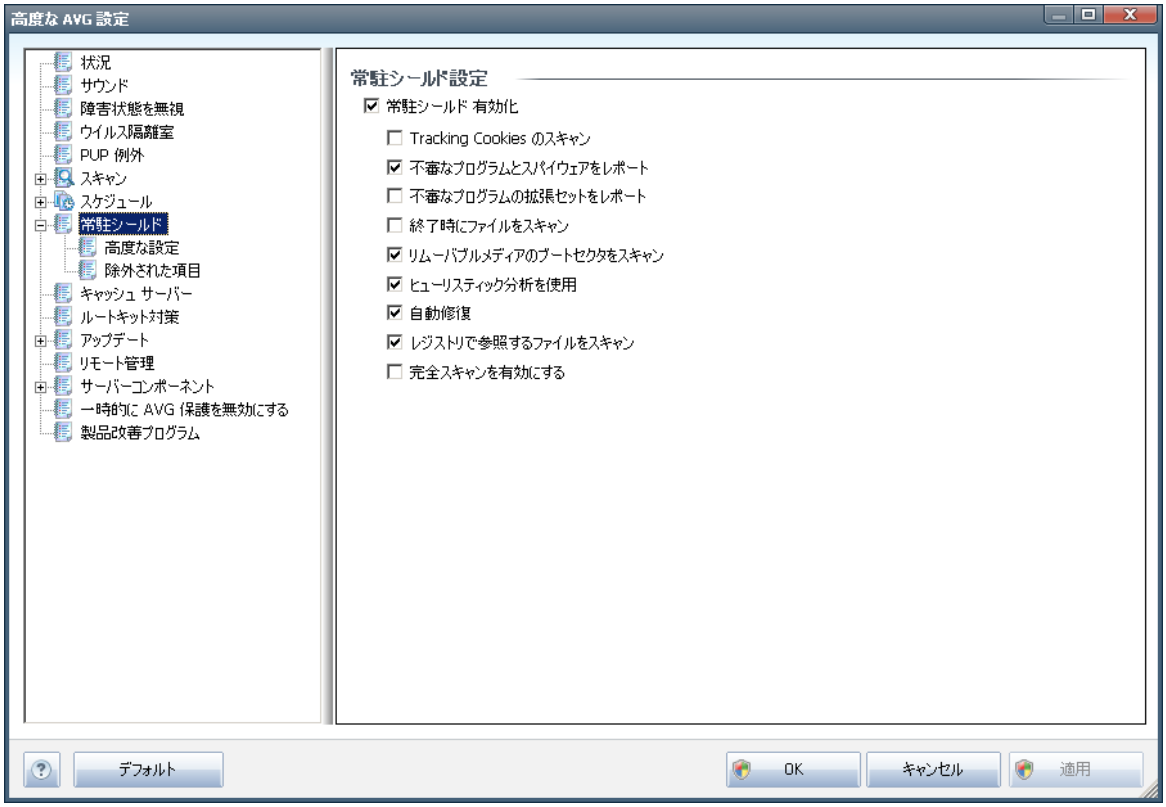
[***インターネット接続が利用できるようになった時点ですぐにアップデートを再実行する***] オプションにチェックをすると、インターネット接続に障害が発生し、アップデート処理が失敗した場合、インターネット接続が復旧した時点で必ずすぐにアップデートを再開するようにできます。

スケジュール済みのアップデートが指定した時間に起動すると、AVGシステムトレイアイコン上に開くポップアップウィンドウによってこのことが通知されます（***高度な設定/表示***ダイアログの既定の設定を保持している場合）。

***注意**: スケジュール済みプログラムアップデートおよびスケジュール済みスキャンの時間と一致する場合は、アップデートプロセスが最優先され、スキャンは中断されます。*

11.8. 常駐シールド

常駐シールドコンポーネントは、ウイルス、スパイウェア、他のマルウェアに対して、ファイルとフォルダをリアルタイムで保護します。



[***常駐シールド設定***] ダイアログでは、[***常駐シールドを有効化***] 項目 (***このオプションは既定ではオンです***) をオン/オフにして、*常駐シールド*保護を完全に有効化または無効化できます。また、どの***常駐シールド***機能を有効化するかを選択します。

- ***Tracking Cookie をスキャンする*** (*既定ではオフ*) - このパラメータを指定すると、スキャン中に Cookies が検出されます。 (*HTTP cookies は、認証、トラッキング、サイトのプリファレンスや電子ショッピングカードの内容等の特定のユーザー情報の保持に使用されます*)

- ***不審なプログラムとスパイウェアをレポート*** - (*デフォルトではオン*): チェックを付けると、***スパイウェア対策エンジンを有効化し、ウイルスと同時にスパイウェアもスキャンします。*** スパイウェアは、疑わしいマルウェアのカテゴリに含まれます。通常は、セキュリティリスクとなる場合でも、このようなプログラムを故意にインストールすることができます。コンピュータのセキュリティを高めるため、この機能を有効にしておくことをお勧めします。

- ***不審なプログラムの拡張セットを報告する*** (既定ではオフ) - *チェックを付けると*、スパイウェア***の拡張パッケージを検出します。スパイウェアとは、直接製造元から入手する場合には、完全に問題がなく、無害なプログラムですが、後から悪意のある目的で誤用されるおそれのあるプログラムです。これは、コンピュータセキュリティをさらに高めるための追加的な手段ですが、合法的なプログラムもブロックする可能性があるため、デフォルトではオフになっています。

- ***ファイルを閉じるときにスキャン*** (*既定ではオフ*) - 終了時のスキャンを有効にすると、アクティブなオブジェクト (アプリケーションやドキュメントなど) の実行または終了時に AVG スキャンが実行されます。この機能はコンピュータを一部の高度なウイルスから保護する上で役立ちます。

- ***リムーバブルメディアのブートセクターをスキャンする*** - (*既定ではオン*)

- ***ヒューリスティック分析を使用する*** - (*既定ではオン*) ヒューリスティック分析 (*仮想コンピュータ環境でのスキャンオブジェクトの動的エミュレーション*) を使用して検出します。

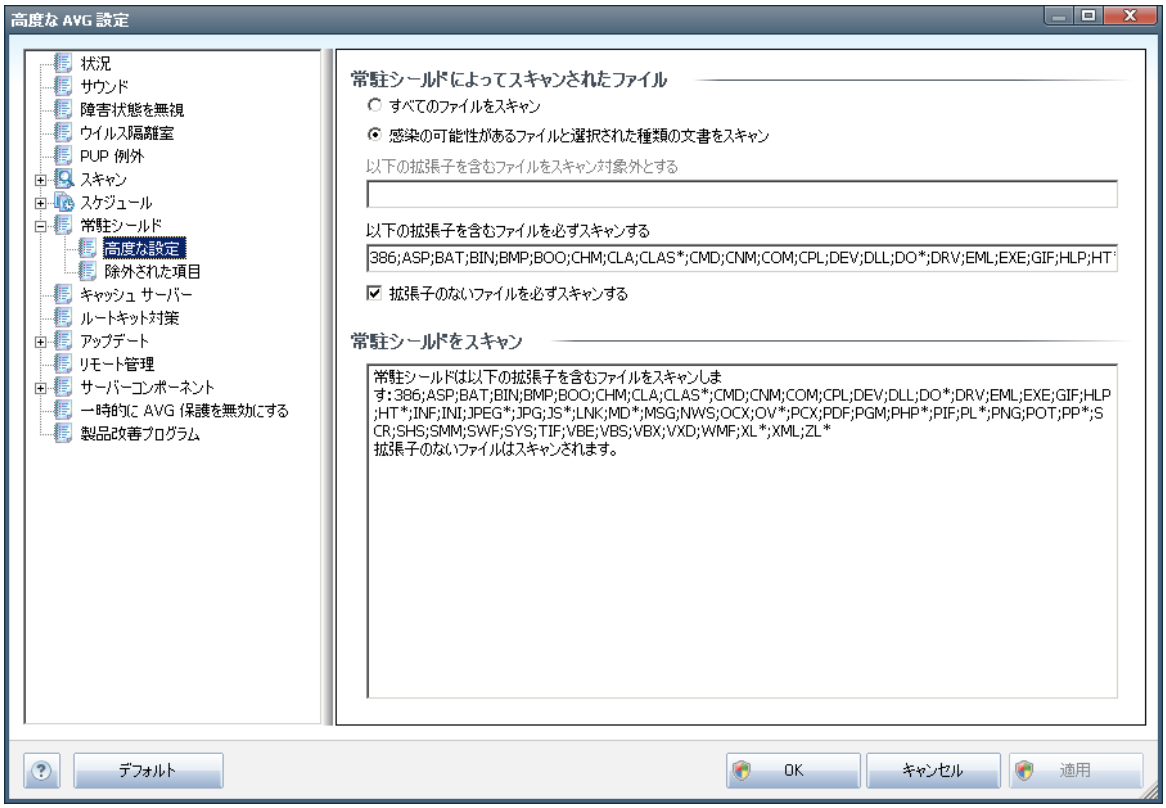
- ***自動修復*** (*既定ではオフ*) - 修復が可能な場合は、検出されたファイルはすべて自動的に修復されます。修復できない感染はすべて削除されます。

- ***レジストリで参照されるファイルをスキャンする*** (*既定ではオン*) - このパラメータを定義すると、スタートアップレジストリに追加されたすべての実行ファイルが AVG によってスキャンされるため、次回のコンピュータ再起動時に既知の感染が実行されることはありません。

- ***完全スキャンを有効にする*** (*既定ではオフ*) - このオプションにチェックを付けると、特定の状況 (*緊急事態*) において最も完全なアルゴリズムを有効にして、脅威の原因となる可能性のあるすべてオブジェクトを徹底的にチェックします。この方法を実行すると多少時間がかかります。

11.8.1. 高度な設定

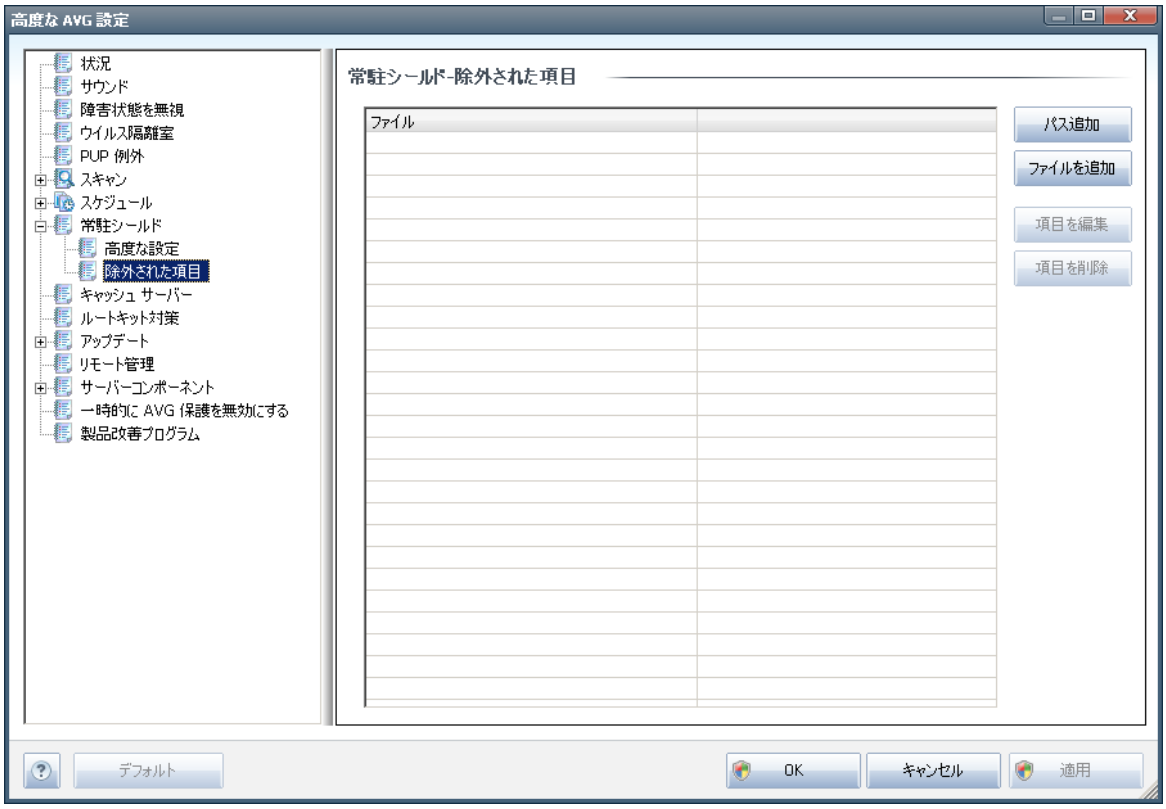
[***常駐シールドによってスキャンされたファイル***] ダイアログでは、スキャン対象のファイルを*特定の拡張子を指定して*設定できます。



すべてのファイルをスキャンするか、感染の可能性のあるファイルのみをスキャンするかを指定します。後者の場合、さらに、スキャンから除外されるファイル拡張子を指定できます。また、必ずスキャンするファイル拡張子を指定することもできます。

下の [***常駐シールドがスキャンするアイテム***] セクションには現在の設定がまとめて表示されます。□

11.8.2. 除外された項目



[***常駐シールド- 例外項目***] ダイアログでは、***常駐シールド***スキャンから除外されるフォルダを定義できます。

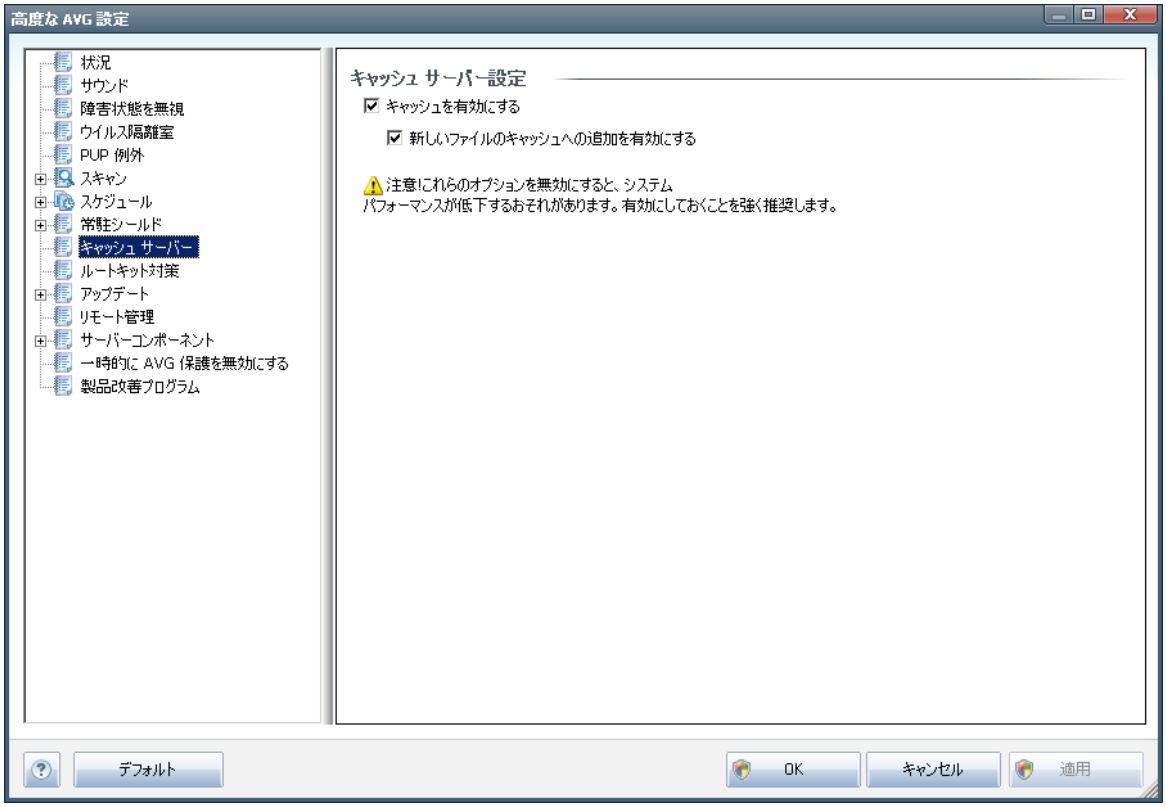
必要な場合を除き、すべての項目を含めることを強くお勧めします。

ダイアログには次のコントロール ボタンがあります。

- ***パスの追加*** ローカル ディスクのナビゲーション ツリーからディレクトリを 1 つずつ選択してスキャン対象から除外するディレクトリを指定します。
- ***ファイルの追加*** ローカル ディスク ナビゲーション ツリーからファイルを 1 つずつ選択してスキャン対象から除外するファイルを指定します。
- ***項目の編集*** 選択したファイルまたはフォルダへの特定のパスを編集できます。
- ***項目の削除*** 選択した項目へのパスをリストから削除できます

11.9. キャッシュ サーバー

キャッシュ サーバーは、すべてのスキャン (*オンデマンド スキャン、スケジュールされた完全コンピュータ スキャン、常駐シールド スキャン*) *の速度を向上するために設計されている処理です。*信頼できるファイル (*デジタル署名のあるシステム ファイルなど*) *の情報を収集して保持します。*このようなファイルは安全であると見なされ、スキャン処理中はスキップされます。



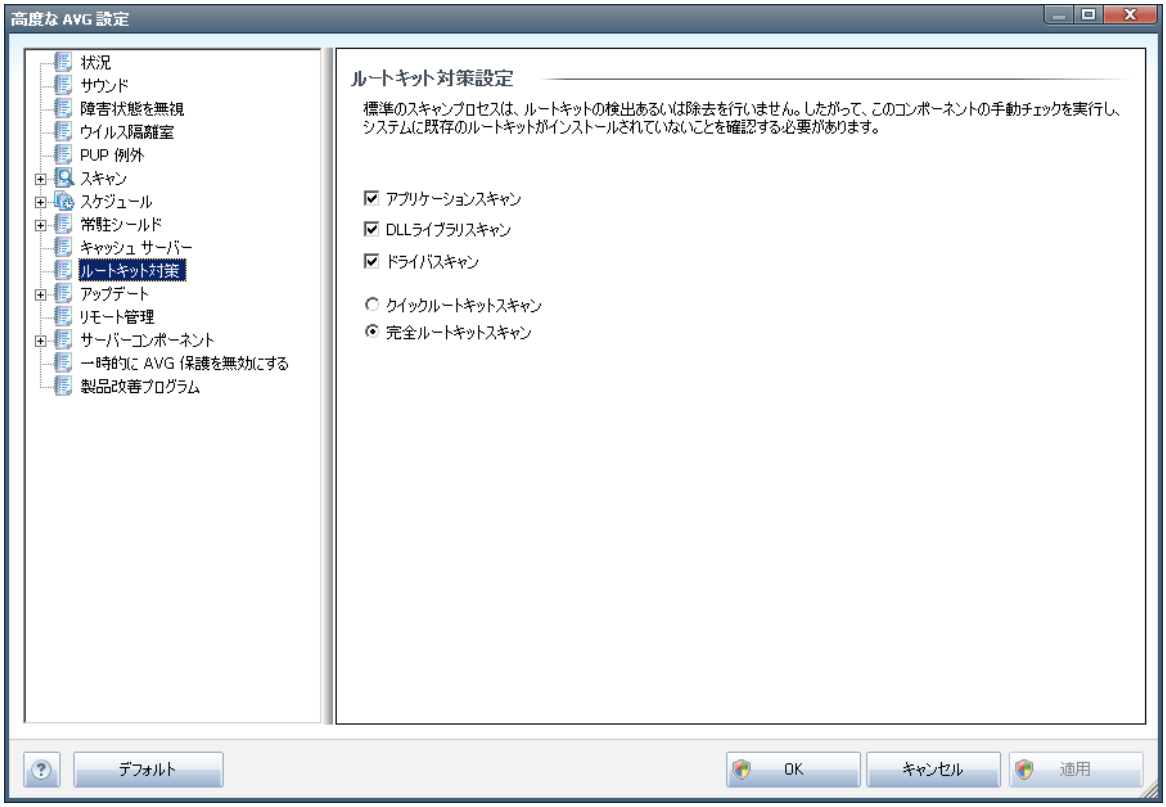
設定ダイアログには 2 つのオプションがあります。

- ***キャッシュを有効にする*** (*デフォルトではオン*) - チェックを外すと、***キャッシュ サーバー***をオフに切り替え、キャッシュ メモリを空にします。最初に使用中のすべてのファイルが 1 つずつウィルスおよびスパイウェア スキャンされるため、スキャンの速度が低下し、コンピュータの全体的なパフォーマンスが低下する可能性があります。

- ***新しいファイルのキャッシュへの追加を有効にする*** (*デフォルトではオン*) - チェックを外すと、キャッシュ メモリへのファイルの追加を停止します。キャッシュを完全にオフにするか、次回のウィルス データベース アップデートまで、既にキャッシュに保存されたファイルのすべてが保持され使用されます。

11.10. ルートキット対策

このダイアログでは、***ルートキット対策***コンポーネントのコンフィグレーションを編集できます。



このダイアログ内で提供されている***ルートキット***コンポーネントのすべての機能に対する編集は、***ルートキット対策コンポーネントのインターフェース***から直接行うこともできます。

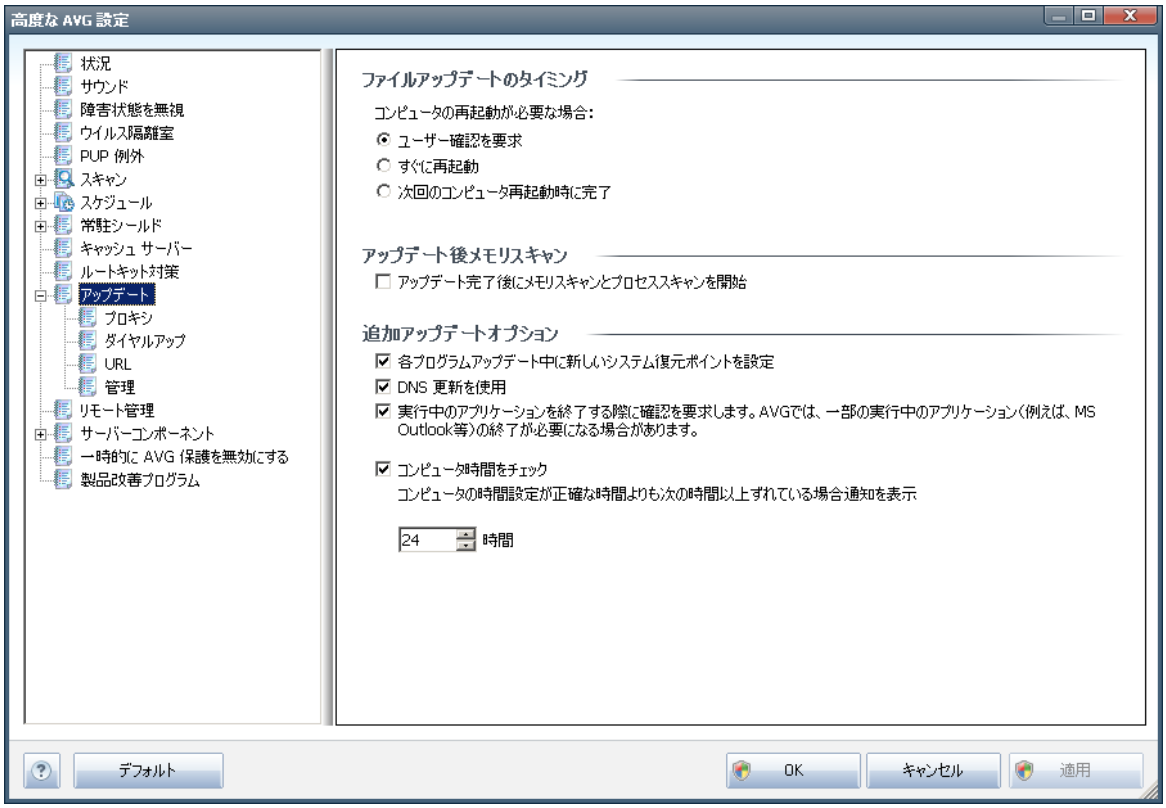
該当するチェックボックスにチェックを付け、スキャン対象オブジェクトを指定します。

- ***アプリケーション スキャン***
- ***DLL ライブラリスキャン***
- ***ドライバ スキャン***

さらに、ルートキット スキャン モードを選択できます。

- ***クイック ルートキット スキャン*** - すべての実行中のプロセス、ロードされたドライバ、およびシステム フォルダ (*通常は、c:\Windows*) をスキャンします。
- ***完全 ルートキット スキャン*** - すべての実行中のプロセス、ロードされたドライバ、システム フォルダ (*通常は、c:\Windows*)、およびすべてのローカル ディスク (*フラッシュ ディスクは含まれますが、フロッピー ディスクおよび CD ドライブは含まれません*) をスキャンします。

11.11. アップデート



アップデートナビゲーションは、新しいダイアログを開きます。このダイアログでは、AVGアップデートに関する一般的なパラメータを指定します。

ファイルアップデートのタイミング

このセクションでは、2つのオプションのうち1つを選択できます。アップデートは、次回のPCの再起動時、またはすぐにアップデートされます。デフォルトでは、すぐにアップデート が選択されています。この設定で、AVGは最大限の安全を保証します。コンピュータが定期的に、少なくとも毎日再起動されるということが確実な場合にのみ、次回のコンピュータ再起動時にアップデートするようにスケジュールすることをお勧めします。

デフォルトの設定を保持し、アップデートプロセスをすぐに実行する場合、コンピュータを再起動する条件を指定します。

- ***ユーザーの確認を要求*** - アップデートプロセス完了に必要なPC再起動を確認する画面が表示されます。
- ***すぐに再起動*** - コンピュータはアップデートプロセスが完了した時点で、自動的に即時再起動されます。
- ***次回のコンピュータ再起動時に完了*** アップデートプロセスの完了は次回のコンピュータ再起動時まで延期されます。- また、このオプションは、コンピュータが定期的に、少なくとも毎日

再起動されるということが確実な場合にのみ推奨されます。

アップデート後メモリスキャン

このチェックボックスをオンにすると、各アップデートが正常に完了した後に、新しいメモリスキャンを起動するように定義します。ダウンロードした最新のアップデートには新しいウィルス定義が含まれている場合がありますが、即時スキャンに適用されます。

追加アップデートオプション

- ***各プログラム更新中に新しいシステム復旧ポイントを作成する*** - 各 AVG プログラム更新の起動前に、システム復旧ポイントが作成されます。アップデートプロセスが失敗し、オペレーティングシステムがクラッシュする場合には、必ずこのポイントから元のコンフィグレーションでOSを復旧できます。このオプションは、スタート/ プログラム/ アクセサリ/ システムツール/ システムの復元からアクセスできますが、上級ユーザーのみが変更を行うようにすることをお勧めします。この機能を使用する場合は、このチェックボックスにチェックを付けておきます。

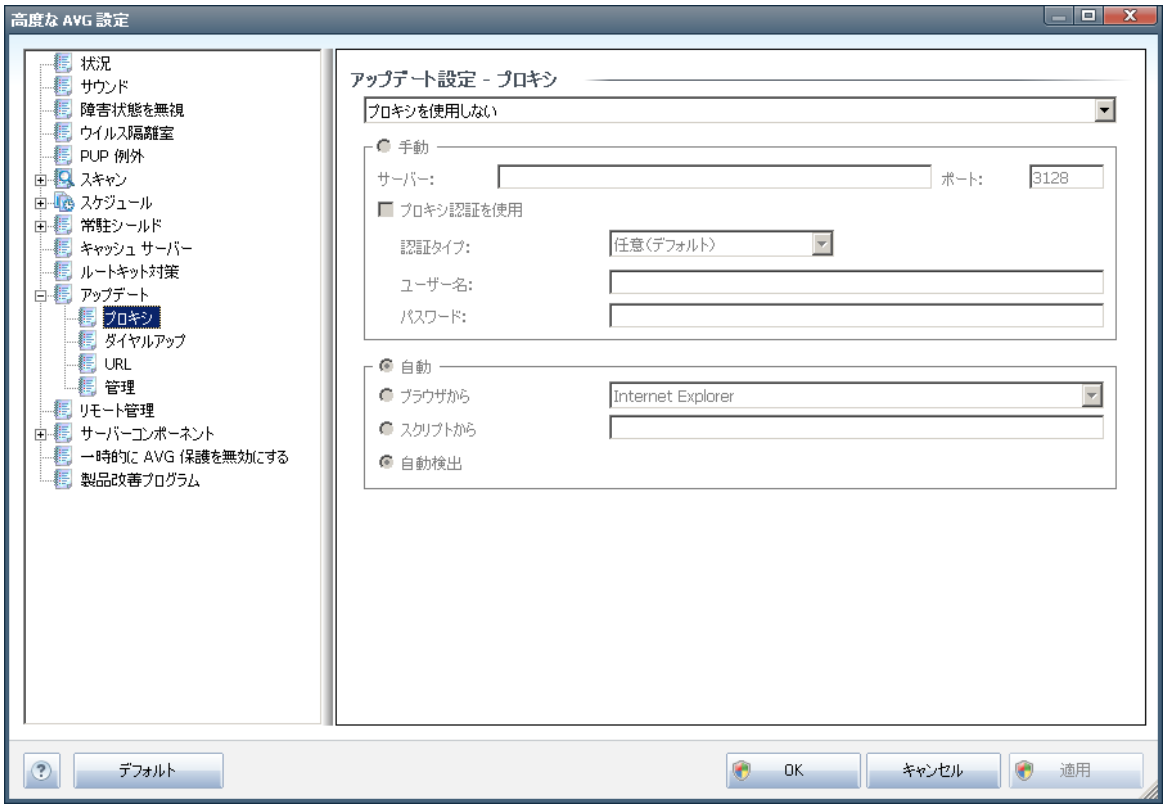
- ***DNS アップデートを使用*** - このチェックボックスにチェックを付けると、アップデートサーバーとAVG クライアント間で転送されるデータ量を削減するアップデートファイル検出方法を使用します。

- ***実行中のアプリケーションを終了する確認を要求***（*デフォルトではオン*）をチェックすることで、アップデートプロセスの完了に必要な場合、現在実行中のアプリケーションが許可なく終了しないように確認できます。

- ***コンピュータ時間を確認*** - このオプションにチェックを付けると、コンピュータ時間と正確な時間との差が指定された時間よりも大きい場合に通知を表示するよう宣言します。

 c 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

11.11.1. プロキシ



プロキシサーバーとは、より安全なインターネット接続を保証するスタンドアロンサーバー、またはPC上のサービスです。特定のネットワークルールによって、インターネットに直接またはプロキシサーバーを介して接続できます。次に、***アップデート設定 - プロキシ***ダイアログの最初のアイテムで、コンボボックスメニューから希望するものを選択する必要があります。

- ***プロキシを使用***
- ***プロキシ サーバーを使用しない*** - デフォルト設定
- ***プロキシを使用して接続し、失敗した場合のみ直接接続します。***

プロキシを使用するオプションを選択した場合、さらにいくつかのデータを指定する必要があります。サーバー設定は手動あるいは自動で行われます。

手動設定

手動設定（***手動***オプションをチェックすると、該当する入力欄が有効化されます）を選択する場合、以下の項目を指定してください。

- ***サーバー*** サーバーのIPアドレスまたはサーバー名を指定します。
- ***ポート*** インターネットアクセスを許可するポート番号を指定します（デフォルトでは、この番号

は3128に設定されていますが、変更可能です 不明な場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください)

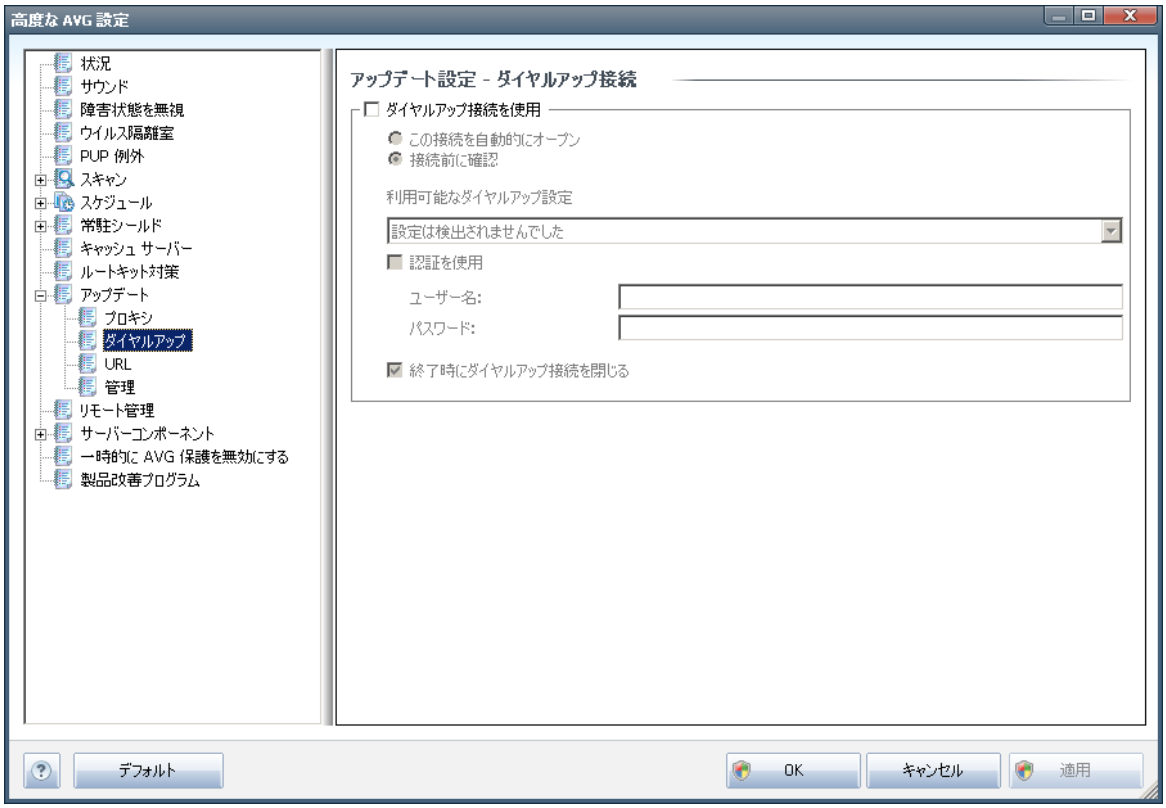
プロキシサーバーは、各ユーザーのルールを設定することもできます。プロキシサーバーがこのように設定されている場合、***プロキシ認証を使用***にチェックを付け、有効なユーザー名とパスワードを入力してください。

自動設定

自動設定を選択する場合 (***自動***を選択すると、該当する入力欄が有効化されます。)、プロキシ設定をどこから取得するかを選択します。

- ***ブラウザから*** - 既定のインターネットブラウザから設定を読み取ります。
- ***スクリプトから*** - 設定は、プロキシアドレスを返す機能とともに、ダウンロードされたスクリプトから読み込まれます。
- ***自動検出*** - 設定は、プロキシサーバーから直接検出されます。

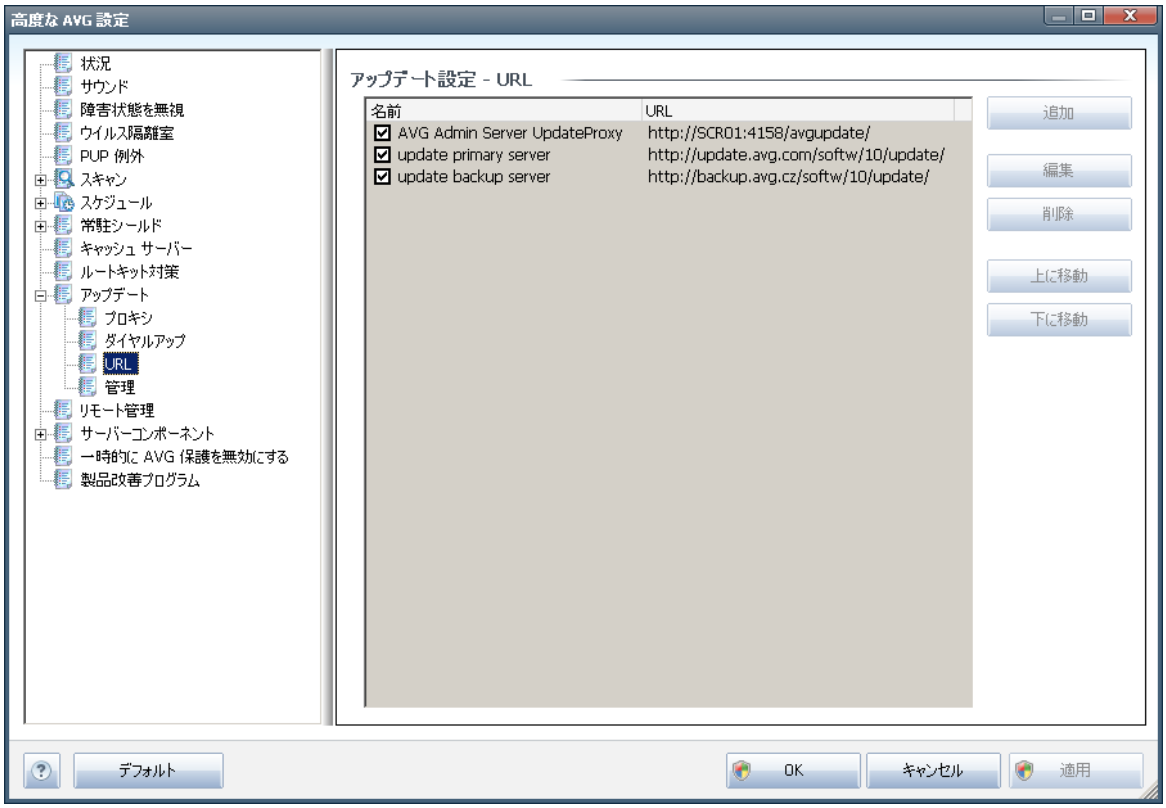
11.11.2. ダイヤルアップ



アップデート設定 - ダイヤルアップ接続ダイアログでは、インターネットへのダイヤルアップ接続のためのパラメータを設定します。各欄は***ダイヤルアップ接続を使用***オプションをチェックすると、変更可能となります。

インターネットに自動接続（***自動的にこの接続をオープン***）するか、毎回手動で接続を確認（***接続前に確認***）するかを指定します。自動接続については、さらに接続がアップデート終了後に切断されるかどうかを選択します（***終了後ダイヤルアップ接続を閉じる***）。

11.11.3. URL



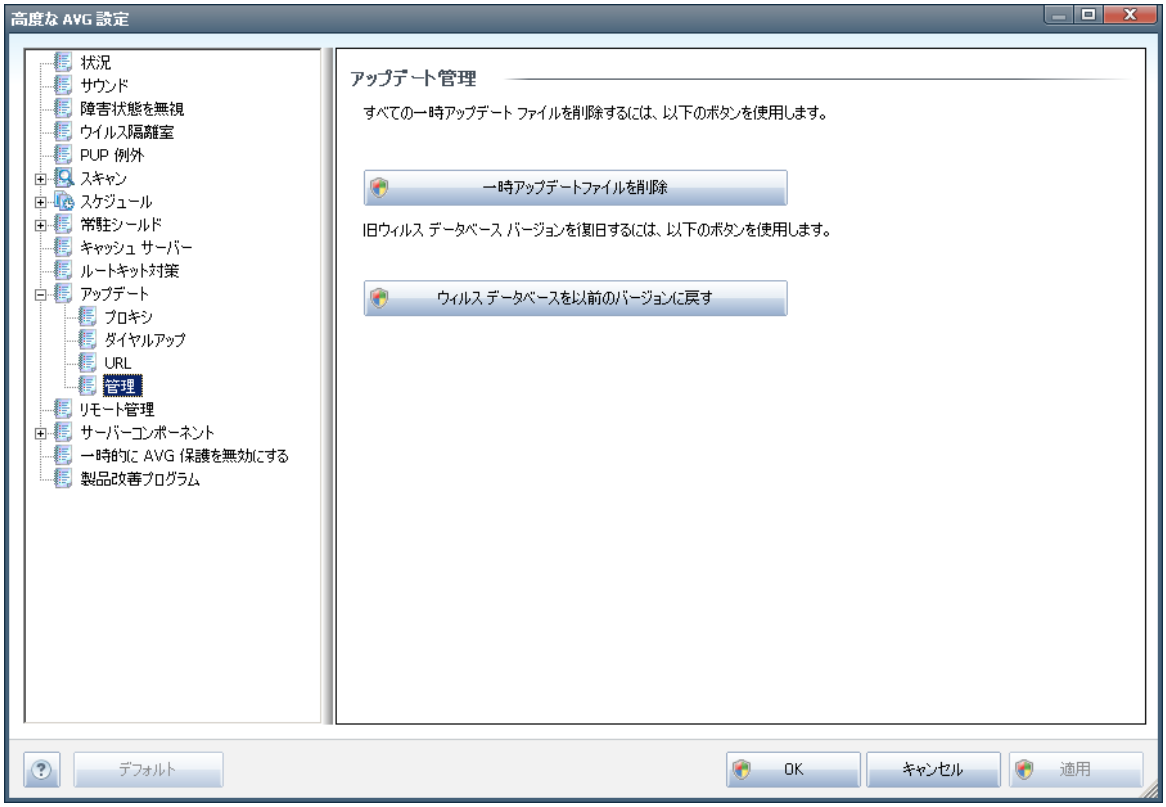
URLダイアログでは、アップデートファイルがダウンロードされるインターネットアドレスのリストが表示されます。このリストは、以下のコントロールボタンを使用して修正します。

- ***追加*** ダイアログを開き、新しいURLを指定してリストに追加します
- ***編集*** ダイアログを開き、選択されたURLパラメータを編集します。
- ***削除*** 選択されたURLをリストから削除します。
- ***上に移動*** 選択されたURLを1つ上の場所に移動します。
- ***下に移動*** 選択されたURLを1つ下の場所に移動します。

AVG File Server 2011 © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

11.11.4. 管理

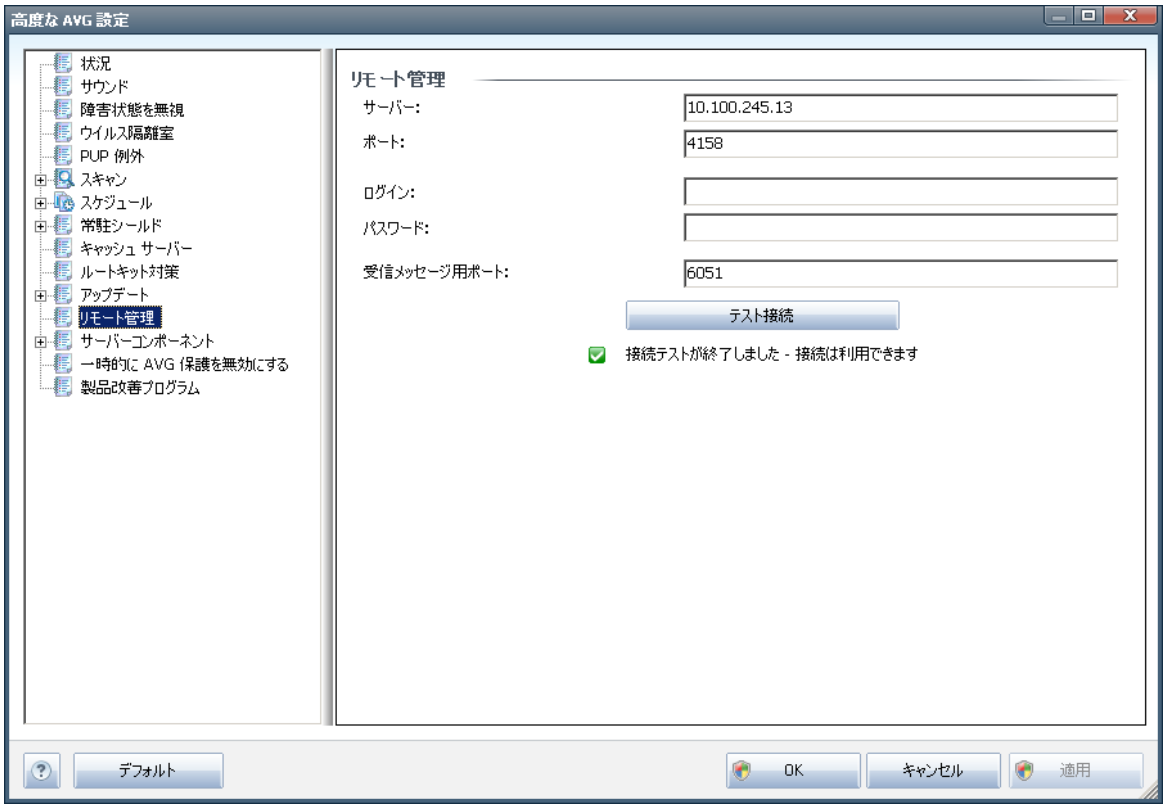
[***管理***] ダイアログには 2 つのオプションがあり、2 つのボタンを使用してアクセスできます。



- ***一時アップデートファイルの削除*** - このボタンをクリックすると、すべての重複するアップデートファイルをハードディスクから削除します（*デフォルトでは、これらのファイルは 30 日間保存されます*）
- ***ウイルスデータベースを以前のバージョンに戻す*** - このボタンをクリックすると、最新のウイルスベースのバージョンをハードディスクから削除し、以前に保存されたバージョンに戻します（*新しいウイルスベースのバージョンは次回のアップデートに含まれます*）

AVG File Server 2011 © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

11.12. リモート管理



遠隔管理設定は、AVG クライアントを遠隔管理システムに接続させるための設定です。各ステーションを遠隔管理に接続する場合は、次のパラメータを指定してください。

- ***サーバー*** - AVG 管理サーバーがインストールされているサーバー名 (あるいはサーバー IP アドレス)
- ***ポート*** - AVG クライアントが AVG 管理サーバーと通信するポート番号を指定します (*既定のポート番号は 4158 です。このポート番号を使用しない場合は、ポート番号を明示的に指定する必要があります*)
- ***ログイン*** - AVG クライアントと AVG 管理サーバー間の通信が安全な通信として定義されている場合は、ユーザー名を指定します ...
- ***パスワード*** - パスワードも指定します。
- ***受信メッセージポート*** - AVG クライアントが受信メッセージを AVG 管理サーバーから受信するポート番号

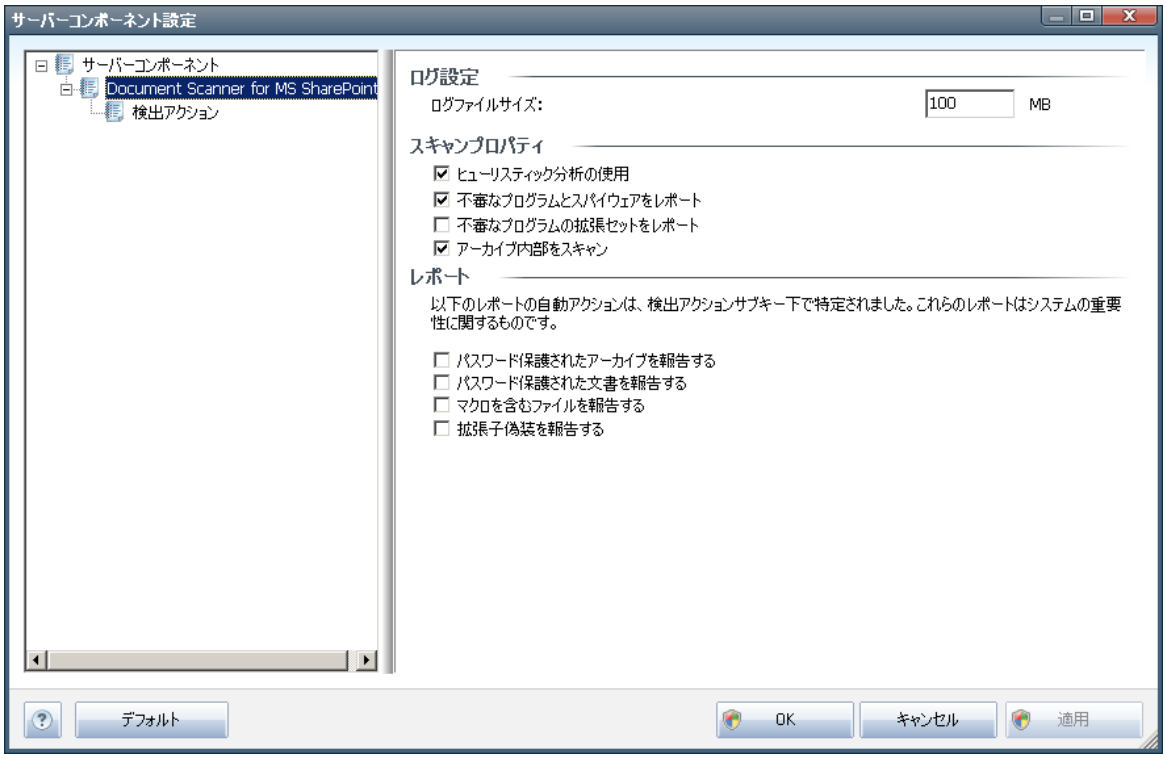
[***テスト接続***] ボタンをクリックすると、上記のすべてのデータが有効で DataCenter に正常に接続できていることを検証できます。

メモ: *遠隔管理の詳細については、AVG Business Edition のマニュアルを参照してください。*

11.13. サーバーコンポーネント

11.13.1. Document Scanner for MS SharePoint

このダイアログには、***Document Scanner for MS SharePoint*** ドキュメント ウィルス スキャン パフォーマンスの事前設定されたオプションが表示されます。このダイアログには複数のセクションがあります。



ログ設定

ログ ファイル サイズ フィールド - ログ ファイルには、プログラム ライブラリ ロード メモ、ウィルス検出イベント、トラブルシューティング、警告などのさまざまな ***Document Scanner for MS SharePoint*** 関連のイベントの記録が含まれています。テキスト フィールドを使用して、このファイルの最大サイズを設定します。

スキャン プロパティ

- ***ヒューリスティック分析を使用する*** - チェックを付けると、ヒューリスティックス検出方式を使用してドキュメントをチェックします。このオプションがオンの場合、拡張子だけでなく、実際の文書の内容を考慮して文書をフィルタリングできます。
- ***不審なプログラムとスパイウェアを報告する*** - チェックを付けると、スパイウェア対策エンジンを使用し、文書をスキャンする際に不審なプログラムも検出して報告します。

- ***不審なプログラムの拡張設定を報告する*** - チェックを付けると、スパイウェアの拡張パッケージを検出します。スパイウェアは、製造元から直接取得する場合には完全に問題がなく無害なプログラムですが、後から悪意のある目的で悪用されるおそれのあるプログラムです。また、常に無害ですが、望ましくないプログラムもあります (各種ツールバーなど)。この機能はコンピュータセキュリティと快適性をさらに高めるための追加的な手段ですが、合法的なプログラムもブロックする可能性があるため、既定ではオフになっています。メモ: この検出機能は前のオプションの追加機能です。したがって、基本タイプのスパイウェアに対する保護を適用する場合には、必ず前のボックスにもチェックを付けた状態にしてください。

- ***アーカイブ内部をスキャンする*** - チェックを付けるとアーカイブの内容をスキャンします。

レポート

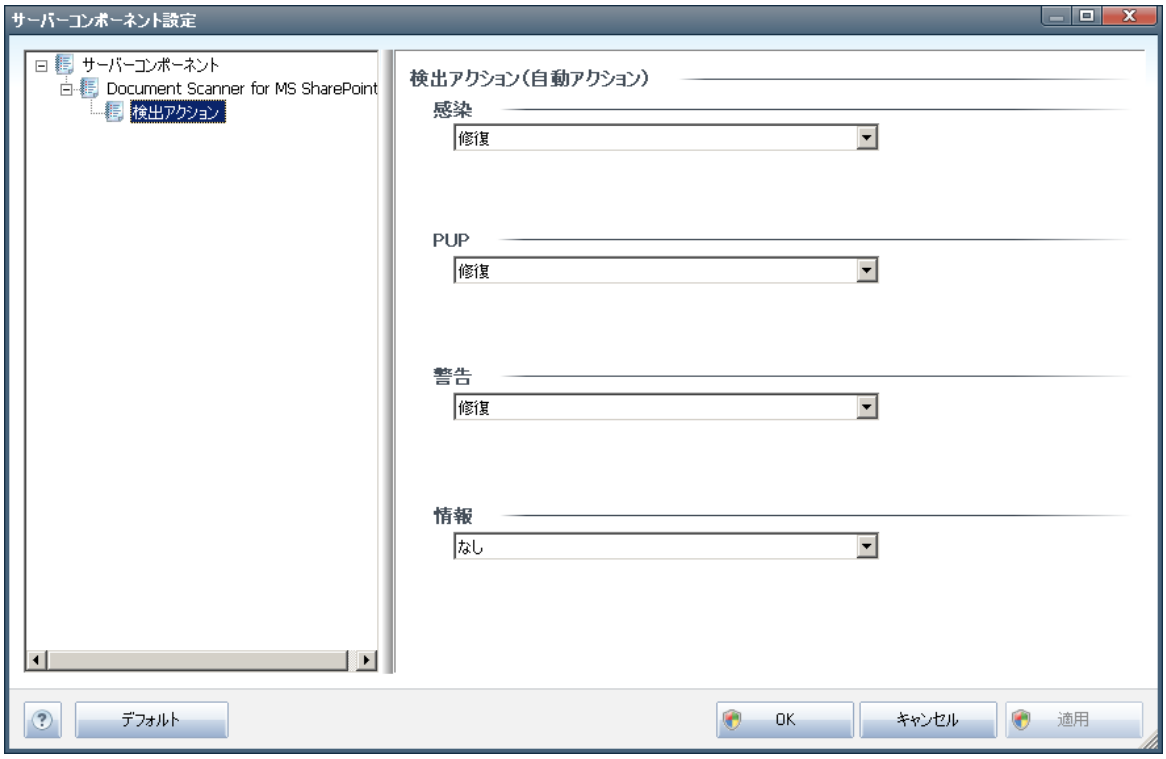
- ***パスワード保護されたアーカイブを報告する*** - パスワードで保護されたアーカイブ (ZIP、RAR など) のウイルススキャンはできません。ボックスにチェックを付けると、このようなアーカイブを潜在的に危険なオブジェクトとして報告します。

- ***パスワード保護された文書を報告する*** パスワードによって保護された文書のウイルススキャンはできません。ボックスにチェックを付けると、潜在的に危険なオブジェクトとしてこのようなドキュメントを報告します。

- ***マクロを含むファイルを報告する*** マクロはあるタスクを簡単に実行するためのあらかじめ定義された一連の命令です (MS Wordのマクロが広く知られています)。マクロには潜在的に危険な命令が含まれる可能性があります。ボックスにチェックを付けると、マクロを含むファイルを不審なファイルとして報告します。

- ***拡張子偽装を報告する*** たとえば、不審な実行可能ファイル「something.txt.exe」が、無害なテキストファイル「something.txt」として偽装されている場合があります。ボックスにチェックを付けると、このような拡張子を潜在的に危険なオブジェクトとして報告します。

11.13.2. 検出アクション



このダイアログでは、***Document Scanner for MS SharePoint*** コンポーネントで脅威を検出したときの動作方法を設定できます。脅威は複数のカテゴリに分類されます。

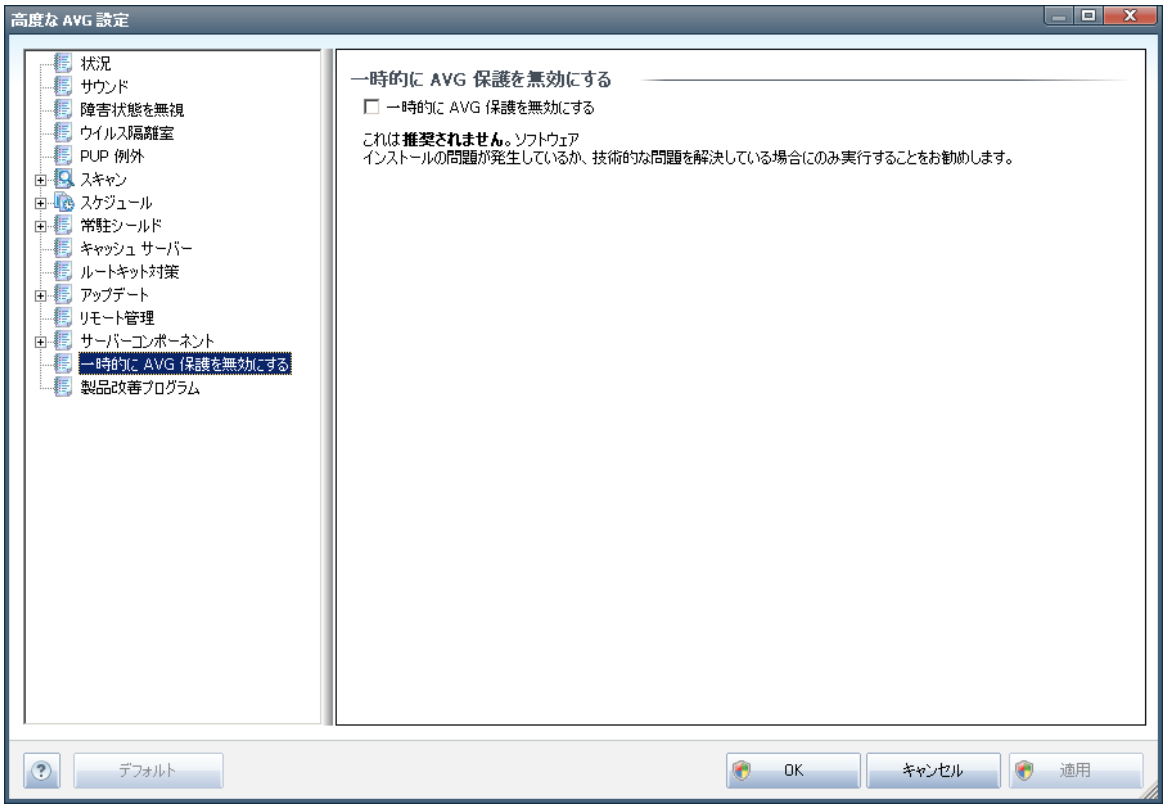
- ***感染*** - それ自体をコピーして拡大させる悪意のあるコード。多くの場合、被害が出るまで気付くことはありません。
- ***PUP (不審なプログラム)*** - 一般的に、明らかに深刻なものから潜在的なプライバシー脅威に過ぎないものまでさまざまな種類があります。
- ***警告*** - 検出されたオブジェクトをスキャンできません。
- ***情報*** - 検出されたすべての潜在的な脅威のうち、上記のいずれのカテゴリにも分類できない項目が表示されます。

ロールダウンメニューを使用して、各検出内容に対する自動アクションを選択します。

- ***なし*** - このような脅威を含むドキュメントは処理されません。
- ***修復*** - 感染したファイルやドキュメントの修復を試みます。
- ***隔離室に移動*** - すべての感染した文書はウイルス隔離環境に移動します。
- ***削除*** - ウィルスが検出された文書は削除されます。

AVG File Server 2011 c 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

11.14. 一時的に AVG 保護を無効にする



[***一時的に AVG 保護を無効にする***] ダイアログでは、**AVG File Server 2011** の保護機能すべてを一度にオフにすることができます。

やむを得ない場合を除き、このオプションの使用はお勧めしません。

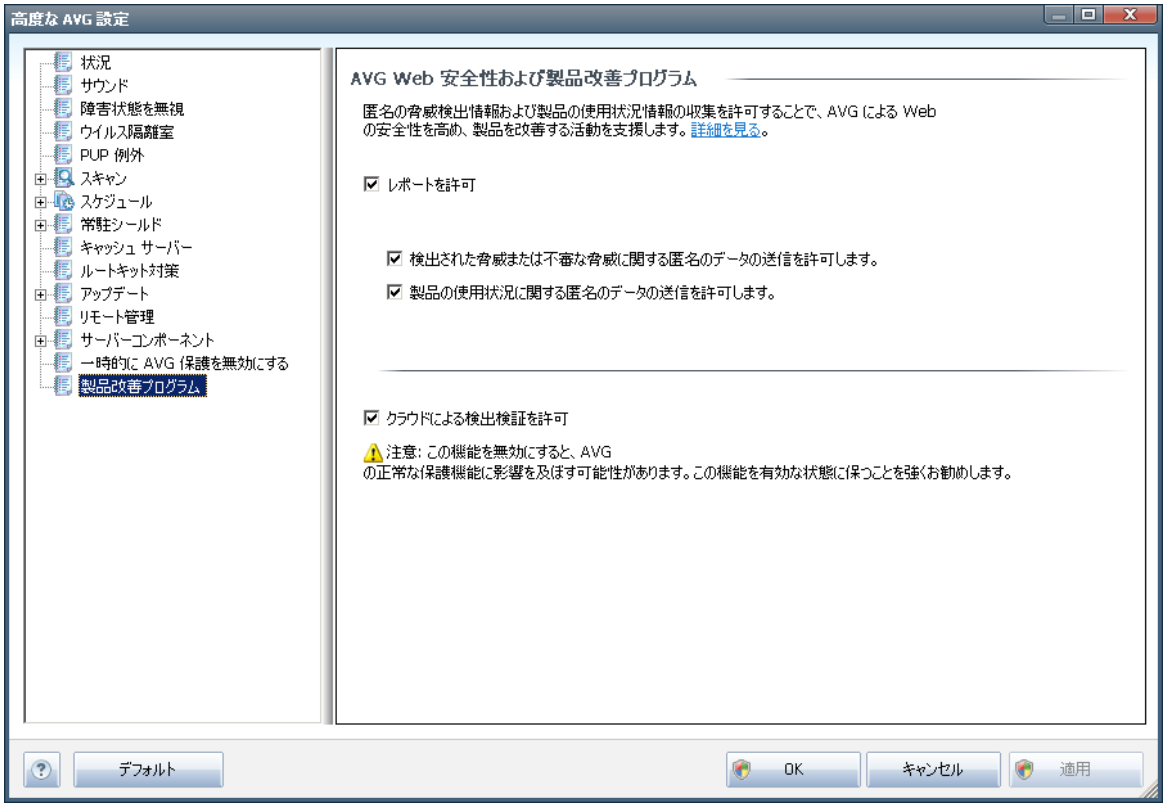
インストール処理中に望ましくない中断が発生しないようにするために、インストーラやソフトウェア ウィザードで実行中のプログラムやアプリケーションを終了するように指示される場合がありますが、それでも通常は新しいソフトウェアやドライバをインストールする前に、AVG を無効にする***必要はありません***。インストール中に問題が発生した場合は、まず***常駐シールド*** コンポーネントを無効にしてください。一時的に AVG を無効にする必要がある場合は、できる限り速やかに再有効化することをお勧めします。ウィルス対策ソフトウェアが無効な状態でインターネットやネットワークに接続している場合は、コンピュータが攻撃の危険にさらされています。

11.15. 製品改善プログラム

[***AVG Web 安全性および製品改善プログラム***] ダイアログでは、AVG 製品改善プログラムへの参加で実現できる全体的なインターネット セキュリティ レベルの向上について案内されます。[***報告を許可する***] オプションにチェックを付けると、検出した脅威を AVG に報告します。世界中のすべての参加者から最新の脅威に関する情報を収集し、保護を向上させます。

報告は自動的に実行され、面倒な手間はありません。また、個人情報は一切含まれません。
検出された脅威の報告は任意ですが、お客様にはこの機能をオンにしていただくようにお願いしております。これはお客様を含むすべての AVG ユーザーの保護を向上させる上で役立ちます。

AVG File Server 2011 c 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.



今日においては、単なるウイルスだけではなく、さまざまな脅威が存在します。悪意のあるコードと危険な Web サイトの作成者は非常に革新的であり、新しい種類の脅威が常に出現しています。そしてその多くはインターネット上に存在しているのです。一般的な脅威:

- ***ウイルスとは、それ自体をコピーし、拡大させる悪意のあるコードで、多くの場合、被害が出るまで気が付きません。*** 一部のウイルスは深刻な脅威であり、独自の方法で、ファイルを削除したり意図的に変更したりします。ウイルスには、音楽を演奏するなど、一見無害のように見えるものもあります。ただし、すべてのウイルスは基本的に増殖する能力を持つため危険です。1 つのウイルスでさえコンピュータメモリ全体をすぐに制御し、障害を引き起こします。

- ***ワーム***はウイルスの下位カテゴリに含まれています。通常のウイルスと異なり、ワームは感染する「キャリア」を必要としません。通常、ワームが含まれたメールが他のコンピュータに送信されます。その結果、メール サーバーとネットワーク システムの過負荷状態などを引き起こします。

- ***スパイウェア***は、通常マルウェアのカテゴリとして定義されます (*マルウェアとはウイルスを含む悪意のあるソフトウェアのことです*)。*このマルウェアには、コンピュータの所有者が知らない間に同意なく個人情報、パスワード、クレジット カード番号を盗んだり、コンピュータに侵入し、攻撃者にリモートでコンピュータをコントロールさせたりすることを目的とするプログラム (通常はトロイの木馬) が含まれます。*

- ***不審なプログラム***はスパイウェアの一種ですが、必ずしもコンピュータに被害を及ぼすとは限りません。PUP の具体的な例としては、ポップアップ広告を表示させ、広告を配信することを目的としたソフトウェアであるアドウェアがあります。これらは迷惑ではあるものの実際には無害です。

AVG File Server 2011 c 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

- □□□***Tracking cookie*** もスパイウェアの一種と見なされます。この小さなファイルは Web ブラウザに保存され、再度アクセスした際、自動的に「親」Web サイトに送信されます。Tracking cookie には閲覧履歴などのデータが含まれています。

- ***エクスプロイト***はオペレーティング システム、インターネット ブラウザ、あるいは重要なプログラムの欠陥や脆弱性を利用する悪意のあるコードです。

- ***フィッシング***は信頼できる有名な組織を装って重要な個人情報データを取得しようとする試みです。たとえば、被害者宛てに銀行口座の詳細情報を更新するように求める大量のメールが送信されます。ユーザーはリンクに従い、偽の銀行の Web サイトに誘導されます。

- ***Hoax は危険な情報、何かを警告する情報、あるいはただ単に迷惑で無用な情報を含む大量のメールです。*** 上記の脅威の多くは Hoax メール メッセージを使用して広がります。

- 悪意のある Web サイトとは、故意に悪意のあるソフトウェアをコンピュータにインストールするものです。ハッカーに攻撃されたサイトにも同様にアクセスしたユーザーを感染させる危険が潜んでいますが、このようなサイトは本来は合法的な Web サイトです。

このようなさまざまな脅威からコンピュータを保護するために、AVG には次の特別なコンポーネントが含まれています。

- ***コンピュータをウイルスから保護するウイルス対策***、

- ***コンピュータをスパイウェアから保護するスパイウェア対策***。

12. AVG スキャン

スキャンは **AVG File Server 2011** 機能の最重要な要素です。オンデマンドでスキャンを実行したり、時間を指定して定期的に実行されるようにスケジュールすることもできます。

12.1. スキャン インターフェース

コンピュータ スキャナ クイック リンクから AVG スキャン インターフェースにアクセスできます。このリンクをクリックすると、***脅威のスキャン***ダイアログに切り替わります。このダイアログには、以下の情報が表示されます。

- あらかじめ定義されたスキャンの概要 - 3 種類のスキャン（ソフトウェアベンダにより定義）がオンデマンドでの即時使用またはスケジュールでの使用に準備されています。
    - ***完全コンピュータ スキャン***
    - ***特定のファイルとフォルダをスキャン***
    - ***ルートキット対策スキャン***
- スキャンスケジュールセクション - ここでは必要に応じて、新しいスキャンを作成することができます。

コントロールボタン

スキャンインターフェースで利用できるコントロールボタンは以下の通りです。

- ***スキャン履歴*** - スキャンの履歴全体を含む***スキャン結果概要***ダイアログを表示します。

AVG File Server 2011 c 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

- ***ウイルス隔離室を見る*** - ***ウイルス隔離室***を表示します。

12.2. 定義済みスキャン

AVG File Server 2011 の主要な機能の 1 つは、オンデマンド スキャンです。オンデマンド スキャンは、ウイルス感染の疑いがある場合、コンピュータの各領域をいつでもスキャンできるように設計されています。たとえウイルスがコンピュータに存在しないと思われる場合でも、このスキャンを定期的に実行することを強くお勧めします。

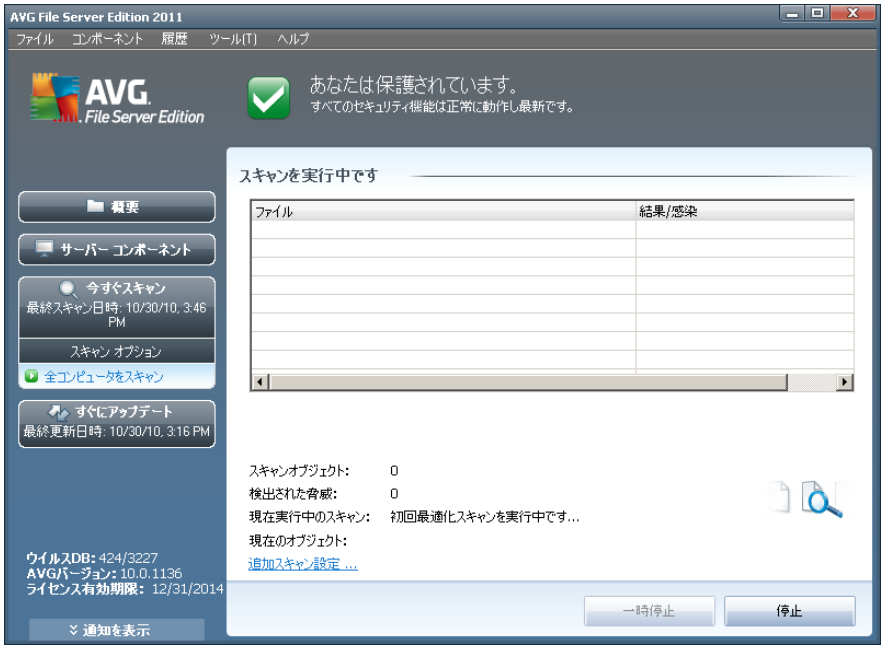
AVG File Server 2011 には、ソフトウェア ベンダがあらかじめ定義した次のスキャンがあります。

12.2.1. 完全コンピュータ スキャン

完全コンピュータ スキャン - コンピュータを完全にスキャンして、感染と不審なプログラムがあるかどうかを確認します。このスキャンはコンピュータのハード ドライブ全体をスキャンし、ウイルス感染の検出、修復、検出した感染の***ウイルス隔離室***への移動を実行します。週に 1 度以上は完全コンピュータ スキャンを実行するようにスケジュールを設定してください。。

スキャン実行

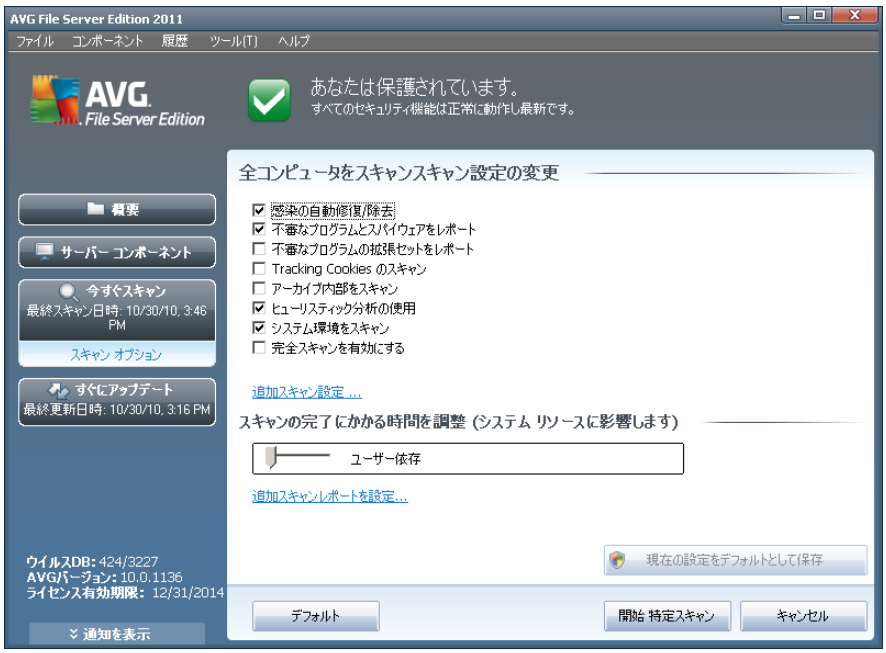
スキャン アイコンをクリックすると、***完全コンピュータ スキャン***をスキャン インターフェースから直接実行できます。このスキャンに対して、さらに特別な設定は必要ありません。スキャンは [***スキャン実行中***] ダイアログ内で即時開始されます (*スクリーンショット*を参照)。必要に応じて、スキャンを一時的に中断 (***一時停止***) またはキャンセル (***停止***) できます。



スキャン設定編集

完全コンピュータ スキャンの既定の設定を編集することもできます。[***スキャン設定を変更***] リンクを

クリックすると、[***完全コンピュータスキャンのスキャン設定の変更***] ダイアログ (*完全コンピュータスキャンの [スキャン設定を変更] リンク経由でスキャンインターフェースからアクセス可能*) が表示されます。***特に理由がない場合は、この既定の設定を保持することをお勧めします。***



- ***スキャンパラメータ*** - スキャンパラメータの一覧では、必要に応じて特定のパラメータのオン/オフを切り替えることができます。

  - ***自動的に感染を修復/除去する*** (*既定ではオン*): スキャン実行中にウイルスが特定され、修復可能な場合は、自動的に修復されます。感染したファイルを自動的に修復できない場合、感染したオブジェクトは***ウィルス隔離室***に移動されます。

  - ***不審なプログラムとスパイウェア脅威を報告する***(*既定ではオン*): チェックを付けると、***スパイウェア対策***エンジンを有効にし、ウイルスと同時にスパイウェアもスキャンします。スパイウェアは不審なマルウェアの一種です。通常はセキュリティリスクになりますが、このようなプログラムを故意にインストールすることができます。コンピュータのセキュリティを高めるため、この機能を有効にしておくことをお勧めします。

  - ***不審なプログラムの拡張セットを報告する*** (*既定ではオフ*): チェックを付けると、スパイウェアの拡張パッケージを検出します。スパイウェアとは、直接製造元から入手する場合にはまったく問題がなく、無害なプログラムですが、後から悪意のある目的で誤用されるおそれのあるプログラムです。これは、コンピュータセキュリティをさらに高めるための追加的な手段ですが、合法的なプログラムもブロックする可能性があるため、デフォルトではオフになっています。

  - ***Tracking Cookie をスキャンする*** (*既定ではオフ*) - ***スパイウェア対策コンポーネントのこのパラメータを定義すると、Cookie を検出します*** (HTTP cookie は、サイトの設定や電子ショッピングカートの内容など、ユーザー固有の情報の認証、追跡、メンテナンスに使用されます)。

  - ***アーカイブの内容をスキャンする*** (*既定ではオフ*) - ZIP や RAR などのアーカイブ内

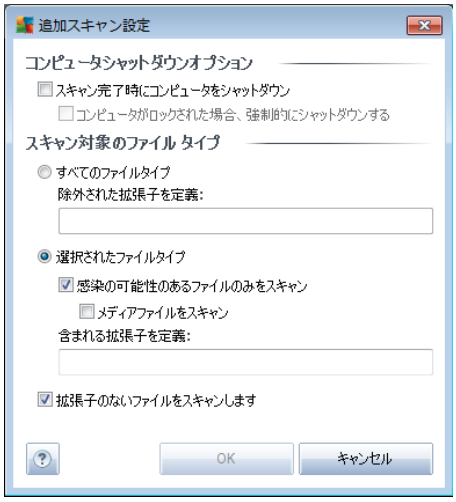
に格納されているすべてのファイルをスキャンします。

- ***ヒューリスティック分析を使用する*** (*既定ではオン*) - ヒューリスティック分析 (*仮想コンピュータ環境で実行されるスキャン対象オブジェクト命令の動的エミュレーション*) は、スキャン実行中に採用されるウイルス検出方法の 1 つです。

- ***システム環境をスキャンする*** (*既定ではオン*) - コンピュータのシステム領域もチェックされます。

- ***完全スキャンを有効にする*** (*既定ではオフ*) - このオプションをチェックすると、特定の状況 (*コンピュータが感染している疑いがある場合など*) が発生した場合に最も完全なスキャン アルゴリズムを有効にし、感染の可能性が非常に低いコンピュータ領域もスキャンします。これにより、問題がないことを確実に確認します。この方法を実行すると多少時間がかかります。

- ***追加スキャン設定*** - このリンクをクリックすると、新しい [追加スキャン設定] ダイアログが開きます。このダイアログでは、次のパラメータを指定できます。



- ***コンピュータのシャットダウン オプション*** - 実行中のスキャン処理が終了した時点で自動的にコンピュータをシャットダウンするかどうかを決定します。このオプション (***スキャン完了時にコンピュータをシャットダウン***) を選択すると、現時点でコンピュータがロックされている場合でも、コンピュータをシャットダウンさせる新しいオプション (***コンピュータがロックされた場合強制的にシャットダウンする***) が有効になります。

- ***スキャンのファイル タイプを定義*** - さらに、スキャンするかどうかを決定する必要があります。

  - ***すべてのファイル タイプと***スキャン対象ではないファイル拡張子をカンマで区切ったリストを入力することで、スキャンからの除外を定義できます。

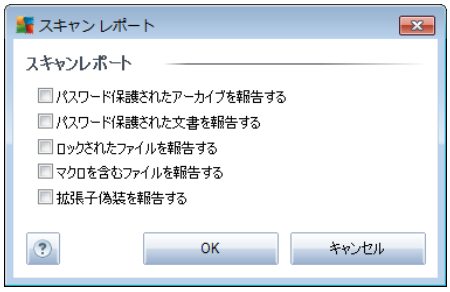
  - ***選択したファイル タイプ*** - 感染の可能性のあるファイルのみを指定できます (*一部のプレーン テキスト ファイルやその他の非実行可能ファイルなど*感染の可能性がないファイルはスキャンされません)。これには、メディア ファイル (*ビデオ、オーディオ ファイル*) が含まれます。多くの場合、このようなファイルはサイズが非常に大きく、ウィルスに感染している可能性が非常に低いため、このボックスのチェックを外すと、

スキャン時間がさらに短縮されますここでも、必ずスキャンするファイルの拡張子を指定できます。

- 任意で***拡張子のないファイルをスキャン***できます。このオプションは既定ではオンになっています。変更する理由がない場合は、この設定を保持することをお勧めします。拡張子のないファイルは不審であるため、常にスキャンすることをお勧めします。

- ***スキャンの実行速度を調整*** - スライダを使用して、スキャン処理の優先度を変更できます。既定では、スキャン処理の速度とシステムリソース消費を最適化するユーザー依存優先度レベルに設定されています。低速でスキャン処理を実行してシステムリソース負荷を最小化(*コンピュータで同時に作業をする必要があり、スキャンに時間がかかってもよい場合に便利です*)したり、システムリソース消費量の高い高速スキャン(*コンピュータが一時的に使用されていない場合などに便利です*)を実行したりできます。

- ***追加スキャンレポートを設定*** - このリンクをクリックすると、[***スキャンレポート***]ダイアログが開きます。このダイアログでは、レポート対象の検出の種類を選択できます。



警告: *これらのスキャン設定は新規に定義されたスキャンパラメータと同じです。* ***AVG スキャン/ スキャン スケジュール/ スキャン方法*** *」の章を参照してください。* ***完全コンピュータスキャン****の既定の設定を変更する場合、新しい設定を既定の設定として保存し、すべての完全コンピュータスキャンに適用できます。*

12.2.2. 特定のファイルとフォルダのスキャン

特定のファイルやフォルダをスキャン - 選択した領域のみスキャンします(*選択したフォルダ、ハードディスク、フロッピーディスク、CD など*)。ウイルス検出や処理のスキャン進捗は完全コンピュータスキャンの場合と同じです。検出されたウイルスは修復されるか***ウイルス隔離室***に移動されます。特定のファイルやフォルダのスキャンでは、ユーザー独自のスキャン設定とスケジュールを実行できます。

スキャン実行

をスキャンインターフェースから直接起動できます。[***スキャンする特定のファイルまたはフォルダの選択***]という新しいダイアログが開きます。コンピュータのツリー構造でスキャンするフォルダを選択します。選択したフォルダへのパスは自動的に作成され、このダイアログの上部のテキストボックスに表示されます。

また、すべてのサブフォルダをスキャンしない場合、自動作成されたパスの前にマイナス記号「-」を記述します(*スクリーンショットを参照*)。スキャンからフォルダ全体を除外するには「!」パラメータを使用します。

スキャンを実行するには、[***スキャン開始***] ボタンをクリックします。スキャン処理自体は基本的に完全コンピュータ スキャンと同じです。

スキャン設定編集

特定のファイルやフォルダスキャンのあらかじめ定義された既定の設定***を編集できます***。[***スキャン設定の変更***] リンクをクリックすると、[***特定のファイルとフォルダのスキャン設定の変更***] ダイアログが表示されます。***特に理由がない場合は、この既定の設定を保持することをお勧めします。***

AVG File Server 2011 c 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

- ***スキャン パラメータ*** - スキャン パラメータの一覧では、必要に応じて特定のパラメータのオン/オフを切り替えることができます。

  - ***自動的に感染を修復/除去する*** (*既定ではオン*): スキャン実行中にウイルスが特定され、修復可能な場合は、自動的に修復されます。感染したファイルを自動的に修復できない場合、感染したオブジェクトは***ウィルス隔離室***に移動されます。

  - ***不審なプログラムとスパイウェア脅威を報告する*** (*既定ではオン*): チェックを付けると、***スパイウェア対策***エンジンを有効にし、ウイルスと同時にスパイウェアもスキャンします。スパイウェアは不審なマルウェアの一種です。通常はセキュリティ リスクになりますが、このようなプログラムを故意にインストールすることができます。コンピュータのセキュリティを高めるため、この機能を有効にしておくことをお勧めします。

  - ***不審なプログラムの拡張セットを報告する*** (*既定ではオフ*): チェックを付けると、スパイウェアの拡張パッケージを検出します。スパイウェアとは、直接製造元から入手する場合にはまったく問題がなく、無害なプログラムですが、後から悪意のある目的で誤用されるおそれのあるプログラムです。これは、コンピュータ セキュリティをさらに高めるための追加的な手段ですが、合法的なプログラムもブロックする可能性があるため、デフォルトではオフになっています。

  - ***Tracking Cookie をスキャンする*** (*既定ではオフ*) - ***スパイウェア対策 コンポーネント***のこのパラメータを定義すると、Cookie を検出します (*HTTP cookie は、サイトの設定や電子ショッピング カートの内容など、ユーザー固有の情報の認証、追跡、メンテナンスに使用されます*)。

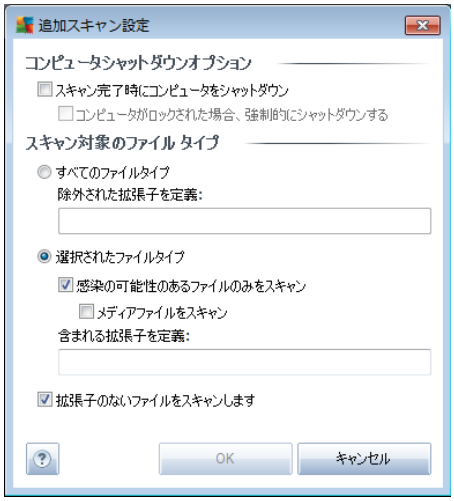
  - ***アーカイブの内容をスキャン*** (*既定ではオン*) - ZIP や RAR などのアーカイブ内に格納されているすべてのファイルをスキャンします。

  - ***ヒューリスティック分析を使用する*** (*既定ではオフ*) - ヒューリスティック分析 (*仮想コンピュータ環境で実行されるスキャン対象オブジェクト命令の動的エミュレーション*) は、スキャン実行中に採用されるウイルス検出方法の 1 つです。

  - ***システム環境をスキャンする*** (*既定ではオフ*) - コンピュータのシステム領域もチェックされます。

  - ***完全スキャンを有効にする*** (*既定ではオフ*) - このオプションをチェックすると、特定の状況 (*コンピュータが感染している疑いがある場合など*) が発生した場合に最も完全なスキャン アルゴリズムを有効にし、感染の可能性が非常に低いコンピュータ領域もスキャンします。これにより、問題がないことを確実に確認します。この方法を実行すると多少時間がかかります。

- ***追加スキャン設定*** - このリンクをクリックすると、新しい [追加スキャン設定] ダイアログが開きます。このダイアログでは、次のパラメータを指定できます。



- ***コンピュータのシャットダウン オプション*** - 実行中のスキャン処理が終了した時点で自動的にコンピュータをシャットダウンするかどうかを決定します。このオプション (***スキャン完了時にコンピュータをシャットダウン***) を選択すると、現時点でコンピュータがロックされている場合でも、コンピュータをシャットダウンさせる新しいオプション (***コンピュータがロックされた場合強制的にシャットダウンする***) が有効になります。

- ***スキャンのファイル タイプを定義*** - さらに、スキャンするかどうかを決定する必要があります。

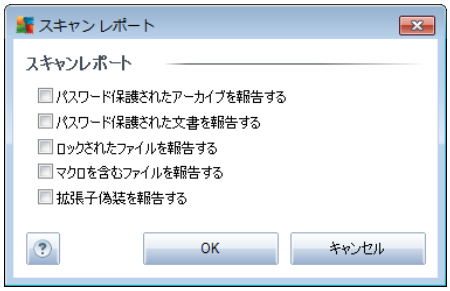
  - ***すべてのファイル タイプと***スキャン対象ではないファイル拡張子をカンマで区切ったリストを入力することで、スキャンからの除外を定義できます。

  - ***選択したファイル タイプ*** - 感染の可能性のあるファイルのみを指定できます (*一部のプレーン テキスト ファイルやその他の非実行可能 ファイル*など感染の可能性がないファイルはスキャンされません)。これには、*メディア ファイル* (*ビデオ、オーディオ ファイル*) が含まれます。多くの場合、このようなファイルはサイズが非常に大きく、ウィルスに感染している可能性が非常に低いため、このボックスのチェックを外すと、スキャン時間がさらに短縮されますここでも、必ずスキャンするファイルの拡張子を指定できます。

  - 任意で***拡張子のないファイルをスキャン***できます。このオプションは既定ではオンになっています。変更する理由がない場合は、この設定を保持することをお勧めします。拡張子のないファイルは不審であるため、常にスキャンすることをお勧めします。

- ***スキャン処理の優先度*** - スライダを使用して、スキャン処理の優先度を変更できます。既定では、スキャン処理の速度とシステムリソース消費を最適化する*ユーザー依存*レベルに設定されています。低速でスキャン処理を実行してシステム リソース負荷を最小化 (*コンピュータで同時に作業をする必要があり、スキャンに時間がかかってもよい場合に便利です*) したり、システム リソース消費量の高い高速スキャン (*コンピュータが一時的に使用されていない場合などに便利です*) を実行したりできます。

- ***追加スキャン レポートを設定*** - このリンクをクリックすると、[***スキャン レポート***] ダイアログが開きます。このダイアログでは、レポート対象の検出の種類を選択できます。



***警告**: これらのスキャン設定は新規に定義されたスキャン パラメータと同じです。 「**AVG スキャン/ スキャン スケジュール/ スキャン方法**」の章を参照してください。**特定のファイルやフォルダのスキャン**の既定の設定を変更する場合、新しい設定を既定の設定として保存し、すべての特定のファイルやフォルダのスキャンに適用できます。また、この設定はすべての新規スケジュールのテンプレートとして使用できます (すべてのカスタマイズ スキャンは、選択したファイルやフォルダのスキャンの現在の設定に基づいて実行されます)。*

12.2.3. ルートキット スキャン

ルートキット対策スキャンはコンピュータを検索し、ルートキット (*悪意のある活動をコンピュータで隠すことができるプログラムや技術*) が存在している可能性があるかどうかを確認します。ルートキットが検出されても、必ずしもコンピュータが感染しているというわけではありません。通常のアプリケーションの特有のドライバやセクションが誤ってルートキットとして検出される場合もあります。

スキャン実行

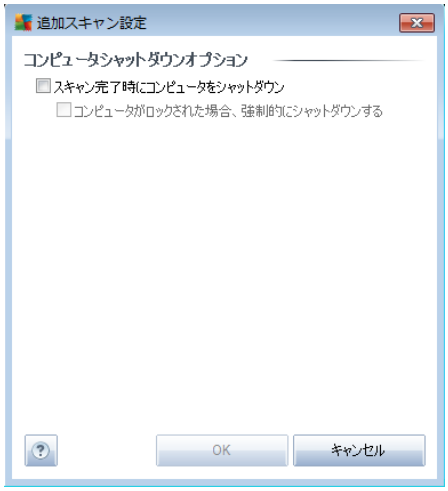
スキャンのアイコンをクリックすると、***ルートキット対策スキャン***をスキャン インターフェースから直接実行できます。このスキャンに対して、さらに特別な設定は必要ありません。スキャンは [***スキャン実行中***] ダイアログ内で即時開始されます (*スクリーンショット*を参照)。必要に応じて、スキャンを一時的に中断 (***一時停止***) またはキャンセル (***停止***) できます。

スキャン設定編集

ルートキット対策スキャンは常に既定の設定で起動し、スキャン パラメータは [***AVG 高度な設定/ルートキット対策***] ダイアログからのみ編集できます。スキャンの実行中に限り、次のスキャン インターフェース設定を利用できます。

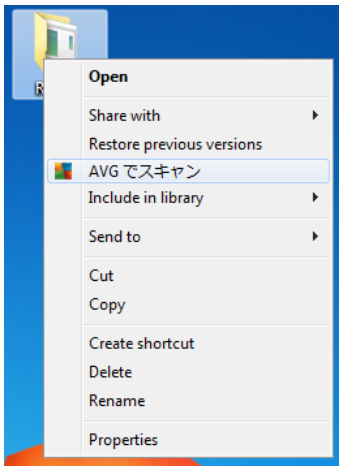
- ***自動スキャン*** - スライダを使用して、スキャン処理の優先度を変更します。既定では、優先度は中レベル (*自動スキャン*) に設定され、スキャン処理の速度とシステム リソース消費量を最適化します。低速でスキャン処理を実行してシステム リソース負荷を最小化 (*コンピュータで同時に作業をする必要があり、スキャンに時間がかかってもよい場合に便利です*) したり、システム リソース消費量の高い高速スキャン (*コンピュータが一時的に使用されていない場合などに便利です*) を実行したりできます。

- ***追加のスキャン設定*** - このリンクをクリックすると、新しい [***追加のスキャン設定***] ダイアログが開きます。このダイアログでは、***ルートキット対策スキャン処理に伴うコンピュータ シャットダウンのタイミング*** (***スキャン完了時にコンピュータをシャットダウン***あるいは***コンピュータがロックされた場合は強制シャットダウン***) を定義できます。



12.3. シェル拡張スキャン

AVG File Server 2011では、完全コンピュータ スキャンあるいは特定領域のスキャンで実行されるあらかじめ定義されたスキャン以外にも、クイック スキャン オプションを使用して、Windows Explorer 環境で特定オブジェクトのスキャンを直接実行できます。内容が不明なファイルを開く場合、そのファイルのみをチェックできます。次の方法で実行します。



- Windows Explorer でチェックするファイル (あるいはフォルダ) を選択します。
- マウスをオブジェクトに移動して右クリックし、コンテキスト メニューを開きます。
- [***AVG でスキャン***] オプションを選択して、ファイルを AVG でスキャンします。

12.4. コマンドライン スキャン

AVG File Server 2011 ではコマンド ラインからスキャンを実行するときにオプションを利用できます。このオプションはサーバー上のインスタンスに対して利用できます。あるいは、コンピュータのブート後に自動的に起動するバッチ スクリプトを作成するときに利用できます。コマンド ラインからスキャンを起動するときには、AVG のグラフィカル ユーザー インターフェースで提供されるほとんどのパラメータを使用できま

す。

コマンド ラインから AVGスキャンを起動するには、AVG がインストールされているフォルダで次のコマンドラインを実行します。

- ***32 ビット OS の場合*** avgscanx
- ***64 ビット OS の場合*** avgscana

コマンドの構文

コマンドの構文は次のとおりです。

- ***avgscanx / パラメータ*** ... たとえば、完全コンピュータ スキャンの場合 ***avgscanx /comp***
- ***avgscanx / パラメータ/ パラメータ*** .. 複数のパラメータを使用する場合、パラメータを 1 行に並べ、スペースとスラッシュで区切る必要があります。
- パラメータが特定の値を必要とする場合 (例: ***/scan*** パラメータには選択した場所への正確なパスを指定する必要があります) は、値をセミコロンで区切る必要があります。例: ***avgscanx /scan=C:\,D:***

スキャン パラメータ

利用可能なパラメータの完全な概要を表示するには、パラメータの /? を付加して該当するコマンドを入力します。あるいは、/HELP と入力します (例: ***avgscanx /?***)。唯一の必須のパラメータは、スキャン対象のコンピュータ領域を指定する /SCAN です。オプションの詳細については、「コマンド ライン パラメータ概要」を参照してください。

スキャンを実行するには、[***Enter***] を押します。スキャン中は ***Ctrl+C*** または***Ctrl+Pause*** を押して処理を停止できます。

グラフィック インターフェースから起動する CMD スキャン

Windows セーフ モードでコンピュータを実行している場合、グラフィック ユーザー インターフェースからコマンド ライン スキャンを実行することもできます。スキャン自体はコマンド ラインから実行されます。[***コマンド ライン コンポーザー***] ダイアログでは、便利なグラフィック インターフェースでは大部分のスキャン パラメータを指定できます。

このダイアログは Windows セーフ モードでのみ利用可能です。このダイアログの詳細説明については、ダイアログから直接開くことができるヘルプ ファイルを参照してください。

12.4.1. CMD スキャン パラメータ

以下は、コマンドラインスキャンで利用可能なすべてのパラメータです。

- ***/SCAN*** 特定のファイルまたはフォルダのスキャン / SCAN= パス; パス 例 :/ SCAN=C:\;D:\)
- ***/COMP*** 完全コンピュータ スキャン
- ***/HEUR*** ヒューリスティック分析の使用
- ***/EXCLUDE*** スキャンからパス、またはファイルを除外
- ***/@*** コマンドファイル / file name/
- ***/EXT*** これらの拡張子をスキャンする / 例えば、 EXT=EXE,DLL/
- ***/NOEXT*** これらの拡張子をスキャンしない / 例えば、 NOEXT=JPG/
- ***/ARC*** アーカイブをスキャン
- ***/CLEAN*** 自動的駆除
- ***/TRASH*** 感染ファイルをウイルス隔離室に移動
- ***/QT*** クイックスキャン
- ***/MACROW*** マクロを報告する
- ***/PWDW*** パスワード保護されたファイルを報告する
- ***/IGNLOCKED*** ロックされたファイルを無視
- ***/REPORT*** ファイルにレポート/ file name/
- ***/REPAPPEND*** レポートファイルに追加
- ***/REPOK*** 未感染ファイルを「OK」として報告する
- ***/NOBREAK*** CTRL-BREAKで中断しない
- ***/BOOT*** MBR/ BOOT チェックを有効化
- ***/PROC*** アクティブプロセスをスキャンする
- ***/PUP*** 「不審なプログラム」を報告する
- ***/REG*** レジストリをスキャンする
- ***/COO*** cookieをスキャンする
- ***/?*** このトピックに関するヘルプを表示

- ***/HELP*** このトピックに関するヘルプを表示
- ***/PRIORITY*** スキャン優先度（低、自動、高）を設定（高度な設定 / Scans を参照）
- ***/SHUTDOWN*** スキャン完了時にコンピュータをシャットダウン
- ***/FORCESHUTDOWN*** スキャン完了時にコンピュータを強制シャットダウン
- ***/ADS*** Alternate Data Streams をスキャン(NTFSのみ)
- ***/ARCBOMBSW*** 再圧縮されたアーカイブ ファイルを報告

12.5. スキャン スケジュール

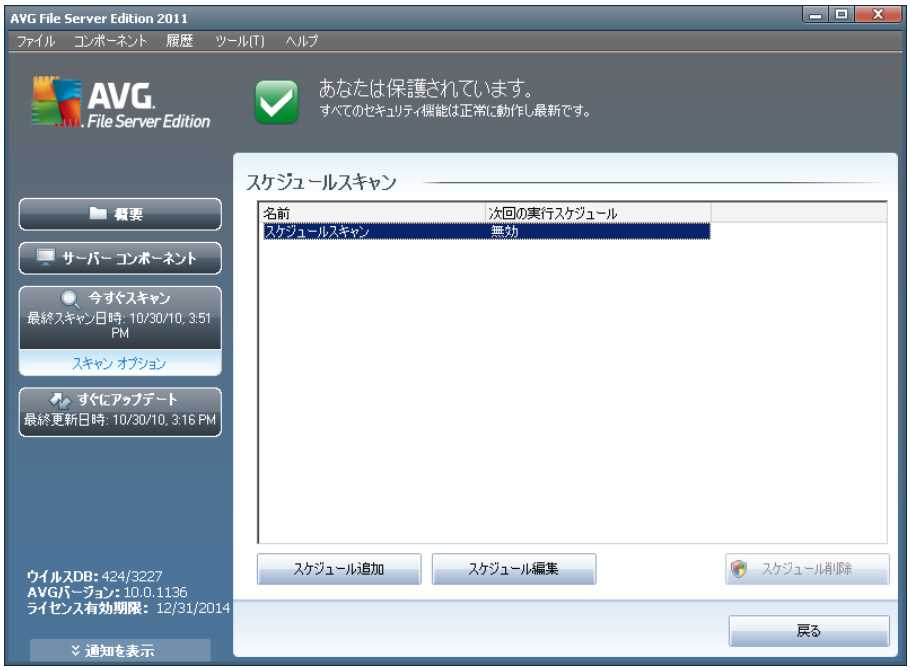
AVG File Server 2011 では、オンデマンドで（ウイルスに感染した場合など）またはスケジュールに基づいてスキャンを実行できます。スケジュールに基づいてスキャンを実行することを強くお勧めします。この方法を採用することでコンピュータが感染の可能性から保護されていることを保証でき、スキャンがいつ起動しているかを考える必要がありません。

完全コンピュータスキャンを週に 1 度以上定期的に実行することをお勧めします。ただし、可能な場合は、コンピュータのスキャンを毎日実行してください。既定のスキャン スケジュールはこのように設定されています。コンピュータが常にオンとなっている場合、作業時間外にスキャンを実行するよう設定することができます。コンピュータがオフになっていたためスケジュールが実行されなかった場合に備えて、コンピュータの起動時にスキャンを実行するようにスケジュールを設定します。

新しいスキャン スケジュールを作成するには、AVG スキャン インターフェースを参照し、下部の***スケジュール スキャン***セクションを確認してください。

スケジュール スキャン

[***スキャンのスケジュール***] セクションのグラフィカルなアイコンをクリックすると、新しい [***スキャンのスケジュール***] ダイアログが開き、現在スケジュールされているすべてのスキャンの一覧が表示されます。

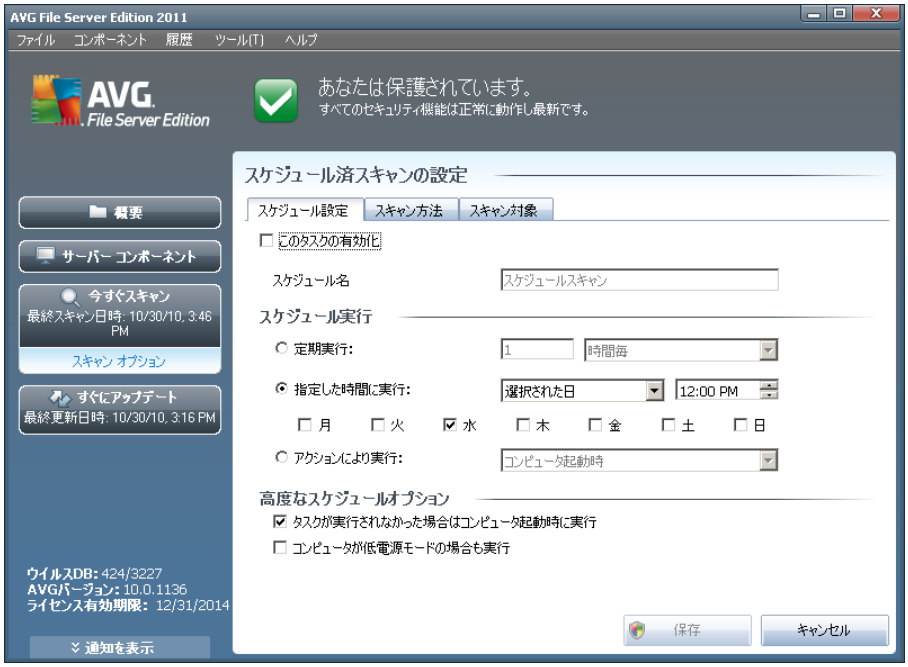


次のコントロール ボタンを使用して、スキャンの編集および追加ができます。

- ***スキャン スケジュールの追加*** - [***スケジュール スキャン設定***] ダイアログの [***スケジュール設定***] タブを開きます。このダイアログでは、スキャン パラメータを指定できます。
- ***スキャン スケジュールの編集*** - スケジュール スキャンの一覧から既存のスキャン スケジュールを選択した場合にのみこのボタンを使用できます。このボタンをクリックすると、[***スケジュール スキャン設定***] ダイアログの [***スケジュール設定***] タブが表示されます。選択したスキャンのパラメータがこのタブで指定され、編集できます。
- ***スキャン スケジュールの編集*** - スケジュール スキャンの一覧から既存のスキャン スケジュールを選択した場合にのみこのボタンを使用できます。コントロール ボタンをクリックすると、選択したスキャンを一覧から削除できます。ただし、自分で作成したスケジュールのみを削除できます。既定で定義されている***完全コンピュータ スキャン スケジュール***は削除できません。
- ***戻る*** - AVG スキャン インターフェースに戻ります

12.5.1. スケジュール設定

新しい検査と定期実行をスケジュールする場合、[***スケジュール済みの検査の設定***] ダイアログ (*[スキャンのスケジュール]* ***ダイアログで [スキャン スケジュールの追加]*** *ボタンをクリック*) を入力します。このダイアログは 3 つのタブに分けられます。***スケジュール設定*** *- 以下の図を参照 自動的にリダイレクトされるデフォルトタブ*)、***スキャン方法***、***スキャン対象***



[***スケジュール設定***] タブでは、[***このタスクの有効化***] アイテムのチェックをON/OFFすることによって、必要に応じて、スケジュール済みスキャンを一時的に有効化/無効化することができます。

次に、作成してスケジュールするスキャンの名前を付けます。***名前***アイテムの近くのテキストフィールドに名前を入力します。スキャンには、簡潔で、説明的で、適切な名前を使用して、のちに他のスキャンと区別できるようにしてください。

例：新規スキャン」あるいは「マイスキャン」という名前は適切ではありません。これらの名前は、実際にスキャンがチェックする対象を指さないからです。「システムエリアスキャン」というような名前が推奨されます。また、スキャンが完全コンピュータスキャンか単に選択されたファイルやフォルダのスキャンであるかを区別する名前を指定することも重要です - 自分のスキャンは常に[選択されたファイルやフォルダのスキャン](#)の特定バージョンにあります。

このダイアログでは、さらに以下のスキャンパラメータを定義します。

- ***スケジュール実行*** - スキャン起動時間を指定します。タイミングは、***定期実行***、***指定した時間に実行***、***アクションにより実行***のいずれかによって定義することができます。
- ***高度なスケジュールオプション*** - このセクションでは、コンピュータが低電源モードあるいは完全に電源オフになっている場合に、スキャンが実行される条件を定義します。

スケジュール済スキャンダイアログのコントロールボタン

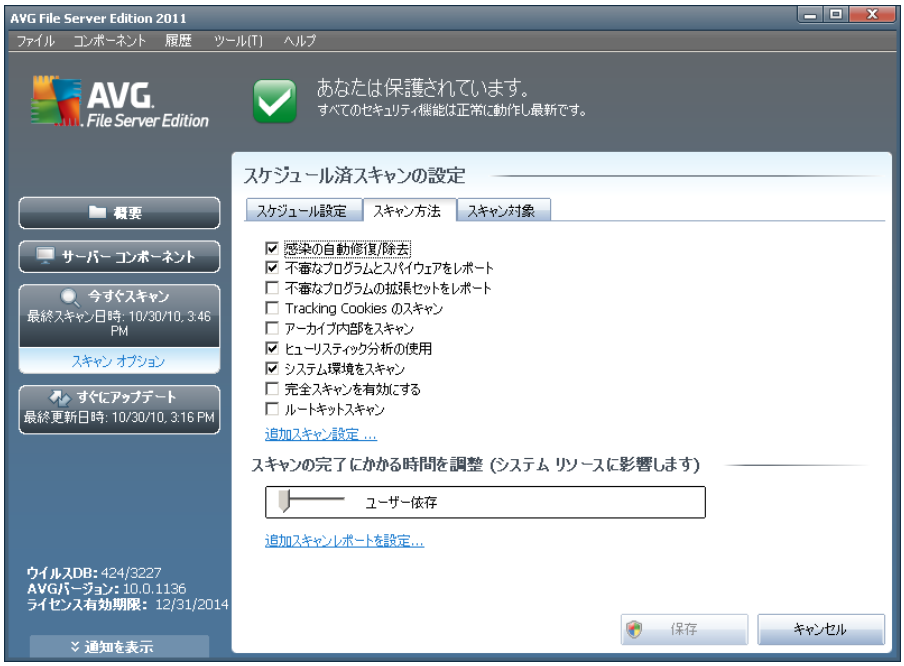
スケジュール済のスキャンの設定***ダイアログのすべてのタブ***（スケジュール設定、スキャン方法、スキャン対象）***には2つのコントロールボタンがあり、***これらは同一の機能を持っています。

- ***保存*** - このタブまたはこのダイアログのその他のタブで行ったすべての変更を保存し、[AVGスキャンインターフェースデフォルトダイアログ](#)に戻ります。したがって、すべてのタブでスキャンパラメ

ータを設定する場合、すべての必要項目を指定した後でこのボタンを押してください。

- ***キャンセル*** このタブまたはこのダイアログのその他のタブで行ったすべての変更をキャンセルし、AVGスキャンインターフェースデフォルトダイアログに戻ります。

12.5.2. スキャン方法



[***スキャン方法***] タブには、任意でオン/オフを切り替えられるスキャンパラメータの一覧が表示されます。既定ではほとんどのパラメータがオンになっており、その機能はスキャン実行中に適用されます。やむを得ない理由がない場合は、あらかじめ定義された設定を保持することを推奨します。

- ***自動的に感染を修復/除去する*** (*既定ではオン*): スキャン実行中にウイルスが特定され、修復可能な場合は、自動的に修復されます。感染ファイルを自動的に修復できない場合やこのオプションをオフにした場合は、ウイルス検出が通知されるので、検出された感染の処理方法を決定する必要があります。推奨アクションは、感染ファイルの***ウイルス隔離室***への移動です。

- ***不審なプログラムとスパイウェア脅威を報告する***(*既定ではオン*): チェックを付けると、***スパイウェア対策***エンジンを有効にし、ウイルスと同時にスパイウェアもスキャンします。スパイウェアは不審なマルウェアの一種です。通常はセキュリティリスクになりますが、このようなプログラムを故意にインストールすることができます。コンピュータのセキュリティを高めるため、この機能を有効にしておくことをお勧めします。

- ***不審なプログラムの拡張セットを報告する*** (*既定ではオフ*): チェックを付けると、スパイウェア***の拡張パッケージを検出します。スパイウェアとは、直接製造元から入手する場合にはまったく問題がなく、無害なプログラムですが、後から悪意のある目的で誤用されるおそれのあるプログラムです。これは、コンピュータセキュリティをさらに高めるための追加的な手段ですが、合法的なプログラムもブロックする可能性があるため、既定ではオフになっています。

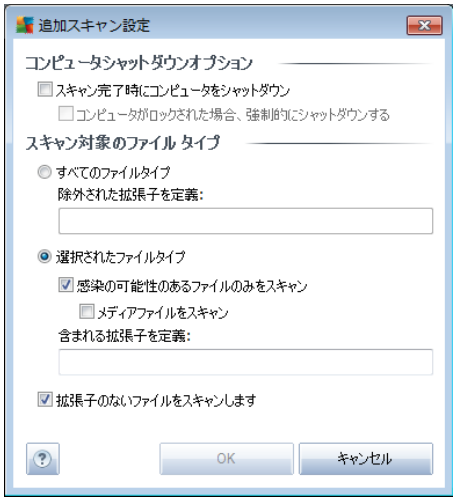
- ***Tracking Cookie をスキャンする*** (*既定ではオフ*): ***スパイウェア対策コンポーネント***のこ

のパラメータを定義すると、スキャン実行中に Cookie を検出します *'HTTP cookie は、サイトの設定や電子ショッピング カートの内容など、ユーザー固有の情報の認証、追跡、メンテナンスに使用されます*)。

- ***アーカイブの内容をスキャンする*** (*既定ではオン*): このパラメータを定義すると、ファイルが ZIP や RAR などのアーカイブ形式で圧縮されている場合でも、すべてのファイルに対してスキャン チェックを実行します。
- ***ヒューリスティック分析を使用する*** (*既定ではオン*): ヒューリスティック分析 (*仮想コンピュータ環境で実行されるスキャン対象オブジェクト命令の動的エミュレーション*) は、スキャン実行中に採用されるウイルス検出方法の 1 つです。
- ***システム環境をスキャンする*** (*既定ではオン*): コンピュータのシステム領域もチェックされます。
- ***完全スキャンを有効にする*** (*既定ではオフ*) - このオプションをチェックすると、特定の状況 (*コンピュータが感染している疑いがある場合など*) が発生した場合に最も完全なスキャン アルゴリズムを有効にし、感染の可能性が非常に低いコンピュータ領域もスキャンします。これにより、問題がないことを確実に確認します。この方法を実行すると多少時間がかかります。

次の方法でスキャン設定を変更できます。

- ***追加スキャン設定*** - このリンクをクリックすると、新しい [追加スキャン設定] ダイアログが開きます。このダイアログでは、次のパラメータを指定できます。



  - ***コンピュータのシャットダウン オプション*** - 実行中のスキャン処理が終了した時点で自動的にコンピュータをシャットダウンするかどうかを決定します。このオプション (***スキャン完了時にコンピュータをシャットダウン***) を選択すると、現時点でコンピュータがロックされている場合でも、コンピュータをシャットダウンさせる新しいオプション (***コンピュータがロックされた場合強制的にシャットダウンする***) が有効になります。
  - ***スキャンのファイル タイプを定義*** - さらに、スキャンするかどうかを決定する必要があります。
    - ***すべてのファイル タイプと***スキャン対象ではないファイル拡張子をカンマで区切った

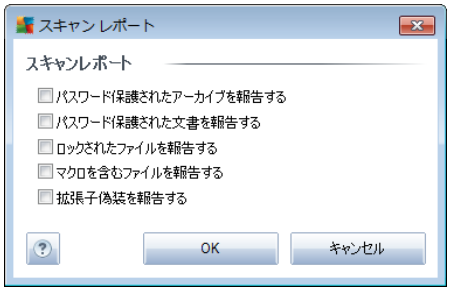
リストを入力することで、スキャンからの除外を定義できます。

- ***選択したファイル タイプ*** - 感染の可能性のあるファイルのみを指定できます (一部のプレーン テキスト ファイルやその他の非実行可能 ファイルなど感染の可能性がないファイルはスキャンされません)。これには、メディア ファイル (ビデオ、オーディオ ファイル) が含まれます。多くの場合、このようなファイルはサイズが非常に大きく、ウィルスに感染している可能性が非常に低いため、このボックスのチェックを外すと、スキャン時間がさらに短縮されますここでも、必ずスキャンする必要があるファイルの拡張子を指定できます。

- 任意で***拡張子のないファイルをスキャン***できます。このオプションは既定ではオンになっています。変更する理由がない場合は、この設定を保持することをお勧めします。拡張子のないファイルは不審であるため、常にスキャンすることをお勧めします。

- ***スキャン実行速度を調整する*** - スライダを使用して、スキャン処理の優先度を変更できます。中レベルに設定すると、スキャン処理実行速度とシステム リソース消費量が最適化されます。低速でスキャン処理を実行してシステム リソース負荷を最小化 (*コンピュータで同時に作業をする必要があり、スキャンに時間がかかってもよい場合に便利です*) したり、システム リソース消費量の高い高速スキャン (*コンピュータが一時的に使用されていない場合などに便利です*) を実行したりできます。

- ***追加スキャン レポートを設定*** - このリンクをクリックすると、[***スキャン レポート***] ダイアログが開きます。このダイアログでは、レポート対象の検出の種類を選択できます。



メモ: *既定ではスキャンは最適なパフォーマンスで実行されるように設定されています。やむを得ない理由がない場合は、あらかじめ定義された設定を保持することを強くお勧めします。設定変更は上級者ユーザーが行ってください。その他のスキャンの設定オプションについては、[**ファイル/ 高度な設定**] システム メニュー項目からアクセスできる[**高度な設定**] ダイアログを参照してください。*

コントロール ボタン

[***スケジュール スキャンの設定***] ダイアログのすべてのタブ (***スケジュール設定***、***スキャン方法***、***スキャン対象***) には 2 つのコントロール ボタンがあり、これらは同一の機能を持っています。

- ***保存*** - このタブまたはこのダイアログのその他のタブで行ったすべての変更を保存し、AVG スキャン インターフェースの既定のダイアログに戻ります。したがって、すべてのタブでスキャン パラメータを設定する場合、すべての必要項目を指定した後でこのボタンをクリックしてください。

- ***キャンセル*** - このタブまたはこのダイアログのその他のタブで行ったすべての変更をキャンセル

AVG File Server 2011 © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

し、AVG スキャン インターフェースの既定のダイアログに戻ります。

12.5.3. スキャン対象

[***スキャン対象***] タブでは、[完全コンピュータ スキャン] あるいは [特定のファイルやフォルダのスキャン] のいずれかを定義できます。

特定のファイルまたはフォルダのスキャンを選択する場合は、このダイアログの下部に表示されるツリー構造がアクティブになり、スキャンするフォルダを選択できます (*スキャンするフォルダが見つかるまでプラス ノードをクリックして項目を展開します*)。各ボックスにチェックを付けることで複数のフォルダを選択できます。選択したフォルダはダイアログ上部のテキスト フィールドに表示されます。選択したスキャン履歴はドロップダウン メニューに保持されるため、後から使用できます。任意のフォルダへの完全パスを手入力することもできます (*複数パスを入力する場合は、スペースを入れずセミコロンで区切る必要があります*)。

ツリー構造内には、[***特別な場所***] という部分もあります。各チェック ボックスにマークを付けると、次のようにスキャンする場所の一覧が表示されます。

- ***ローカル ハード ドライブ*** - コンピュータのすべてのハード ドライブ
- ***プログラム ファイル***
    - C:\Program Files\
    - *64 ビット バージョン* C:\Program Files (x86)
- ***マイ ドキュメント フォルダ***
    - *Win XP:* C:\Documents and Settings\Default User\My Documents\

- *Windows Vista/7*: C:\Users\user\Documents\

- ***共有ドキュメント***
  - *Win XP*: C:\Documents and Settings\All Users\Documents\
  - *Windows Vista/7*: C:\Users\Public\Documents\

- ***Windows フォルダ*** - C:\Windows\

- ***その他***
  - *システム ドライブ* - オペレーティング システムがインストールされているハードドライブ (通常は C:)
  - *システム フォルダ* - C:\Windows\System32\
  - *一時ファイル フォルダ* - C:\Documents and Settings\User\Local\ (*Windows XP*); or C:\Users\user\AppData\Local\Temp\ (*Windows Vista/7*)
  - *一時インターネット ファイル* - C:\Documents and Settings\User\Local Settings\Temporary Internet Files\ (*Windows XP*); or C:\Users\user\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files (*Windows Vista/7*)

スケジュール スキャン ダイアログのコントロール ボタン

[***スケジュール スキャンの設定***] ダイアログのすべてのタブ (***スケジュール設定***、***スキャン方法***、***スキャン対象***) には 2 つのコントロール ボタンがあり、これらは同一の機能を持っています。

- ***保存*** - このタブまたはこのダイアログのその他のタブで行ったすべての変更を保存し、AVG スキャン インターフェースの既定のダイアログに戻ります。したがって、すべてのタブでスキャン パラメータを設定する場合、すべての必要項目を指定した後でこのボタンをクリックしてください。
- ***キャンセル*** - このタブまたはこのダイアログのその他のタブで行ったすべての変更をキャンセルし、AVG スキャン インターフェースの既定のダイアログに戻ります。

12.6. スキャン結果概要

名前	開始時間	終了時間	スキャン済オブジェクト
ルートキット対策スキャン	10/19/2010, 10:33 PM	10/19/2010, 10:34 PM	39826
シェル拡張スキャン	10/19/2010, 10:38 PM	10/19/2010, 10:38 PM	6
シェル拡張スキャン	10/19/2010, 10:39 PM	10/19/2010, 10:39 PM	7
シェル拡張スキャン	10/19/2010, 10:40 PM	10/19/2010, 10:40 PM	10
全コンピュータをスキャン	10/19/2010, 10:44 PM	10/19/2010, 10:44 PM	0
全コンピュータをスキャン	10/19/2010, 10:45 PM	10/19/2010, 10:45 PM	0
ルートキット対策スキャン	10/29/2010, 8:03 PM	10/29/2010, 8:03 PM	7229
全コンピュータをスキャン	10/29/2010, 8:06 PM	10/29/2010, 8:06 PM	0
ルートキット対策スキャン	10/29/2010, 9:12 PM	10/29/2010, 9:13 PM	17874
全コンピュータをスキャン	10/29/2010, 9:13 PM	10/29/2010, 9:13 PM	0
全コンピュータをスキャン	10/29/2010, 9:16 PM	10/29/2010, 9:17 PM	0
ルートキット対策スキャン	10/29/2010, 9:48 PM	10/29/2010, 9:48 PM	6646
全コンピュータをスキャン	10/29/2010, 9:51 PM	10/29/2010, 9:52 PM	0
ルートキット対策スキャン	10/30/2010, 9:41 AM	10/30/2010, 9:41 AM	6667
全コンピュータをスキャン	10/30/2010, 9:41 AM	10/30/2010, 9:41 AM	0
全コンピュータをスキャン	10/30/2010, 9:44 AM	10/30/2010, 9:44 AM	0
ルートキット対策スキャン	10/30/2010, 10:36 AM	10/30/2010, 10:36 AM	4661

スキャン結果概要ダイアログは、AVGスキャンインターフェースから***スキャン履歴***ボタンを押すとアクセスすることができます。ダイアログには、以前実行されたすべてのスキャンと結果情報のリストが表示されます。

- ***名前*** - スキャン指定。予め定義されたスキャンの名前あるいは、自分のスケジュール済のスキャンに付けられた名前です。各名前には、スキャン結果を示すアイコンが表示されます。

  - 緑のアイコンはスキャン中に感染が検出されなかったことを示します。

  - 青のアイコンは、スキャン中に感染があり、感染したオブジェクトは自動的に除去されたことを知らせています。

  - 赤のアイコンは、スキャン中に感染が検出され、それを除去できなかったことを警告しています。

  各アイコンは完全な形、または半分のアイコンで表示されます。完全な形のアイコンは正常終了したスキャンを示しています。半分になったアイコンはスキャンがキャンセルされたか中断されたことを示しています。

  注意：*各スキャンの詳細情報については、詳細を見るボタン（ダイアログ下部）からアクセス可能な****スキャン結果****ダイアログを参照してください。*

- ***開始時間*** - スキャンが実行された日時

- ***終了時間*** - スキャンが終了した日時

- ***スキャン済オブジェクト***- スキャンでチェックされたオブジェクトの数
- ***感染*** - 検出/除去されたウイルス感染の数
- ***スパイウェア***- 検出/除去されたスパイウェアの数
- ***警告*** - 検出された不審なオブジェクト
- ***ルートキット*** - 検出されたルートキット
- ***スキャンログ情報***- スキャン過程と結果に関する情報（一般的には完了か中断かの情報）

コントロールボタン

スキャン結果概要ダイアログには、以下のコントロールボタンがあります。

- □□□□□ - クリックすると、[***スキャン結果***] ダイアログに切り替わり、選択したスキャンの詳細データを表示します。
- ***結果を削除*** - クリックすると、スキャン結果概要から選択したアイテムを削除します。
- ***戻る***- AVGスキャンインターフェースのデフォルトダイアログに切り替わります。

12.7. スキャン結果詳細

スキャン結果概要ダイアログで、特定のスキャンが選択された場合、***詳細を表示***ボタンをクリックすると、***スキャン結果***ダイアログが表示されます。このダイアログでは、選択されたスキャン結果に関する詳細なデータが表示されます。

このダイアログはさらにいくつかのタブに分けられます。

- ***結果概要*** - このタブは常に表示され、スキャン進捗を示す統計データが表示されます。
- ***感染*** - このタブは、スキャン実行中にウイルス感染が検出された場合にのみ表示されます。
- ***スパイウェア*** - このタブは、スキャン実行中にスパイウェアが検出された場合にのみ表示されます。
- ***警告*** - Cookie がスキャン中に検出されると、このタブがインスタンスごとに表示されます。
- ***ルートキット*** - このタブは、スキャン実行中にルートキットが検出された場合にのみ表示されます。
- ***情報*** **-** このタブは潜在的な脅威が検出され、これらが上記のいずれのカテゴリにも分類できない場合にのみ表示されます。このタブでは警告メッセージが表示されます。また、スキャンできなかったオブジェクトに関する情報も表示されます（パスワード保護されたアーカイブなど）。

12.7.1. 結果概要タブ

スキャン結果タブには、以下の情報に関する詳細な統計が表示されます。

- 検出されたウイルス感染/スパイウェア
- 除去されたウイルス感染/スパイウェア
- 除去あまたは修復不可能なウイルス感染/スパイウェア数

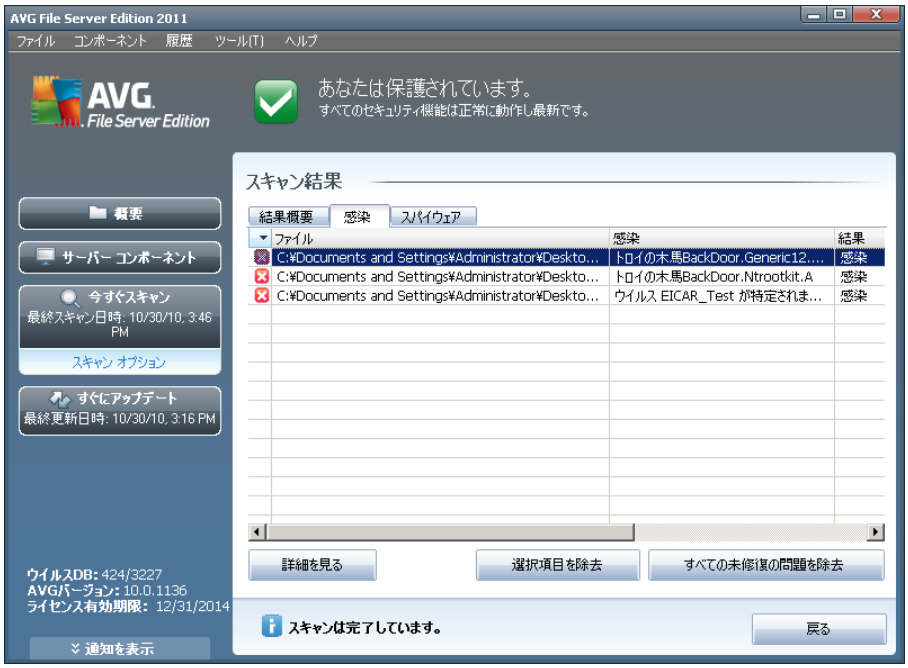
また、スキャン開始の正確な日時、スキャンされたオブジェクトの合計数、スキャン期間、スキャン実行中に発生したエラー数に関する情報も表示されます。

コントロールボタン

このダイアログで利用できるコントールボタンは1つです。***結果を閉じる***ボタンを押すと、***スキャン結果概要***ダイアログに戻ります。

AVG File Server 2011 c 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

12.7.2. 感染タブ



感染タブは、スキャン中にウイルス感染が検出された場合、***スキャン結果***ダイアログでのみ表示されます。***このタブは3つのセクションに分かれ、以下の情報が表示されます。

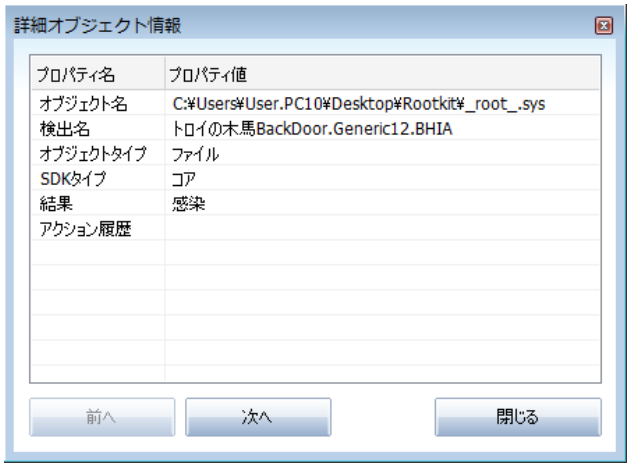
- ***ファイル*** - 感染オブジェクトの元の場所へのフルパス
- ***感染*** - 検出されたウイルス名 (*ウイルスの詳細は、オンラインのウイルスエンサイクロペディアを参照してください*)
- ***結果*** - スキャン中に検出された感染オブジェクトの現在のステータス
  - ***感染*** - 感染オブジェクトが検出され、元の場所に存在します。 *例えば、自動修復オプションを特定のスキャン設定でオフにしている場合*)
  - ***修復*** - 感染オブジェクトは自動修復され、元の場所に存在しますす。
  - ***ウイルス隔離室に移動*** - 感染オブジェクトは***ウイルス隔離室***に移動されました。
  - ***削除*** - 感染オブジェクトは削除されました。
  - ***PUP例外を追加*** - 検出は例外として評価され、PUP例外リスト *(高度な設定の* ***PUP例外*** *ダイアログで設定)に追加されました。*
  - ***ロックされたファイル - 未スキャン*** - 対象オブジェクトはロックされているため、AVGはスキャンできません。
  - ***潜在的に危険なオブジェクト*** - オブジェクトは潜在的に危険なものとして検出されましたが、感染していません(*例えば、マクロを含む等*)。

- ***アクションを終了するために再起動を要求*** - 感染オブジェクトを除去できません。完全に除去するには、コンピュータの再起動が必要です。

コントロールボタン

このダイアログには3つのコントロールボタンがあります。

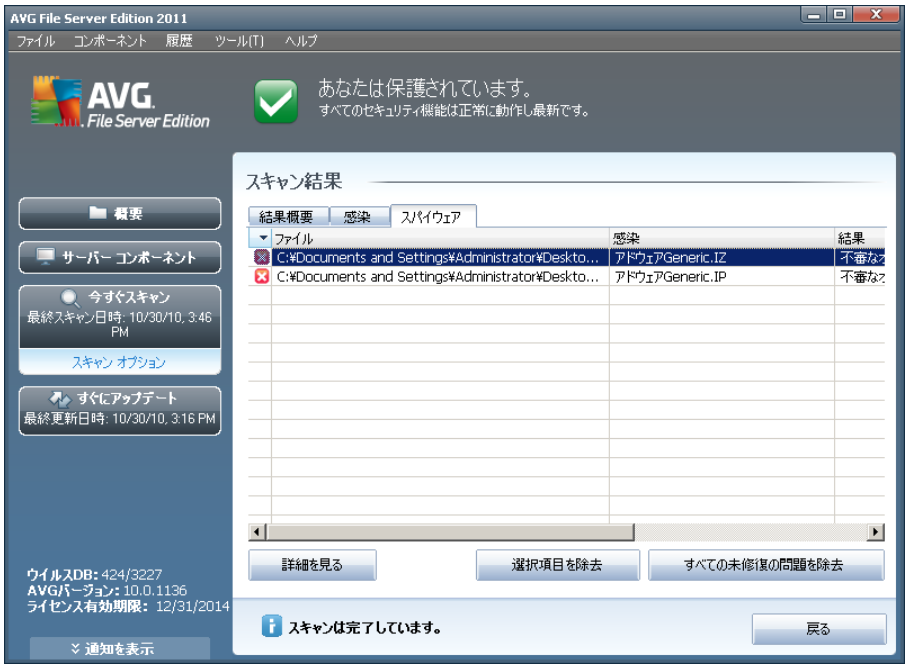
- ***詳細を見る*** - このボタンは [***詳細オブジェクト情報***] という新しいダイアログを開きます。



このダイアログには、検出された感染オブジェクトに関する詳細情報 (*感染したオブジェクト名と場所、オブジェクトの種類、SDK の種類、検出結果、検出されたオブジェクトに関するアクションの履歴など*) が表示されます。***前へ/次へ***ボタンを使用して、特定の検出情報を見ることができます。***閉じる***ボタンを使用して、このダイアログを閉じることができます。

- ***選択した感染を除去*** - このボタンをクリックすると、選択した検出を***ウイルス隔離室に移動します***
- ***すべての未修復の感染を削除*** - このボタンはすべての修復不可能な検出や***ウイルス隔離室***
- ***結果を閉じる*** - 詳細情報概要を終了し、***スキャン結果概要***ダイアログに戻ります。

12.7.3. スパイウェア タブ



スパイウェアタブは、スキャン中にスパイウェアが検出された場合、***スキャン結果***ダイアログでのみ表示されます。***このタブは3つのセクションに分かれ、以下の情報が表示されます。

- ***ファイル*** - 感染オブジェクトの元の場所へのフルパス
- ***感染*** - 検出されたスパイウェア名（*特定のウィルスの詳細については、オンラインの****ウィルスエンサイクロペディア***を参照してください）。
- ***結果*** - スキャン中に検出された感染オブジェクトの現在のステータス
  - ***感染*** - 感染オブジェクトが検出され、元の場所に存在します。 例えば、自動修復オプションを特定のスキャン設定でオフにしている場合）
  - ***修復*** - 感染オブジェクトは自動修復され、元の場所に存在しますす。
  - ***ウイルス隔離室に移動*** - 感染オブジェクトは***ウイルス隔離室に移動されました。***
  - ***削除*** - 感染オブジェクトは削除されました。
  - ***PUP例外に追加*** - 検出は例外として評価され、PUP例外リスト *（高度な設定の****PUP例外****ダイアログで設定）に追加されました。*
  - ***ロックされたファイル - 未スキャン*** - 対象オブジェクトはロックされているため、AVGはスキャンできません。
  - ***潜在的に危険なオブジェクト*** - オブジェクトは潜在的に危険なものとして検出されましたが、感染していません 例えば、マクロを含む等）。

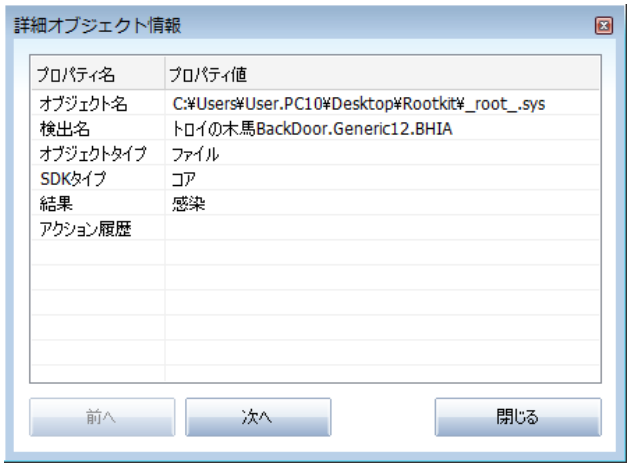
AVG File Server 2011 c 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

- ***アクションを終了するために再起動を要求*** - 感染オブジェクトを除去できません。完全に除去するには、コンピュータの再起動が必要です。

コントロールボタン

このダイアログには3つのコントロールボタンがあります。

- ***詳細を見る*** - このボタンは [***詳細オブジェクト情報***] という新しいダイアログを開きます。



このダイアログには、検出された感染オブジェクトに関する詳細情報 (*感染したオブジェクト名と場所、オブジェクトの種類、SDK の種類、検出結果、検出されたオブジェクトに関するアクションの履歴など*) が表示されます。***前へ/次へ***ボタンを使用して、特定の検出情報を見ることができます。***閉じる***ボタンを使用して、このダイアログを閉じることができます。

- ***選択した感染を除去*** - このボタンをクリックすると、選択した検出を***ウイルス隔離室に移動します***
- ***すべての未修復の感染を削除*** - このボタンはすべての修復不可能な検出や***ウイルス隔離室***
- ***結果を閉じる*** - 詳細情報概要を終了し、***スキャン結果概要***ダイアログに戻ります。

12.7.4. 警告タブ

警告タブには、スキャンで検出された「疑わしい」オブジェクトに関する情報 (*一般的にはファイル*) が表示されます。***常駐シールド***によって検出された場合は、これらのファイルへのアクセスはブロックされます。この種の検出の一般的な例は、隠されたファイル、cookie、疑わしいレジストリキー、パスワードで保護されたドキュメント、アーカイブ等です。このようなファイルはコンピュータやセキュリティにとって、何ら直接的な脅威を与えるものではありません。これらのファイルに関する情報は一般的に、コンピュータでアドウェアやスパイウェアが検出される場合に有用です。AVG検査によって警告のみが検出される場合は、何も対応する必要はありません。

このようなオブジェクトに関する最も一般的な例を以下に簡潔に説明しました。

- ***非表示のファイル*** - 非表示のファイルはデフォルトでは、Windows上では見ることができません。あるファイルやその他の脅威はこの属性を持ってファイルを格納することによって検出されることを避けようとする場合があります。AVG で悪意のあるファイルの疑いがある非表示のファイルが報告される場合、***AVG ウイルス隔離室***に移動できます。

- ***Cookies*** - Cookies はウェブサイトによって使用されるプレーンテキストファイルです。これは、後にカスタムウェブサイトレイアウトや予め入力されたユーザー名等をロードするために使用されるユーザー特有の情報を格納するために使用されます。

- ***不審なレジストリキー*** - 一部のマルウェアはその情報を Windows レジストリに格納し、起動時にそれがロードされるようにしたり、それがオペレーティングシステムにまで影響するようにします。

12.7.5. ルートキットタブ

ルートキット対策スキャンを実行した場合、[***ルートキット***] タブには、スキャン中に検出されたルートキットに関する情報が表示されます。

ルートキットは、システムの所有者や正式な管理者の許可なくコンピュータシステムの基本的なコントロールを実行するように設計されたプログラムです。ルートキットはハードウェア上で実行されているオペレーティング システムを乗っ取ることを目的としているため、ハードウェアへのアクセスが必要になることはほとんどありません。一般的には、ルートキットは標準のオペレーティング システムのセキュリティメカニズムを破壊したり回避したりすることによって、システム上でその存在を隠しながら動作します。一般的に、ルートキットはトロイの木馬の一種でもあり、システムで実行しても安全であるかのように見せかけてユーザーを騙し、信じこませます。このような技術によって、プログラム監視の対象にならないように実行中のプロセスが隠されたり、オペレーティング システムからファイルやシステム データが隠されることもあります。

このタブの基本構成は [***感染***] タブや [***スパイウェア***] タブと同じです。

12.7.6. 情報タブ

情報タブには、感染、スパイウェア等と分類できない「検出」に関するデータが表示されます。それらは危険なものと断定はされませんが、注意する価値はあります。AVG スキャンは、感染していない可能性があるが、疑わしいファイルを検出することができます。このようなファイルは***警告***か***情報***として報告されます。

重大度***情報***は次の理由のいずれかで報告されます。

- ***ランタイムパック*** - このファイルは、少ない共通ランタイムパッカーのいずれかで圧縮されており、このようなファイルのスキャンを防ぐ試みを示している可能性があります。ただし、このようなファイルの報告のすべてがウイルスを示唆しているわけではありません。

- ***ランタイムパック再帰*** - 上記と同様ですが、共通ソフトウェア間の頻度は低くなります。このようなファイルは疑わしく、分析のためファイルの除去または提出を考える必要があります。

- ***パスワード保護されたアーカイブまたは文書*** - パスワード保護されたファイルは AVG (*あるいは一般的にはその他のウイルスソフトウェア*) でスキャンできません。

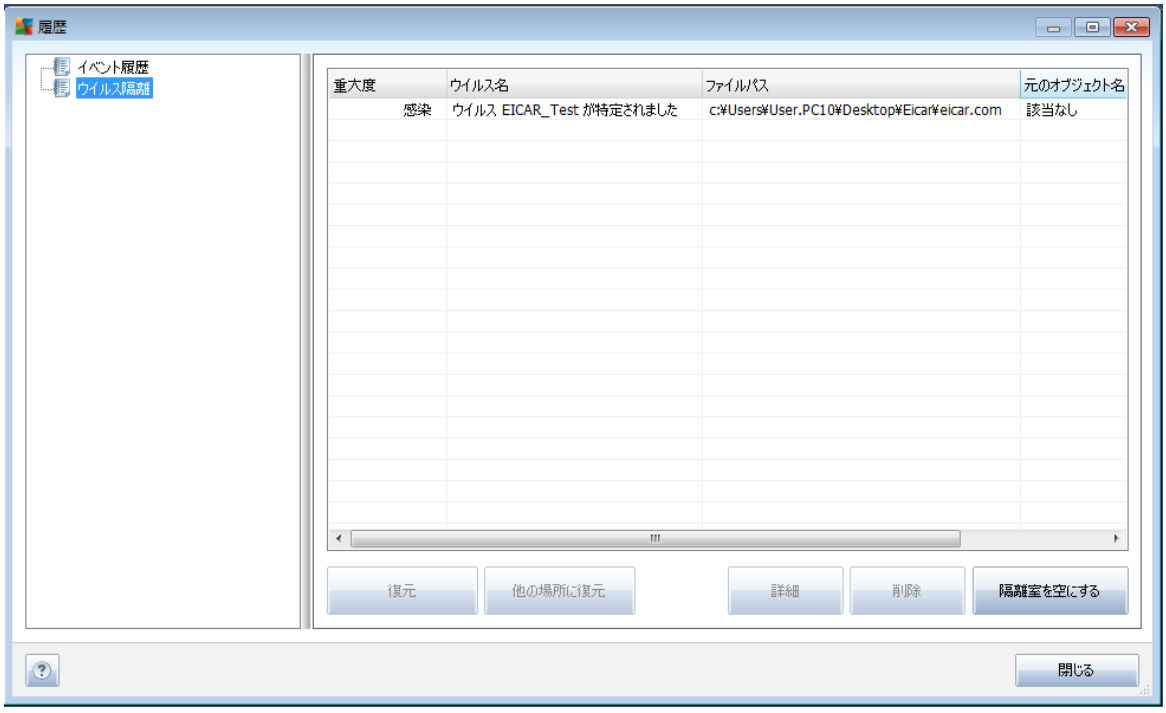
- ***マクロを含んだ文書*** - 報告された文書には、悪意のあるプログラムである可能性があるマクロが含まれます。

- ***拡張子偽装*** - 拡張子偽装のファイルは、画像などのように見える場合がありますが、実際には実行可能形式ファイル *例 :picture.jpg.exe*）です。Windows の既定の設定では、2番目の拡張子は表示されませんが、AVG はこのようなファイルをレポートし、間違って開いてしまうことを防止します。

- ***不適切なファイルパス*** - 一部の重要なシステムファイルが既定以外のパスで実行中の場合（*例 :Windows フォルダ以外で実行中の winlogon.exe*）、AVG はこの不一致を報告します。一部の場合、ウイルスは標準システムプロセス名を使用し、システム内でその存在を目立たなくします。

- ***ロックしたファイル*** - 報告されたファイルはロックされるため、AVG がスキャンできません。これは通常一部のファイルが常にシステムによって使用されていることを意味しています *例 :スワップファイル*）。

12.8. ウイルス隔離室



ウイルス隔離室は、AVGスキャン中に検出された不審なオブジェクトまたは感染したオブジェクトを管理する安全な環境です。スキャン中に感染したオブジェクトが検出され、AVG で自動的に修復できない場合、この不審なオブジェクトの処理方法を決定するための画面が表示されます。推奨される解決方法は、このオブジェクトを***ウイルス隔離室***に移動することです。***ウイルス隔離室***の主な目的は、削除されたファイルを一定期間保存しておき、そのファイルが元の場所で必要がないものであることを確認できるようにすることです。ファイルが存在しないことによって問題が発生する場合は、問題のファイルを分析に送信したり、元の場所に復元したりできます。

ウイルス隔離室インターフェースは別ウィンドウで開き、隔離された感染オブジェクトに関する情報概要が表示されます。

- ***重要度*** - 感染タイプ (*感染レベルに基づいて表示されます。一覧のすべてのオブジェクトは*

明らかに感染しているか感染している可能性があります)。

- ***ウィルス名*** - ***ウィルス エンサイクロペディア*** (オンライン) に従って、検出された感染名を指定します。
- ***ファイル パス***- 検出された感染ファイルへの完全パス
- ***元のオブジェクト名*** - 一覧表示されているすべての検出されたオブジェクトは、スキャン処理中に AVG によって指定される標準名で表示されます。オブジェクトに既知の特定の元の名前があった場合 (*例: 添付ファイルの実際の内容に対応しないメール添付ファイル名*)、この名前がこの列に表示されます。
- ***保存日***- 不審なファイルが検出され、***ウイルス隔離室***

コントロール ボタン

ウイルス隔離室インターフェースでは次のコントロール ボタンが利用できます。

- ***復元***- 感染ファイルをディスク上の元の場所に復元します。
- ***元の名前で復元***- 検出された感染オブジェクトを***ウイルス隔離室***から選択したフォルダに移動する場合は、このボタンを使用します。検出された不審なオブジェクトは元の名前で保存されます。元の名前がわからない場合は、標準名が使用されます。
- ***削除***- 感染ファイルを***ウイルス隔離室***から完全に削除します。元に戻すことはできません。
- ***空にする*** - すべての***ウイルス隔離室***内のファイルを完全に削除します。***ウイルス隔離室***から削除するとファイルはディスクから削除されるため、元に戻すことはできません (*ごみ箱には移動されません*)。

13. AVG 更新

AVGを最新の状態に保つことはすべての新しいウイルスがすぐに検出されることを保証するうえで非常に重要です。

AVG 更新は定期的なスケジュールではリリースされませんが、新しい脅威の数と重要度を考えると、最低でも毎日新しいアップデートを確認することをお勧めします。この方法でのみ **AVG File Server 2011** が一日中最新の状態であることを保証できます。

13.1. 更新レベル

AVG は 2 つの選択可能な更新レベルを提供します。

- ***定義更新***には、信頼できるウイルス対策保護に必要な変更が含まれています。通常、コードの変更は含まれず、定義データベースのみを更新します。この更新が提供され次第、すぐに適用する必要があります。
- ***プログラム更新***には、各種プログラム変更、修正、改良点が含まれています。

更新をスケジュールするときには、ダウンロードと適用の優先レベルを選択できます。

メモ: *スケジュール プログラム更新の時間がスケジュール スキャンの時間と同じになった場合は、更新処理が最優先され、スキャンは中断されます。*

13.2. 更新タイプ

2 種類の更新があります。

- ***オンデマンド更新***は、必要に応じていつでも実行できる即時 AVG 更新です。
- ***スケジュール更新*** - AVG では更新計画を事前に設定することも可能です。スケジュール更新は設定に従って定期的に実行されます。新しい更新ファイルが特定の場所にある場合、インターネットから直接ダウンロードされます。あるいは、ネットワーク ディレクトリを介してダウンロードされます。新しい更新がない場合は何も実行されません。

13.3. 更新処理

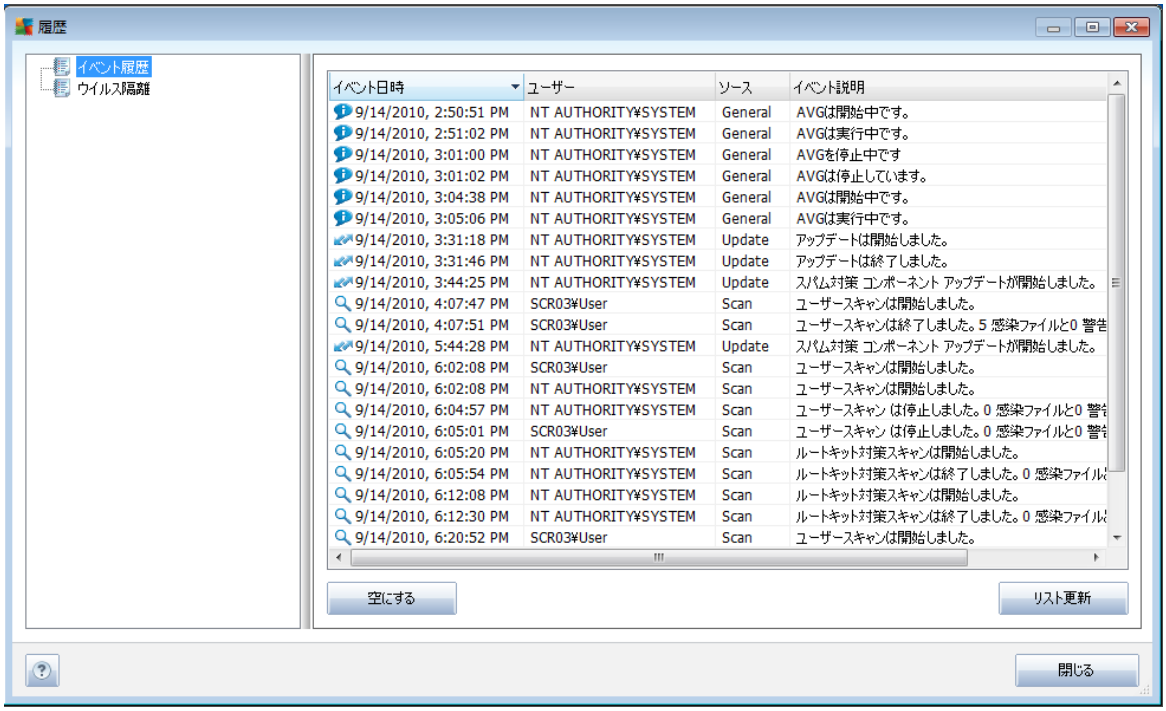
すぐにアップデートクイックリンクによって、アップデートプロセスをすぐに実行できます。このリンクは、AVG ユーザーインターフェースダイアログからいつでも使用可能です。ただし、アップデートマネージャコンポーネントのアップデートスケジュール編集で説明されているように、定期的にアップデートを実行することが強く推奨されます。

アップデートを開始すると、AVGはまず利用可能な新しいアップデートファイルがあるかどうかを確認します。この場合、AVGはダウンロードを開始し、アップデートプロセスが実行されます。アップデートプロセス中は、***アップデート***インターフェースにリダイレクトされます。ここでは、グラフィカルな表示や関連統計パラメータの概要で処理の状況を見ることができます（*アップデートファイルサイズ、受信データ、ダウンロード速度、経過時間等*）。

注意: *AVGプログラムアップデートの前に、システム復旧ポイントが作成されます。アップデートプロセスが失敗し、オペレーティングシステムがクラッシュする場合には、必ずこのポイントから元のコンフィグレーションでOSを復旧できます。このオプションは、スタート/ プログラム/ アクセサリ/ システムツール/ システムの復*

元 からアクセスできますが、上 級 ユーザーのみが変 更 を行 うことをお勧 めします。

14. イベント履歴



[***イベント履歴***] ダイアログには、システム メニューの [履歴 / イベント履歴ログ] 項目からアクセスできます。このダイアログでは、**AVG File Server 2011** 動作中に発生した重要なイベントの概要を確認できます。***履歴***には次の種類のイベントが記録されます。

- AVG アプリケーションの更新情報
- スキャンの開始、終了、停止 (*自動実行スキャンを含む*)
- 発生場所などウィルス検出に関連するイベント (*常駐シールド*または*スキャン*)
- 他の重要イベント

イベントごとに次の情報が一覧表示されます。

- ***イベント日時***は正確なイベント発生日時です。
- ***ユーザー***はイベントを開始したユーザーです。
- ***ソース***はイベントのトリガーとなったソース コンポーネントまたは AVG システムの一部です。
- ***イベント説明***は実際の動作の簡単な概要です。

コントロールボタン

AVG File Server 2011 c 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

- ***空にする*** - すべてのイベントリストエントリを削除します
- ***リスト更新*** - イベントリストエントリをすべて更新します

15. FAQ とテクニカル サポート

AVG に関する問題がある場合は、ビジネスの場合でも技術的な場合でも、AVG ウェブサイトの ***FAQ*** セクション (http://www.avg.com) を参照してください。

この方法でヘルプが見つからない場合は、電子メールでテクニカルサポート部門までお問い合わせください。システム メニューの***ヘルプ オンライン ヘルプ***より、お問い合わせフォームをご利用ください。

AVG File Server 2011 © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.